教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書

（令和元年度実績）

名護市教育委員会

目　次　–Contents–

Ⅰ　点検・評価制度の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

1　実施根拠
2　目的
3　対象事業の考え方
4　名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会の設置
5　評価方法

Ⅱ　教育委員会の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

1　教育委員会教育委員（令和２年９月１日現在）　・・・・・・・・・・・・・・　2
2　教育委員会の開催状況（令和元年度）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
3　教育委員会教育委員の主な活動（令和元年度）　・・・・・・・・・・・・・・　5
4　教育長の主な活動（令和元年度）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

Ⅲ　第３次名護市教育振興基本計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

Ⅳ　令和２年度（令和元年度実績）点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・　19

1　総合評価一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
2　点検・評価シート（施策別）

Ⅰ－1－(1)　学力向上の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
Ⅰ－1－(2)　豊かな心と健やかな体を育む教育の推進　・・・・・・・・・・・・・　22
Ⅰ－1－(3)　特別支援教育の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
Ⅰ－1－(4)　国際社会に対応できる人材の育成　・・・・・・・・・・・・・・・　25
Ⅰ－1－(5)　幼児教育の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
Ⅰ－2－(1)　環境整備の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
Ⅰ－2－(2)　学校支援の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
Ⅰ－2－(3)　学校給食の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
Ⅱ－1－(1)　文化財の保存及び普及・活用　・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
Ⅱ－1－(2)　市民の市史づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36
Ⅱ－1－(3)　新博物館建設と博物館活動の充実　・・・・・・・・・・・・・・・　37
Ⅱ－2－(1)　市民に開かれた利用しやすい図書館運営　・・・・・・・・・・・・・　39
Ⅱ－2－(2)　全市域の市民へ公平なサービスの提供　・・・・・・・・・・・・・　41
Ⅱ－3－(1)　芸術文化の振興　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　42
Ⅱ－3－(2)　芸術文化活動担い手支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
Ⅱ－3－(3)　市民会館の管理・運営の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
Ⅱ－4－(1)　中央公民館の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
Ⅱ－5－(1)　生涯スポーツの充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
Ⅱ－5－(2)　夢を育む競技スポーツの推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
Ⅱ－5－(3)　スポーツ施設の整備拡充　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
Ⅲ－1－(1)　青少年の健全育成に向けた取組の充実　・・・・・・・・・・・・・　52
Ⅲ－1－(2)　家庭・地域の教育力向上の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・　54
Ⅲ－1－(3)　社会教育団体の活性化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56

Ⅴ　用語一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59

Ⅰ　点検・評価制度の概要

1　実施根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「法」という。）第 26 条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられている。

2　目的

教育委員会は、首長から独立した合議制の組織であり、生涯学習、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等の幅広い教育行政における基本方針を決定し、それに基づいて教育長が事務局を指揮監督し具体の事務を執行するものである。

本報告書は、上記基本方針に基づいて行われた教育行政の執行状況について、点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、地域住民への説明責任を果たすことを目的としている。

3　対象事業の考え方

今回の点検・評価は、令和元年度事業とし、第２次名護市教育振興基本計画（平成 26 年度～31 年度）の成果と課題を検証し、新たに策定された「第３次名護市教育振興基本計画（令和２年度～６年度)」への移行を円滑にするため、第３次名護市教育振興基本計画に掲げる具体的施策ごとに位置づけられている主な取組について対象とした。

4　名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会の設置

点検・評価を行うに当たって、法第 26 条第２項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図るため、名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置した。

なお、懇話会会員の委嘱に当たっては、学校教育、社会教育及び教育行政分野の識見を有する方を以下のとおり選任する。

氏名	職名等
眞喜志　隆　氏	沖縄工業高等専門学校教授
太田　佐栄子　氏	株式会社スプリングナレッジラボ職員
大城　覚　氏	公立大学法人名桜大学　北部教育研修センター特命准教授

5　評価方法

評価は教育委員会による内部評価と懇話会による外部評価を設け、評価基準については次のとおりとした。

評価	評価の基準
A	計画に対する取組が十分できている
B	計画に対する取組が概ねできている
C	計画に対する取組が不十分である
D	計画に対する取組ができていない

Ⅱ　教育委員会の活動状況

1　教育委員会教育委員（令和２年９月１日現在）

役職	氏名	任期
教育長	岸本　敏孝	自　平成 31 年2月1日 至　令和4年1月 31 日
教育長 職務代理者	大城　千代子	自　平成 29 年7月1日 至　令和3年6月 30 日
委員	照屋　厚	自　平成 30 年7月　1日 至　令和4年6月 30 日
委員	大城　享	自　令和2年2月1日 至　令和6年1月 31 日
委員	宮城　惠次	自　令和2年7月9日 至　令和6年7月8日

2　教育委員会の開催状況（令和元年度）

291 定例会	H31.4.24	議案第14号	名護市教育支援委員の委嘱について	承認
		報告第4号	平成31年度名護市学校給食センター予算（給食費予算）の報告について	承認
		報告第5号	名護市学校給食費の日額改定の報告について	承認
		報告第6号	車両事故に関する和解及び損害賠償の額の決定に係る専決処分事項の報告について	承認
		その他	平成31年度学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について（報告）	
		その他	名護市総合教育会議における協議事項（重点施策）について	
		その他	名護学校給食センターが提供する学校給食への異物混入について	
360 臨時会	R1.5.21	議案第15号	令和元年度名護市一般会計補正予算（教育費予算（補正第1号））の要求について	承認
		議案第16号	土地の購入について（名護・やんばるの自然と文化拠点施設整備事業）	承認
		議案第17号	名護市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	承認
		議案第18号	名護市スポーツ推進委員の委嘱について	承認
292 定例会	R1.6.21	議案第19号	名護市給付型奨学金制度の創設について	承認
		議案第20号	名護市学校給食センター運営委員の委嘱について	承認
361 臨時会	R1.7.17	議案第21号	名護市学校給食センター運営委員の委嘱について	承認
		議案第22号	令和2年度使用教科用図書の採択について	承認
		議案第23号	名護市運動部活動等の在り方に関する方針について	承認

		報告第7号	名護市教育支援委員の委嘱に係る専決処分事項の報告について	承認
		報告第8号	平成30年度名護市学校給食センター決算の報告について	承認
293 定例会	R1.8.23	議案第24号	令和元年度名護市一般会計補正予算（教育費予算（補正第2号））の要求について	承認
		議案第25号	名護市学校給食センター管理規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第26号	名護市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第27号	名護市立幼稚園複数年教育・保育の試行実施期間の延長について	承認
		議案第28号	バスケットリング購入のための物品売買契約について	承認
		議案第29号	名護市スポーツ推進委員の委嘱について	承認
		その他	名護市運動部活動等の在り方に関する方針について	
362 臨時会	R1.9.24	議案第30号	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書（平成30年度）について	承認
		その他	名護市教育の日の式典及びイベント等の今後の在り方について	
		その他	教育委員における各種学校行事への参加について	
294 定例会	R1.10.28	報告第9号	名護市教育の日の式典及びイベント等の今後の在り方について	承認
363 臨時会	R1.11.21	議案第31号	令和元年度名護市一般会計補正予算（教育費予算（補正第3号））の要求について	承認
		報告第10号	車両事故に関する和解及び損害賠償の額の決定に係る専決処分事項の報告について	承認
		その他	第3次名護市教育振興基本計画（案）について	
295 定例会	R1.12.20	議案第32号	令和元年度名護市教育功労者の承認について	承認
		議案第33号	名護市スポーツ推進委員の委嘱について	承認
		報告第11号	指定管理者の指定に係る専決処分事項の報告について（名護市B＆G海洋センタープール）	承認
		報告第12号	指定管理者の指定に係る専決処分事項の報告について（名護市陸上競技場、21 世紀の森体育館及び名護市真喜屋運動広場）	承認
		その他	成年年齢の引き下げに伴う令和５年(2023 年)名護市成人式典の開催方法の検討について	
		その他	総合教育会議における協議事項について	
296 定例会	R2.2.18	議案第1号	名護市教育委員会教育長職務代理者の指名及び事務委任等に関する規則の制定について	承認

		議案第2号	令和2年度名護市教育委員会重点施策の策定について	承認
		議案第3号	令和2年度県費負担教職員定期人事異動（管理職・一般）の内申について	承認
		議案第4号	令和2年度教育委員会組織編成方針について	承認
		議案第5号	令和2年度教育委員会人事異動方針について	承認
364 臨時会	R2.2.25	議案第6号	令和2年度名護市一般会計教育費予算について	承認
		議案第7号	令和元年度名護市一般会計補正予算（教育費予算（補正第5号））の要求について	承認
		議案第8号	第3次名護市教育振興基本計画の策定について	承認
		議案第9号	令和2年度名護市立幼稚園の休園について	承認
		議案第10号	令和2年度県費負担教職員定期人事異動（新規採用・再任用）の内申について	承認
		報告第1号	名護市教育委員会教育長職務代理者の指名について	承認
		報告第2号	屋部中学校校舎新築工事請負契約の契約金額を変更する契約に係る専決処分事項の報告について	承認
		報告第3号	名護市学校給食費（食材費）納付に係る引き落とし手数料改定の報告について	承認
		その他	名護市教育大綱（令和2年度～令和6年度）の策定について	
365 臨時会	R2.3.10	議案第11号	名護市教育委員会の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第12号	名護市教育委員会事務局職員の職の設置規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第13号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係教育委員会規則の整備に関する規則の制定について	承認
		議案第14号	名護市教育委員会会計年度任用職員に関する規則の制定について	承認
		議案第15号	名護市立学校職員服務規程の一部を改正する規程の制定について	承認
		議案第16号	令和2年度学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について	承認
		議案第17号	名護市スポーツ推進委員の委嘱について	承認
		議案第18号	令和2年度4月定期人事異動について	承認
		報告第4号	新型コロナウイルス感染症への対応について	承認
		その他	名護市教育情報化推進計画（令和2年度～令和4年度）の策定について	

366 臨時会	R2.3.25	議案第19号	名護市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について	承認
		議案第20号	市指定文化財の指定解除について	承認
		議案第21号	名護市教育情報化推進計画（令和2年度～令和4年度）の策定について	承認
		その他	中央図書館における祝日閉館試行の報告について	

3　教育委員会教育委員の主な活動（令和元年度）

月　日	活動内容
4 月 17 日	平成 31 年度　第1回小・中校長研修会
4 月 24 日	第 291 回教育委員会定例会
4 月 26 日	平成 31 年度国頭地区教育委員会協議会総会
5 月 14 日	教育委員学校訪問（屋我地ひるぎ学園）
5 月 21 日	第 360 回教育委員会臨時会
5 月 23 日	教育委員学校訪問（安和小学校）
5 月 28 日	教育委員学校訪問（名護中学校）
5 月 30 日	第 64 回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会
5 月 31 日	第 64 回沖縄県市町村教育委員会連合会研修会
6 月 4 日	教育委員学校訪問（東江小学校）
6 月 11 日	教育委員学校訪問（大宮小学校）
6 月 21 日	第 292 回教育員会定例会
7 月 2 日	教育委員学校訪問（羽地中学校）
7 月 9 日	第1回名護市教育行政点検・評価に係る懇話会
7 月 17 日	第 361 回教育委員会臨時会
7 月 18 日	第2回名護市教育行政点検・評価に係る懇話会
7 月 24 日	名護市中学生海外短期留学派遣者激励会
7 月 30 日	第3回名護市教育行政点検・評価に係る懇話会
8 月 23 日	第 293 回教育委員会定例会
9 月 25 日	第 362 回教育委員会臨時会
10 月 1 日	名護市教育研究所研究員入所式
10 月 23 日	沖縄県市町村教育委員会研修会

10 月 24 日	第 27 回名護市小・中学校童話・お話・意見発表大会
10 月 28 日	名護市中学生海外短期留学派遣者報告会
	第 294 回教育委員会定例会
11 月 15 日	国頭地区市町村教育委員会協議会研修会
11 月 17 日	国頭地区中学校総合文化祭、第 51 回国頭地区中学校音楽発表会
11 月 21 日	第 363 回教育委員会臨時会
12 月 20 日	第 295 回教育委員会定例会
12 月 24 日	名護市総合教育会議
令和2年 1月 18 日	名護市教育の日表彰式
1 月 30 日	令和元年度　市町村教育委員会教育長・教育委員研修会
2 月 18 日	名護市給付型奨学金審査会
	第 296 回教育委員会定例会
2 月 25 日	第 364 回教育委員会臨時会
3 月 10 日	第 365 回教育委員会臨時会
3 月 25 日	第 366 回教育委員会臨時会

4　教育長の主な活動（令和元年度）

月　日	事業名
4 月 1 日	教育委員会辞令交付式
	市長部局辞令交付式
	平成 31 年度管理職人事異動辞令交付式
4 月 3 日	子ども夢基金寄付金贈呈（北部建設コンサルタント業協会）
4 月 4 日	平成 31 年度名桜大学入学式
	新1年生への交通安全お守り贈呈式（婦人会）
4 月 5 日	ランドセルカバー贈呈式
4 月 6 日	【市長代理】第6回JAおきなわSS杯争奪学童軟式野球大会
4 月 8 日	【市長・教育長表敬】アマチュアキックボクシング大会チャンピオン獲得報告（東江中学校）
4 月 12 日	【教育長表敬】名護商工高等学校校長・教頭来庁
4 月 15 日	辞令交付（復職・異動）
4 月 16 日	平成 31 年度全国高等学校総合体育大会名護市実行委員会第2回総会
	沖縄地区史跡整備市町村協議会会計監査

4 月 17 日	第1回市小・中校長研修会
4 月 19 日	名護市育英会審査会
	第1回幼稚園長・教頭・教諭研修会
	【市長・教育長表敬】少年野球（名護すいらんマーリンズ）優勝報告
4 月 20 日	名護市婦人会定期総会
	名護市サッカー協会　第 26 回定期総会
4 月 22 日	人命救助表彰
4 月 23 日	【教育長表敬】県職員来庁
	第1回市町村教育委員会教育長連絡協議会
4 月 24 日	第 291 回名護市教育委員会定例会
	【教育長表敬】退職校長会来庁
4 月 25 日	【教育長表敬】県平和資料館長来庁
	北部地域の道路網の整備促進並びに離島架橋の早期実現に向けた決起大会
	市小中教頭研修会・学校事務研修会
4 月 26 日	名護市更生保護女性会定期総会
	平成 31 年度国頭地区市町村教育委員会協議会総会
5 月 4 日	第 26 回羽地ダム鯉のぼり祭りオープニングセレモニー
5 月 8 日	2019 Rock Dynamics Summit in Okinawa
	【教育長表敬】北部教育研修センター新城敦講師来庁
5 月 10 日	春の全国交通安全運動出発式
	平成 31 年度青少年育成協議会定期総会
5 月 11 日	名護市ミニバスケットボール大会
5 月 14 日	かもめ～る事業説明
	教育委員学校訪問（屋我地ひるぎ学園）
5 月 15 日	国頭地区学力向上推進委員会・総会
	名護市こども会育成連絡協議会定期総会
5 月 16 日	市学推企画・運営委員会・各部会
	【市長・教育長表敬】大北小学校
5 月 17 日	平成 31 年度沖縄地区史跡整備市町村協議会役員会
5 月 18 日	名護市ワラビンピック
5 月 20 日	【市長・教育長表敬】ドリームレーサーカップ優勝報告
	【教育長表敬】市校長会来庁
5 月 21 日	第 360 回名護市教育委員会臨時会

5 月 22 日	第 71 回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会富山大会（～25 日）
5 月 26 日	第 14 回やんばる卓球選手権大会
	屋部小学校・中山分校・幼稚園　運動会
5 月 28 日	教育委員学校訪問（名護中学校）
	大北小学校学校運営協議会（委嘱状公布）
5 月 29 日	教職員評価システム当初面談（校長）
	第1回教科用図書国頭採択地区協議会
5 月 30 日	第 64 回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会
5 月 31 日	第 64 回沖縄県市町村教育委員会連合会研修会
	第 43 回沖縄地区史跡整備市町村協議会大会
6 月 3 日	第1回教科書研究委員会
6 月 4 日	教職員評価システム当初面談（校長）
	教育委員学校訪問（東江小学校）
6 月 5 日	教職員評価システム当初面談（校長）
6 月 6 日	教職員評価システム当初面談（校長）
	平成 31 年度名護市租税教育推進協議会定期総会
6 月 7 日	【市長・教育長表敬】名護さくらガールズ来庁
6 月 8 日	第 25 回高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦出発式
6 月 10 日	第1回名護市市制50周年記念事業推進本部
6 月 11 日	教育委員学校訪問（大宮小学校）
6 月 13 日	第 195 回定例会　議案説明
6 月 14 日	平和を紡ぐ音楽と朗読の夕べ
6 月 16 日	第 43 回運動会（東江中学校）
	第 48 回運動会（久辺中学校）
6 月 17 日	第 195 回定例会　議案質疑
6 月 18 日	第 195 回定例会　一般質問
	対日理解促進交流プログラム「カケハシプロジェクト」派遣学生報告会
6 月 19 日	第 195 回定例会　一般質問
6 月 20 日	第 195 回定例会　一般質問
	平和祈願祭
6 月 21 日	第 195 回定例会　一般質問
	【教育長表敬】ヒューマンキャンパス校長来庁
	第 292 回名護市教育委員会定例会
6 月 22 日	第 103 回国頭地区ミニバスケットボール交歓会

6 月 24 日	第 195 回定例会　一般質問
	第 58 回新旧役員交代式及び新会員入会式（名護ライオンズクラブ）
6 月 25 日	第 195 回定例会　一般質問
6 月 26 日	第 195 回定例会　一般質問
6 月 27 日	第 195 回定例会　一般質問・追加議案
	名護市建設工事・委託業務事業説明会及び意見交換会
6 月 28 日	名護市育英会総会
	第 46 回名護・滝川児童交歓会歓迎レセプション
6 月 30 日	第 34 回沖縄県自転車競技選手権大会、第 30 回屋我地サイクルロードレース大会
7 月 2 日	第 195 回定例会　追加議案審議
	教育委員学校訪問（羽地中学校）
7 月 3 日	市小中校長研修会
	【教育長表敬】沖縄銀行支店長来庁
	令和元年度青少年の深夜はいかい防止等名護市民大会
7 月 5 日	市校長会　要望回答
	「なごの日」オープニングセレモニー
7 月 6 日	第 44 回名護市幼少年剣道大会
7 月 7 日	第 24 回名護市PTAバレーボール大会
7 月 8 日	第3回名護市市制50周年記念事業実行委員会
7 月 9 日	第1回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
	【市長・教育長表敬】名護ドリームアタッカーズ来庁
7 月 12 日	第 39 回名護市少年の主張大会
7 月 13 日	名護市婦人会交流会
7 月 16 日	第2回教科用図書国頭採択地区協議会
7 月 17 日	第 361 回名護市教育委員会臨時会
7 月 18 日	第2回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
7 月 19 日	【市長・教育長表敬】新里直子琉舞道場来庁
7 月 22 日	【市長・教育長表敬】名護高等学校長来庁
7 月 23 日	【教育長表敬】立命館大学教授来庁
	【市長・教育長表敬】屋我地ひるぎ学園
7 月 24 日	名護市中学生海外短期留学派遣者激励会
	市校長会、県立高等学校長との懇親会
7 月 25 日	名護市育英会審査会
7 月 26 日	第 289 回臨時会

	沖縄県都市教育長協議会
7 月 27 日	児童オリンピックバレーボール大会
	名護夏祭り夜間街頭指導活動出発式
7 月 29 日	高校総体ロード開会式
	沖縄県理科教育協会
	【市長・教育長表敬】金秀グループ来庁
7 月 30 日	【市長・教育長表敬】名護中学校来庁
	第3回名護市教育行政点検・評価に係る学識経験者懇話会
8 月 1 日	市中学生海外短期留学出発式
	辞令交付式
	永年勤続職員表彰
	日本郵便との包括協定締結式
8 月 2 日	高校総体ロード閉会式
8 月 3 日	ヒューマンキャンパス高等学校　学校創立5周年記念式典・祝賀会
8 月 5 日	名護地区安全なまちづくり推進協議会総会
8 月 8 日	【教育長表敬】沖縄防衛局関係職員来庁
	高校総体空手開会式
8 月 10 日	名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科・看護学科、中学校・高校交流会
8 月 11 日	高校総体空手閉会式
8 月 16 日	旧七月村踊り（辺野古区）
8 月 20 日	宿道の現場確認
8 月 21 日	全日本花いっぱい名護大会実行委員会
	公立学校法人名桜大学と北部広域市町村圏事務組合との懇談会及び懇親会
8 月 22 日	【市長・教育長表敬】宮城陽氏来庁
	名護・やんばるツーデーマーチ実行委員会
	第 196 回定例会　議案説明
8 月 23 日	【市長・教育長表敬】沖縄県教頭会来庁
	第 293 回名護市教育委員会定例会
	金秀グループ寄附金贈呈式（名護市育英会）
8 月 25 日	第2回しまくとぅば語やびら北部地区大会
8 月 30 日	第3次教育振興基本計画　第1回策定委員会
8 月 31 日	第8回名護市空手道選手権大会（兼第 47 回名護市球技武道大会空手競技）
9 月 1 日	聖火宿泊記念第 55 回久志駅伝大会・第 53 回久志 20km ロードレース大会

9 月 2 日	【市長・教育長表敬】名護市キャリア教育特別講演会　講演者（松山洋氏）来庁
9 月 3 日	【市長・教育長表敬】名護市青年ネットワーク連合会来庁
	【市長・教育長表敬】沖縄県小・中学校長会表敬訪問
	NAGOハーフマラソン実行委員会
9 月 4 日	名護市食鳥処理施設落成式典
9 月 5 日	第 196 回定例会　議案説明
9 月 6 日	市学推企画・運営委員会並びに学校教育部会
	屋部区八月踊り
9 月 7 日	沖縄県ミニバスケットボール３×３大会（国頭地区予選）
	真喜屋区豊年祭
9 月 8 日	子ども×伝統芸能公演
	中山区豊年祭
	山入端区豊年祭
9 月 9 日	第 196 回定例会　議案質疑
	数久田区豊年祭
9 月 10 日	第 196 回定例会　議案質疑
9 月 11 日	第 196 回定例会　一般質問
	幸喜区豊年祭
9 月 12 日	第 196 回定例会　一般質問
9 月 13 日	第 196 回定例会　一般質問
	名護市海外移住者子弟等研修生歓迎会
9 月 14 日	沖縄県中学校対抗団体戦卓球大会
	呉我区豊年祭
9 月 15 日	東江小学校大運動会
9 月 17 日	第 196 回定例会　一般質問
9 月 18 日	【教育長表敬】箱山教育次長、入江准教授来庁
	第 196 回定例会　一般質問
9 月 19 日	第 196 回定例会　一般質問
9 月 20 日	第 196 回定例会　一般質問・追加議案
9 月 24 日	【教育長表敬】野村流音楽協会来庁
9 月 25 日	第 362 回名護市教育委員会臨時会
9 月 26 日	【教育長表敬】池間氏来庁
	令和元年度定時制課程第 61 回前期卒業式（北部農林高等学校）
9 月 27 日	高齢叙勲伝達式

	名護市管工事業協同組合　創立四十周年記念式典・祝賀会
9 月 28 日	第 46 回国頭地区中学校陸上競技大会
	第5回宮古民謡大会 in やんばる
	第 30 回名護市青年エイサー祭り
9 月 29 日	名護高等学校体育祭
	久辺小学校運動会
9 月 30 日	第5回名護市総合計画策定委員会
10 月 1 日	【市長・教育長表敬】長山議員
	第 46 期教育研究員入所式
10 月 3 日	【教育長表敬】家庭倫理の会（名護市）来庁
10 月 5 日	【市長代理】第 15 回名護市長杯争奪ミニバスケットボール大会
10 月 6 日	第 48 回名護市南陸上競技大会
	第 48 回名護市北支部陸上競技大会
	名護特別支援学校第 34 回運動会
10 月 8 日	人事評価制度　管理監督職導入研修
10 月 9 日	第 33 回九州都市教育長協議会定期総会並びに研究大会（宮崎県）（～11 日）
10 月 12 日	大兼久豊年祭
10 月 14 日	安和区ウシデーク
10 月 15 日	「名護市における情報化に関するICT連携協定」締結式
	幼稚園会（市立幼稚園）との情報交換会
	名護ライオンズクラブ観月会
10 月 16 日	教育長・人事学務担当者会
	第3回市町村教育委員会教育長連絡協議会
10 月 18 日	【市長・教育長表敬】沖縄工業高等専門学校来庁
10 月 20 日	【市長代理】第 39 回屋部支部老人・婦人合同運動会
	第4回名護商工体育祭
10 月 21 日	第6回名護市総合計画策定委員会
	市制 50 周年記念事業推進本部
10 月 23 日	沖縄県市町村教育委員会研修会
10 月 24 日	第3次教育振興基本計画　第2回策定委員会
	第 27 回名護市童話・お話・意見発表大会
10 月 25 日	第3回市小・中校長研修会
10 月 27 日	大宮小学校運動会
	名護小学校運動会

	「伊差川世瑞先生之像」除幕式・祝賀交流会
10 月 28 日	海外短期留学帰国報告会
	第 294 回名護市教育委員会定例会
	緑風学園 CS 意見交換会
10 月 29 日	国頭地区教育長部会県外視察研修（佐賀・熊本県）（～31 日）
11 月 1 日	第 46 回「やんばる展」オープニングセレモニー
11 月 2 日	うみのほし幼稚園運動会
11 月 4 日	コロイド及び界面化学討論会　第 70 回記念国際会議
11 月 6 日	B&G 全国教育長会議（東京都）（～7日）
11 月 8 日	教職員評価システム校長面談（中間）及び人事ヒアリング
	第 31 回「ツール・ド・おきなわ 2019」レセプションパーティー
11 月 9 日	第 31 回「ツール・ド・おきなわ 2019」 伊平屋島サイクリング・一輪車競技大会
11 月 10 日	第 31 回「ツール・ド・おきなわ 2019」 表彰式典
11 月 11 日	教職員評価システム校長面談（中間）及び人事ヒアリング
	第 71 回沖縄県民体育大会　名護市選手団の結団式及びスポーツ交流会
11 月 12 日	教職員評価システム校長面談（中間）及び人事ヒアリング
	教育長講話（教育研究員対象）
11 月 13 日	教職員評価システム校長面談（中間）及び人事ヒアリング
	【教育長表敬】名護ロータリークラブ来庁
11 月 14 日	沖縄県小・中学校長研究大会国頭大会
	【教育長表敬】府中市教育委員会来庁
11 月 15 日	国頭地区市町村教育委員会協議会
11 月 16 日	県外出張（館林産業祭）（～18 日）
11 月 20 日	令和2年度定期人事異動に係る教育長ヒアリング
11 月 21 日	【市長・教育長表敬】うみのほし幼稚園園児来庁
	第 53 回沖縄県公立小中学校教頭研究大会（国頭大会）
	第 363 回名護市教育委員会臨時会
11 月 22 日	第 197 回定例会　議案説明会
11 月 26 日	令和元年度善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰式典
11 月 28 日	【教育長表敬】沖縄県教頭会来庁
	国頭地区市町村教育委員会協議会　教育長部会
	いじめ問題専門委員会
11 月 29 日	第 41 回沖縄県理科教育研究大会（国頭大会）
	新垣産業 70 周年記念式典及び新垣会長 85 歳トゥシビー祝い

12 月 2 日	【市長同席】沖縄労働局　職業安定部長来庁
12 月 3 日	【市長・教育長表敬】名護高等学校来庁
12 月 4 日	名護市教育情報化推進委員会
12 月 5 日	第 197 回定例会　議案説明
12 月 6 日	沖縄県軍用地等地主会連合会　寄附金贈呈式(名護市育英会)
	名護市区長会・公民館連絡協議会忘年会
12 月 7 日	名護・やんばるツーデーマーチ　3kmコース出発式・ウォーカーふれあいパーティー
	第 30 回農業祭(北部農林高等学校)
12 月 8 日	第 40 回北部地区小中学生珠算競技大会
12 月 9 日	第 197 回定例会　議案質疑
12 月 10 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 11 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 12 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 13 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 15 日	第 43 回全国育樹祭式典
12 月 16 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 17 日	第 197 回定例会　一般質問
12 月 18 日	第 197 回定例会　一般質問・追加議案
12 月 19 日	【市長同席】全国珠算教育連盟沖縄県北部地区　首里城再建募金贈呈式
	【教育長表敬】沖縄県防衛局企画部次長来庁
12 月 20 日	年末年始総合警戒及び年末年始交通安全県民運動出発式
	第 295 回教育委員会定例会
12 月 23 日	第 197 回名護市議会定例会　追加議案・議案審議
12 月 24 日	名護市総合教育会議
12 月 27 日	市長訓示・教育長訓示
1 月 6 日	市長訓示・教育長訓示
	新年安全祈願
	令和2年名護市新春の集い
1 月 10 日	名護市消防出初式　式典
1 月 11 日	辺野古区生年合同祝
1 月 12 日	令和2年名護市成人式
1 月 14 日	国・県出先機関の長及び関係団体等と北部市町村との新年会
1 月 15 日	【市長・教育長表敬】東江小学校児童来庁
1 月 17 日	文化財防火デー

	【教育長表敬】B&G 海洋センタープール指定管理者来庁
1 月 18 日	名護市教育の日　教育功労者・児童生徒等表彰式
1 月 19 日	NAGO ハーフマラソン開会式
1 月 21 日	【市長代理】第 12 回　B&G 全国サミット（～22 日）
1 月 23 日	市学推企画・運営委員会
1 月 24 日	沖縄県都市教育長協議会第2回会議
	第 46 代名護さくらの女王発表・祝賀会
	友好都市歓迎交流会
1 月 25 日	名護さくら祭り　オープニングセレモニー
	友好都市歓迎昼食会
	名護さくら祭り　オープニングパレード
	名護市営球場落成記念式典及び祝賀会
	八幡平市歓迎交流会
	名護さくら祭り夜間街頭指導活動出発式
1 月 28 日	宮城博教育委員　退任激励会
1 月 30 日	市小中校長研修会
	令和元年度市町村教育委員会教育長・教育委員研修会
2 月 3 日	第4回市町村教育委員会教育長等連絡協議会
	大城享教育委員　辞令交付式
2 月 4 日	人事評価制度管理監督職導入研修
2 月 6 日	教職員システムに係る校長面談（最終）
2 月 7 日	教職員システムに係る校長面談（最終）
	【市長・教育長表敬】大宮小学校児童来庁
2 月 8 日	第 30 回名護市文化祭オープニングセレモニー
	国頭地区学力向上推進委員会実践報告会
2 月 10 日	教職員システムに係る校長面談（最終）
2 月 12 日	第 46 回名護・滝川児童交歓会　壮行会
2 月 13 日	第 198 回名護市議会定例会　議案説明会
2 月 14 日	子ども夢基金寄附金贈呈式
	教職員定期人事異動一般内示
	教職員定期人事異動一般内示（市）
2 月 16 日	令和元年度　ランドセル贈呈式
2 月 17 日	名護市議会臨時会
	名護市海外移住者子弟等研修生　修了式及び激励会

2 月 18 日	名護市給付型奨学金審査会
	第 296 回教育委員会定例会
2 月 19 日	教職員定期人事異動一般内示後の教育長ヒアリング
	第 15 回こども一万人の個展
2 月 21 日	教職員システムに係る校長面談（最終）
	【市長・教育長表敬】屋我地ひるぎ学園児童来庁
	北海道日本ハムファイターズ　2020 年キャンプ夕食会
2 月 25 日	第 364 回教育委員会臨時会
2 月 26 日	夢の教室（in 名護）
	市学推委員会総会
2 月 28 日	臨時校長会
3 月 3 日	【教育長表敬】兵庫教育大学當山教授来庁
	市教育情報化推進委員会
3 月 4 日	第 198 回定例会　施策方針上程
3 月 5 日	第 198 回定例会　議案上程
3 月 6 日	令和2年度教職員定期人事異動（管理職等）内示書交付式
3 月 9 日	【市長・教育長表敬】沖縄・名護ジュニアコーラス来庁
3 月 10 日	第 365 回教育委員会臨時会
3 月 11 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
	再任用選考委員会
3 月 12 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
3 月 13 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
3 月 16 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
	【教育長表敬】名護警察署長来庁
3 月 17 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
	名護湾沿岸基本構想　第4回庁内会議
3 月 18 日	第 198 回名護市定例会　一般質問
	児童生徒表彰（名護小学校児童）
3 月 19 日	第 198 回名護市定例会　追加議案
	第3回教育情報化推進委員会
3 月 23 日	第 198 回名護市定例会　議案質疑
3 月 24 日	第 198 回名護市定例会　議案質疑
3 月 25 日	第 366 回教育委員会臨時会
3 月 26 日	法的措置対象者選定委員会
3 月 27 日	教育研究所研究員終了報告

3 月 30 日	子ども夢基金寄附金贈呈
	防犯ブザー付 LED ライト寄贈式
3 月 31 日	令和元年度退職者辞令交付式
	辞令交付式(指導主事)
	退職者辞令交付式
	退職者離任式

第３次名護市教育振興基本計画

【基本理念】　学びに向かい　つながり　しなやかに未来を拓く

基本方針Ⅰ　豊かな学びを育む教育の推進

急速な技術革新やグローバル化の進展、社会構造の変化など予測困難な社会において、夢と志を持ち、未来を拓く「生きる力」を育むため、主体的に学び、他者と協働しながら新たな価値を創造し、たくましく生きる、心豊かで心身ともに健康な幼児・児童・生徒の育成を進めるための、学びを育む教育の推進に取り組みます。

基本方針Ⅱ　生涯を通じた多様な学びを支える環境づくりの推進

人生 100 年時代を見据え豊かな人生を送るため、世代、性別などにかかわらず多様な人々が生涯にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所において学び、一人一人が活躍できる環境づくりに取り組みます。

また、多様な学びを支える、学習・活動の拠点となる社会教育施設（公民館、博物館、図書館）の機能の充実や歴史文化・芸術活動及びスポーツ活動に親しむ環境づくりに取り組みます。

基本方針Ⅲ　学校・家庭・地域の連携・協働の推進

地域のつながりの希薄化や多様化する家庭環境に対し、子どもの育ちの基礎となる家庭教育を地域全体で支え、学校・家庭・地域がそれぞれ持つ役割を担い、互いに連携・協働できる環境づくりに取り組みます。

Ⅳ　令和２年度（令和元年度実績）点検・評価

１　総合評価一覧

基本方針	基本施策	頁	具体的施策	内部評価	外部評価
Ⅰ 豊かな学びを育む教育の推進	１学校教育内容の充実	P.20	(1)学力向上の推進	A	A
		P.22	(2)豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	B	B
		P.24	(3)特別支援教育の充実	A	A
		P.25	(4)国際社会に対応できる人材の育成	B	A
		P.26	(5)幼児教育の充実	B	A
	２学校教育環境の充実	P.28	(1)環境整備の充実	B	B
		P.29	(2)学校支援の充実	B	B
		P.32	(3)学校給食の充実	C	B
Ⅱ 生涯を通じた多様な学びを支える環境づくりの推進	１歴史文化の保存・活用	P.34	(1)文化財の保存及び普及・活用	B	A
		P.36	(2)市民の市史づくり	B	B
		P.37	(3)新博物館建設と博物館活動の充実	B	A
	２図書館機能の充実	P.39	(1)市民に開かれた利用しやすい図書館運営	B	B
		P.41	(2)全市域の市民へ公平なサービスの提供	B	B
	３芸術文化活動の充実	P.42	(1)芸術文化の振興	A	A
		P.44	(2)芸術文化活動担い手支援	B	B
		P.46	(3)市民会館の管理・運営の充実	B	B
	４公民館活動の充実	P.47	(1)中央公民館の充実	B	B
	５スポーツ・レクリエーション活動の充実	P.49	(1)生涯スポーツの充実	B	A
		P.50	(2)夢を育む競技スポーツの推進	A	A
		P.51	(3)スポーツ施設の整備拡充	B	B
Ⅲ 学校･家庭･地域の連携･協働の推進	１家庭や地域の教育力の向上	P.52	(1)青少年の健全育成に向けた取組の充実	B	B
		P.54	(2)家庭・地域の教育力向上の推進	B	A
		P.56	(3)社会教育団体の活性化	B	B

具体的施策名	Ⅰ－１－(１) 学力向上の推進
主管課	学校教育課

現状･課題	授業力向上に向けた取組で、効果的な研修の実施、支援のあり方を検討する必要があります。また、全国学力学習状況調査においては、小学校では県平均を上回っており改善傾向が見られています。中学校においても一定の改善傾向が見られるものの、学力向上は大きな課題となっています。 「早寝早起き朝ご飯」運動は、児童生徒の基本的生活習慣の確立に寄与していますが、保護者が理解を深める取り組みが必要となっています。 教育機関との連携については、取組方法等について検討する必要があります。

			P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①学習指導の工夫・改善・充実	児童生徒一人一人の実態等を踏まえて、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導体制や指導方法の工夫・改善で授業力向上を目指し、各種研修会や研究指定校・研究グループ等の効果的な実施に取り組みます。 授業用ソフト（デジタル教科書等）や ICT 機器を活用した授業改善、新学習指導要領に対応した教育を推進するため、教員研修の充実に取り組みます。	（各種教科等研修会の実施） ・市道徳研修会、特活研修会（各小中で２回） ・市教育講演会（１回） ・市情報教育研修会（３回） ・管理職及びミドルリーダー研修会 ・市算数・数学研修会（１回） ・市国語研修会	（各種教科等研修会の実施） ・市道徳研修会、特活研修会（各小中で２回） ・市教育講演会（１回　國學院大学教授　杉田洋氏） ・市情報教育研修会（３回） ・管理職及びミドルリーダー研修会（講師：金武小校長　森元幹生氏） ・市算数・数学研修会（１回） ・市国語研修会	各種研修会や学校訪問等、計画的に実施することができた。 学校へのアンケート結果についても校内外の研修・研究会での成果を教育活動に反映させている結果となった。	A	【施策全体について】 ・目標値は十分達成に値している。 ・次回以降は、受講者の数を収集し、その結果をフィードバックしてほしい。目標にも反映してほしい。	・目的に沿った取り組みができている。 ・教育委員会として、様々な取り組みをしているのは評価できる。 教育委員会の施策を各学校の校長がしっかり理解し、職員へ伝えることが必要である。校長が課題意識を持ち、リーダーシップを発揮し、学校改善に取り組むことが求められる。	(各種教科等研修会の実施) ・市道徳研修会、特活研修会（各小中で２回） ・市教育講演会（１回） ・市情報教育研修会（３回） ・管理職及びミドルリーダー研修会 ・市算数・数学研修会（１回） ・市国語研修会
		令和６年度　目標値 校内外の研修・研究会での成果を教育活動に積極的に反映させている割合 【９６．３％】	令和元年度　目標値 【８９．９％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【９５．５％】 （２１校中２０校）					令和２年度　目標値 【９５．５％】
	②基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に向けて、「早寝早起き朝ご飯」運動を推進し、児童生徒の学習の基盤を育てる取組を行います。 家庭学習や読書の習慣化を図るために、「家庭学習チームシート*」の効果的な活用を推進するとともに、家庭と連携した読書活動を推進します。	・各小中学校へのパンフレット配布 ・家庭教育研修会・講演会での周知 ・学力向上推進の取組のひとつ「家庭学習チームシート」の活用（年２回の取組状況報告）	・各小中学校へのパンフレット配布 ・家庭教育研修会・講演会での周知 ・中学校区でとりまとめた「家庭学習チームシートの活用」についての取組状況報告を９月と２月に実施	取組については計画どおり実施できた。 取組状況報告によると、学校全体で共通理解の下、取り組んでいることや、８月に見直したことで２学期から全学年で共通実践できたという報告があった。 家庭学習が効果的になっているか、実証ができていないのが課題である。	A	【②について】 ・保護者への啓発はとても重要である。方策をどう展開するかが大事である。	・保護者をどう巻き込むのかが課題と考えるが、うまく巻き込む工夫が必要である。	・各小中学校へのパンフレット配布 ・家庭教育研修会・講演会での周知の充実 ・学力向上推進の取組のひとつ「家庭学習チームシート」活用の充実（年２回の取組状況報告）
		令和６年度　目標値 早寝早起きが習慣化している児童生徒の率 【８７．５％】	令和元年度　目標値 【８２．２％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【８５．５％以上】					令和２年度　目標値 【８５．５％以上】
	③中学校校区で連携した教育の推進	学びの一貫性と小学校から中学校への確かな接続を図るため、授業力向上に向けた小中合同での研修会等を開催し、中学校校区で連携した教育を推進します。	・中学校区共通実践事項の徹底 ①小中合同研修 ②教科部会の充実 ③中学校区学推訪問	・中学校区共通実践事項の徹底 ①小中合同研修 各中学校区で計画・実施 ②教科部会の充実 小中合同研究（羽地校区国語科） ③中学校区学推訪問 ８中学校区で訪問実施	各中学校校区は年度初めに共通実践を行い、中間評価を行い実施している。 夏休み等を活用し合同研修を行い、共通理解の下、小中連携が図られている。 大規模校での小中合研修は学推訪問時以外に設定するのが困難な状況である。 全中学校区において学推訪問を実施できたことは、設置者側として現場の状況把握ができ小中連携の推進ができた。	A	【③について】 ・中学校区は形がい化しているように感じる。併設型小中一貫校への移行はどうか。 ・小中連携教育について、大規模校での取組は難しいとあるが、指導方法を研究主題とした双方の公開授業を行うだけでも効果があるのではないか。		・中学校区共通実践事項の徹底 ①小中合同研修 ②教科部会の充実 ③中学校区学推訪問
		令和６年度　目標値 中学校校区での研修会を行った割合 【７７．８％】	令和元年度　目標値 【７０．７％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【８９％】 名護中学校区未実施					令和２年度　目標値 【８９％】

	④教育関係機関と連携した教育の推進	名桜大学をはじめとする教育機関と連携し、確かな学力の向上および教職員の授業力向上に向けた取組を推進します。	下記取組について教育機関と連携を図る。 ・自由研究対策 ・小中学校初任者研修 ・小中学校中堅教諭研修 ・親子自然学習	○ALL やんばる出前授業 ・名護市小中学校における夏休み前の自由研究対策講座 ○美ら島自然学校との連携 ・名護市小中学校初任者研修 ・名護市小中学校中堅教諭研修 ○GODAC との連携 ・親子自然学習 （名護市児童対象）	名護市立小中学校で、名護市独自の資源を活かした講座や研修を開催できた。 毎年行われている「なごサイエンスフェスタ」は、令和元年度に限り、離島開催となった。	A	【④について】		下記取組について教育機関と連携を図る。 ・自由研究対策 ・小中学校初任者研修 ・小中学校中堅教諭研修 ・親子自然学習
					総合評価		A	A	

具体的施策名	Ⅰ－１－（２） 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
主管課	学校教育課、(教)総務課

現状･課題	新学習指導要領で示された「特別の教科道徳」について、教職員が内容を理解し授業改善ができるよう支援することが求められています。 キャリア教育*については、継続した周知と支援活動を行い、質の高いキャリア教育を目指して、受け入れ地域の拡大や企業への協力要請をさらに推進する必要があります。 不登校児童生徒数は増加しており、不登校が継続している児童生徒が多いため、どのように支援し、登校復帰につなげられるか検討が必要です。 中学校での部活動や小学校におけるスポーツ少年団等の活動において、適切な休養日の設定等、指導や運営体制についての検討が求められています。

主な取組		P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
①豊かな人間性を育む教育の充実	「特別の教科道徳」を中心に、すべての教育活動で「心の教育」を推進できるよう、各学校における人権・平和教育への支援や道徳教育、特別活動等の研修を推進します。 いじめや不登校、問題行動等の早期発見・早期対応等、学校が組織的に生徒指導に取り組めるよう、「登校支援リーフレット」の活用や教育相談計画訪問や生徒指導連絡協議会等の充実に努めます。	・月に１回の人権の日の実施 ・生徒指導連絡協議会の開催（年間５回） ・生徒指導に係る協議・不登校及び児童生徒理解に関する講演会 ・教育相談学校訪問の実施（全小中学校１回） ・生徒指導支援者の配置８校（各校１名配置）	・月に１回の人権の日の実施 ・生徒指導連絡協議会の開催（年間５回） ・生徒指導に係る協議・不登校及び児童生徒理解に関する講演会 ・教育相談学校訪問の実施（全小中学校１回） ・生徒指導支援者の配置８校（各校１名配置）	各学校において、毎月人権の日を設定し、実施した。 年間５回の生徒指導連絡協議会の中で、不登校及び児童生徒理解に関する講演会を実施した。 生徒指導支援者を計画通り配置できたが、年度途中から１名の欠員となり、半年間そのままの配置状況だった。	B	【施策全体について】 【①について】 【②について】 ・沖縄は「希望型」が多く「意志型」が少ないと言われているので、「キャリア教育」は重要である。 【③について】 ・スポーツで「心と体を育む」のも大切である。 ・運動部活動等の在り方について実施できたことは良い。 ・市内全小中学校で運動部活動等の活動時間・休日等を共通実施できたことは大きな成果であり、継続して推進してほしい。	・人権教育やキャリア教育、食育などしっかり取り組んでいる。 ・教育委員会の方針を学校の取組に反映させていくことが必要である。	・月に１回の人権の日の実施 ・生徒指導連絡協議会の開催（年間５回） ・生徒指導に係る協議・不登校及び児童生徒理解に関する講演会 ・教育相談学校訪問の実施（全小中学校１回） ・生徒指導支援者の配置８校（各校１名配置）
②豊かな社会性を育む教育の充実	児童生徒一人一人のキャリア形成と自己実現を図るため「キャリアパスポート*」の活用を推進します。 キャリア教育コーディネーターを活用した、名護市の「ヒト・モノ・コト」にふれる職場体験（中学校）、ジョブシャドウイング*（小学校）や職業人講話の充実に努めます。	・キャリアパスポートを活用するための資料の提供 ・キャリア教育に係る研修会の実施（１回） ・ジョブシャドウイングの実施（12 校） ・職場体験の実施（９校）	・キャリアパスポート活用のための参考資料提供 ・キャリア教育に係る研修会の実施（１回） ・ジョブシャドウイングの実施（12 校） ・職場体験の実施（９校）	計画通りに実施することができた。 キャリアパスポートの令和２年度完全実施に向けて、先進校の取組例を提供することができた。 ジョブシャドウイング・職場体験以外にもキャリア教育に対する支援の声が多くなってきた。	B		・キャリアパスポート利用を行っている学校が少なく感じる。令和２年度完全実施するためには、もっと多くの働きかけが必要。 ・ジョブシャドウイングや職場体験を継続して実施できているのは素晴らしい。協力していただいている企業組織に感謝したい。	・キャリアパスポートの活用 ・ジョブシャドウイングの実施（13 校） ・職場体験の実施（８校）
	令和６年度　目標値 自己肯定感を持つ児童生徒の割合 【８１．４%】	令和元年度　目標値 【７７．６%以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【７８．１%】					令和２年度　目標値 【７８．１%以上】
	キャリアパスポートの活用 【２１校】	【２校以上】 （平成 30 年度実績）	【５校】 小学校４校・中学校１校					【全校】
③健やかな心と体を育む教育の充実	新体力テスト及び泳力調査の分析を基に各学校の課題に応じ、体力向上のための「一校一運動」を奨励します。 防犯・防災教育の充実に向けた研修会や合同調査を実施し、児童生徒の安全安心に向けた取組の充実を図ります。 令和元年度に策定した「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に基づいて、各学校における運動部活動等の指導・運営体制の構築を推進します。	○小学校において通学路における防犯防災に係る合同調査を実施。 ○令和元年度に「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」を策定し、名護市立小中学校で方針に沿った運営や指導、適切な休日等の設定を実施。	○名護市立全小学校において、通学路における防犯防災に係る合同調査を実施。 ○小中学校の部活動等における適切な指導や休養日等を示す。 ・週当たり２日以上の休養日を設ける ・家庭の日(毎週第３日曜日) ・平日の活動時間２時間以内 ・休日の活動時間３時間以内	名護市全 13 小学校で防犯防災に係る合同調査を実施できた。 小中学校での望ましい運部活等の在り方を方針で示すことで、名護市立全小学校で活動時間や休日の設定等を、名護市小中学校で共通実施することができた。	A			○小学校において通学路における防犯防災に係る合同調査を実施。 ○「名護市運動部活動等の在り方に関する方針」に沿った運営や指導、適切な休日等の設定を実施。
	令和６年度　目標値 中学校校区での研修会を行った割合 【７７．８%】	令和元年度　目標値 【７０．７%以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【７１．４%】					令和２年度　目標値 【７１．４%以上】

	④食育の推進	養護教諭・栄養教諭と連携した食育指導を推進します。 各家庭で食生活や生活習慣について考え、また、子どもが地元の産業、職業に関心を持つよう、食育講演会を開催します。	・４月副読本（食生活学習教材「くわっち～さびら」）配布 ・６月食育月間 ・３月食育講演会開催	・副読本を配布（小１～小３）し、授業で活用及び家庭へ情報提供 ・食育月間ポスター配布し、各学校掲示 ・食育講演会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・食育に関する授業の実施（166回）	各学校の教育計画に基づき、食に関する指導が実施されて、副読本やポスターなどが活用されている。 食育講演会については、講演形式から各家庭への情報提供方法を検討する。	B	【④について】		・４月副読本（食生活学習教材「くわっち～さびら」）配布 ・食育に関する授業の実施 ・６月食育月間 ・各家庭への情報提供方法を検討
						総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅰ－１－（３） 特別支援教育の充実
主管課	学校教育課

現状･課題	校内支援体制が十分でない学校への支援や医療的ケアの必要な児童生徒への対応が課題となっています。 また、特別支援教育*に係る子ども理解のための研修は継続して行う必要があります。

			P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①特別支援教育の充実	児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための校内体制の支援を図ります。 学校と医療、福祉等の関係機関との連携を図り、早期からの相談・支援に取り組めるよう、教育支援体制の充実を図ります。 特別支援教育コーディネーターや校内教育支援担当者を中心とした特別支援教育を行うための体制整備を支援するため、研修等の充実に努めます。	・特別支援コーディネーター連絡会 ・要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談 ・特別支援教育支援者の配置 ・特別支援教育支援者連絡会 ・名護市教育支援委員会の開催 ・特別支援教育コーディネーター等研修会（年２回）	・特別支援教育コーディネーター連絡会（年２回） ・要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談 ・特別支援教育支援者の配置（18 校に 36 人） ・特別支援教育支援者連絡会（５回） ・名護市教育支援委員会の開催（申請件数：377 件） ・特別支援教育コーディネーター等研修会（年２回）	学校からの要請が多く、支援者の増員が必要と思われる。 支援方法の協議や研修を重ねることにより、支援者のスキルアップが見られ、対象児童生徒の改善につながった。 教育支援申請に 100％対応できた。 通級指導教室の新規設置を望む声は多く、今後も引き続き沖縄県へ通級指導教室新規設置について要請を行う。	B	・特別支援教育は充実している。 ・インクルーシブ教育の中で、どのような対策が必要か検討する必要がある。 ・申請に対し 100％対応できたことは素晴らしい。引き続き頑張ってほしい。 ・対象児童生徒への改善に向けて充実した取組を行っている。	・校内特別支援が重要であることは理解できるが、学校でできることとできないことをもっと明確に分けて、実施することも必要。 教員の力量や学校の体制、保護者の理解も必要で、学校に丸投げされてもうまくは回らないと考える。 難しいと思うが、ここをうまく調整してほしい。 ・目標以上の実績で十分できている。 ・名護市の対応、サポート（人材）はよくやっている。課題は普通学級にいる発達障碍児へのサポートである。	・特別支援コーディネーター連絡会 ・要請に応じた該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談 ・特別支援教育支援者の配置 ・特別支援教育支援者連絡会 ・名護市教育支援委員会の開催 ・特別支援教育コーディネーター等研修会（年２回）
		令和６年度　目標値 個別の指導計画の作成率（特別支援学級・通級*・作成が必要な児童生徒） 【１００％】	令和元年度　目標値 【８１．９％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【８８．２％】					令和２年度　目標値 【８８．２％以上】
		個別の支援計画の作成率（特別支援学級・通級・作成が必要な児童生徒） 【１００％】	【７９．８％以上】 （平成 30 年度実績）	【８２．３％】					【８２．３％以上】

総合評価	A	A

具体的施策名	Ⅰ－１－(４) 国際社会に対応できる人材の育成
主管課	学校教育課

現状･課題	小学校での外国語活動、英語の授業で小中学校英語支援員(ＡＬＴ)や日本人英語教師(ＪＴＥ)の活用が必須であり、これらをうまく活用するためにも担任の授業力を向上させる必要があります。 英語検定の補助金活用率が伸びないため、補助の対象等の検討が必要となっています。平成 21 年度からの本市の将来を担う国際感覚豊かな人材育成のために中学生を対象に始まった中学生海外短期留学派遣事業も、平成 24 年度からは名護市の友好都市であるアメリカ合衆国ハワイ州ヒロにおいて実施しています。

			P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①外国語活動・外国語教育の充実	令和元年度から市内小学校で教育課程特例校（第１・２学年で外国語活動）を導入し、英語を用いたコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力の育成に努めます。 小学校英語学力調査（第５・６学年）を行い、結果を分析し、その後の授業改善に活かします。中学生への英語検定料金一部補助を行うことで、受検機会を拡大し、英語学習に対する意識向上を図ります。 小中学生を対象とした英語体験学習を実施し、英語活動や外国人との交流を通して、英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味関心を高めます。	・小中英語支援員（ALT)の配置（12 人） ・小中英語支援員・英語教育担当者研修会（年６回） ・小学校英語学力調査の実施 ・英語検定料一部補助 ・小・中学校英語体験学習	・小中英語支援員（ALT)の配置（12 人） ・小中英語支援員・英語教育担当者研修会（年６回） ・小学校英語学力調査の実施 ・英語検定料一部補助 ・小・中学校英語体験学習（参加者 112 人）	各種コンテストへの対応について、ALT を効果的に活用している。しかし、日頃の授業における ALT の活用についてはまだ課題がある。 小学校英語学力調査については、目標値をわずかに上回る結果であった。 英語検定料一部補助については、昨年度に比べ、活用率が向上しているが、学校間での差があるため、引き続き英語科教諭への声かけを行っていく。 英語体験学習については、中学生 26 名、小学生 86 名の参加があった。ボランティアスタッフについても３回の実施全てにおいて十分な人員が集まった。特に小学校の参加希望者が多く、抽選に時間がかかった。中学生の希望者が少ないのが課題である。	B	【施策全体について】 【①について】 ・学校間の差をなくす取組をすべき。 ・小学校英語学力調査結果は素晴らしい。 ・補助については是非とも 100％活用を目指せるよう周知してほしい。学校間で差があることは改善すべき。 ・小学校からの外国語教育が重視される中、今後は担任の授業力（英語力）にはあまり期待できないのでは。むしろ、早期専科制の推進が望まれる。 【②について】 ・留学先を早く決め、継続する必要がある。 ・中長期的に計画を立て、継続できるよう努めてほしい。	・市独自の取組も多く、十分できている。 ・英語力向上のために ALT の活用や研修会等しっかり行っている。 ・うまく運営できていると思うが、今後の継続が必要であるため、早めに相手側（受け入れ側）との調整をお願いしたい。 ・姉妹都市のヒロ市と連携しながら行っており、参加した生徒には大きな影響を与えている。	・小中英語支援員（ALT)の配置（12 人） ・小中英語支援員・英語教育担当者研修会（年６回） ・小学校英語学力調査の実施 ・英語検定料一部補助 ・英語検定料一部補助活用について学校への更なる周知 ・小・中学校英語体験学習
		令和６年度　目標値 小学校英語学力調査正答率 【８０％】	令和元年度　目標値 【７６．８％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【８０．２％】					令和２年度　目標値 【８０．２％以上】
		英語検定料金補助金活用率 【７５％】	【７０％以上】 （平成 30 年度実績）	【７９．８％】					【７９．８％以上】
	②中学生海外短期留学派遣事業の充実	現地での研修をより効果的に実施するために、派遣生徒の選考や事前・事後研修、現地での研修の充実を図ります。また、中学校英語科の教諭が引率することにより、学校間の連携や集団活動の意義等、特別活動の目標も踏まえた事業の充実を図ります。	・選考試験 ・事前研修会（８回） ・名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへの派遣（12 人） ・県人会との交流会、語学研修、学校訪問（２校）等体験活動の実施 ・事後研修会（５回） ・帰国報告会の実施及び報告書の作成	・選考試験（31 人応募） ・事前研修会（８回） ・名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへの派遣（12 人：8/1～8/22 の約３週間） ・県人会との交流会、語学研修、学校訪問（２校）等体験活動の実施 ・事後研修会（５回） ・帰国報告会の実施及び報告書の作成	他自治体が実施していない研修内容が多く、事後アンケートからも生徒・保護者ともに高評価を頂いている。 現地の受入体制が高齢化していることもあり、今後ヒロで継続していくことが困難になる恐れがある。別の留学先等の検討も必要かを考える時期にある。	A			・選考試験 ・事前研修会（８回） ・名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへの派遣（12 人） ・県人会との交流会、語学研修、学校訪問（２校）等体験活動の実施 ・事後研修会（５回） ・帰国報告会の実施及び報告書の作成
					総合評価		B	A	

具体的施策名	Ⅰ－１－(５) 幼児教育の充実
主管課	こども家庭部　保育・幼稚園課、学校教育課、 こども家庭部　こども育成環境整備ＰＴ

現状･課題	平成 30 年度に施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、生きる力の基盤となる３つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性」が示されています。これを受け、それぞれの教育・保育を幼児教育として共通に捉えるとともに、乳幼児からの発達と学びの連続性の確保、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を目指していくことが必要となっています。

		P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①保育者の資質能力の向上	市内すべての幼児教育に携わる保育者のキャリアステージ*に応じた資質能力の向上を図るため、保育者育成指標を策定し、周知します。 また、公立幼稚園において、専門指導員、指導主事による保育参観及び保育研究会を行うとともに、外部講師招へいによる各種研修会をすべての就学前施設へ参加呼びかけのもと開催し、幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質向上を図ります。	1　市立幼稚園における保育参観及び保育研究会 2　各種研修会の開催	1　各園（９園）２回以上、計 21 回の保育参観及び保育研究会を行い、研究報告会を実施 2　外部講師を招聘し、５回の研修会を開催 ①「幼児期の育ちをつなぐ保幼こ小*連携」 ②「朗読ワークショップ」 ③「気になる子どもの行動の理解とその支援」 ④「小一プロブレム*予防のためのソーシャルスキル*」 ⑤「気になる子の支援」	各園の教諭が熱心に研修に取り組み、報告会で成果と課題を共有した。 研修後のアンケートで、参加者全員が資質向上に大変役立つ･概ね役立つと評価した。 ※　県は令和元年「沖縄県保育者育成指標モデル」を策定した。目指す保育者像の共有化、保育者の資質向上の為、令和２年度中に「市町村保育者育成指標」を作成し市内すべての保育施設に周知する必要がある。	A	【施策全体について】 ・数々の研修が実施されているが、職員全体のスキルアップをするためにも、研修に参加しない職員がいないようにする工夫も必要。 ・研修会参加後、どのように現場で活かされているか実証してほしい。 ・研修会への参加者の実態把握が必要。 ・オンライン研修を活用してもよいのではないか。 【①について】 ・保育者育成指標の実態に即した有効的な内容を考慮してほしい。 ・保育者育成指標に沿った研修の在り方も検討してほしい。	・全体的に十分取り組まれており、成果も上がっていると思う。 ・家庭や子どもの多様なニーズに応じたり、組織や制度を連携させたりと、目的に合った活動がなされている。 ・教育の土台は幼児教育にあるが、保育者の研修、保幼こ小連携等よく取り組んでいる。 ・先生方は時間的にあまりゆとりがないと思うが、ぜひ工夫して計画的に研修会等を実施し、先生方の資質向上を図ってほしい。	1　市立幼稚園における保育参観及び保育研究会の実施 2　各種研修会の開催 研修内容に応じて、参加して欲しい経験年数の職員を案内文書に明記する。参加者の実態把握として、申し込み用紙に担当クラス又は役職を記入する欄を設ける。 また、研修内容が現場で活かされているかの実証については、研修会終了後のアンケート調査において確認する。公立幼稚園においては、年度末の研究発表において確認する。 ①気になる子の支援 ②実技研修（絵画･心理絵） ③園内研修の在り方 ④特別支援教育(1) ⑤特別支援教育(2) ⑥園内・グループ研修報告会 3　市保育者育成指標の作成
		令和６年度　目標値 各種研修会への参加率 【１００％】	令和元年度　目標値 【７８％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【８９．２％】 就学前施設３７園中３３園				令和２年度　目標値 研修会への参加率 【１００％】
		名護市保育者育成指標の策定 （令和２年度に策定）						市保育者育成指標作成

	②保幼こ小連携教育の推進	名護市保幼こ小合同連絡会を開催するとともに、年間計画に基づいた小学校区の保幼こ小合同連絡会での交流会や情報交換会、合同研究会等の実施により、すべての就学前施設と小学校との連携や円滑な接続を目指していきます。 小学校においては、スタートカリキュラム*を児童の実態を踏まえて見直し・編成し、幼児期において遊びを通して育まれてきたことが小学校の学習に円滑に接続されることを目指します。	・名護市保幼こ小合同連絡会開催（年２回） ・小学校区における保幼こ小連絡会実施 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの作成	・名護市保幼こ小合同連絡会開催（年２回） ・小学校区における保幼こ小連絡会実施 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの作成	各校における交流会や体験入学の実施が定着し、保幼こ小連携の意識が高まっている。 合同連絡会において実践報告や講話を聴く機会を設けたことで、接続の在り方の捉えが改善されてきた。 意見交換会等において就学に向けての取組が明確になった。 交流会の実施はできているが、その前後の情報共有の仕方に課題がある。	B	【②について】 ・スタートカリキュラムの充実（見直しを含め）に力を入れてほしい。 ・保幼こ小連携の意識が高まりつつあり、期待できる。 【③について】 【④について】	・認定こども園の計画が遅れないようにお願いしたい。	・名護市保幼こ小合同連絡会開催（年２回） ・小学校区における保幼こ小連絡会実施 ・各小学校における交流会や体験入学の実施 ・各小学校におけるスタートカリキュラムの見直し・作成
		令和６年度　目標値 保幼こ小交流会活動への参加率 【１００％】	令和元年度　目標値 【９０％以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績値 【１００％】					令和２年度　目標値 【１００％】
		意見交換会への保幼こ小職員の参加率 【１００％】	【７０％以上】 （平成 30 年度実績）	【７９％】					【７９％】
	③市立幼保連携型認定こども園の設置等	小中一貫教育校緑風学園の敷地内に、市立久志幼稚園と市立瀬嵩保育所を統合した市立幼保連携型認定こども園*（令和３年度開園予定）の設置を進めます。 幼保連携型認定こども園を設置することにより、適正な規模での教育・保育環境の確保及び就学前の一体的な教育・保育体制の整備、学びの連続性を踏まえた円滑な接続を図ります。また、教育・保育内容の指導助言を行う人員の配置を行い、市全体の就学前施設の教育・保育の向上を図ります。	・実施設計業務 ・土質調査業務 ・建築確認申請業務	・実施設計業務 ・土質調査業務 ・建築確認申請業務	補助金交付決定の遅れがあり、多少の遅れはあったが、計画通りに執行できた。 多様化する保護者ニーズへの対応や特別支援教育の充実が求められており、就学前施設からの幅広い相談内容に対応できる体制が必要であることから、公立の認定こども園においてその役割を担うことを含めた人員配置を検討する。	A			＜設置関係＞ ・磁気探査業務 ・設計意図伝達業務 ・設計監理業務 ・建築工事 ・機械設備工事 ・電気設備工事 ・外構工事 ・備品購入 ・認定こども園認可手続き ・条令規則等の制定改廃 ＜人員関係＞ 開園時に就学前施設の相談窓口を設置するため、人員配置について検討する。
		令和６年度　目標値 市立認定こども園の設置 （令和３年度に開園予定）	令和元年度　目標値 令和３年度開園予定						令和２年度　目標値 令和３年度開園予定
	④就学前特別支援教育の充実	すべての幼児教育施設において保護者の要請に応じ、気になる幼児の発達障がい等の早期発見、早期支援を適切に対応できるよう、指導主事、専門指導員を配置し、訪問観察、相談、支援員等の配置による支援を進めます。特別支援教育に関する幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質向上を図るため、特別支援教育に関する研修会を開催するとともに、県教育センター研修の周知を図り、参加を促進します。	1　幼児教育施設の要請に応じた訪問観察及び相談･面談 2　要請に応じた幼稚園特別支援教育支援員の配置 3　特別支援教育に関する研修会（外部講師招聘）の実施と県立総合教育センター研修の周知	1 対応件数 ・保育所等 1,403 件 ・幼稚園 27 件 2　幼稚園支援 ・午前 13 人、午後４人配置 3 市主催による特別支援に関する研修３回実施	1　要請に応じて対応でき、園での過ごし方や就学に向けての助言ができた。 2　保護者の意向に沿って支援員の配置ができた。 各園における支援会議の充実を図る必要がある。 3　研修会後のアンケートでは参加者全員が大変役立つ、概ね役立つと評価した。	A			1　幼児教育施設の要請に応じた訪問観察及び相談･面談 2　要請に応じた幼稚園特別支援教育支援員の配置 3　特別支援教育に関する研修会（外部講師招聘）の実施と県立総合教育センター研修の周知
					総合評価		B	A	

具体的施策名	Ⅰ－２－（１） 環境整備の充実
主管課	教育施設課、学校教育課

現状･課題	施設の経年劣化、自然災害等様々な状況が要因となり、施設等に不具合が生じていますが、その都度、学校からの要請や各種点検報告等を受け対応を行っています。今後も引き続き良好な教育環境の提供に努めます。 学校施設のグラウンドについて、安全性や機能性、環境への影響など各学校において様々な課題があり、特に水はけや表面が悪い状態にあるなど、児童生徒の活動に支障をきたしているグラウンドは全面的な整備が必要であり、地域や学校などからも、グラウンド整備についての要望が挙がっています。 新学習指導要領に対応した授業を推進するためにタブレット端末等ＩＣＴ*機器導入が求められています。デジタル教科書*の活用についての課題はありますが、新学習指導要領に対応した整備について検討する必要があります。 通学区域の見直し等について、児童生徒数の増加や複式学級解消など様々な見地から検討をする必要があります。

		P（計画）	D（実施）			C（検証・評価）		A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①学校施設設備等の維持管理	委託する年次・月次点検はもとより、施設・遊具の点検や学校による随時点検を行い、不具合箇所の早期発見・修繕の実施により、施設並びに遊具に係る事故を防止し、安全で安心な教育環境を維持していきます。 令和６年度　目標値 施設及び遊具による事故件数 （計画年度中） 【０件】	・年１回の学校施設・遊具点検の実施。 令和元年度　目標値 施設及び遊具による事故件数 【０件】	・年１回の学校施設・遊具点検の実施。 ・点検実施　12 月 ・不具合箇所　40 箇所 ・修繕実施　21 箇所 令和元年度　実績 施設及び遊具による事故件数 【０件】	小中学校の校舎及び遊具の点検を実施し、緊急性の高い不具合箇所については、早急に修繕を行い、事故防止に努める事が出来た。 予算の関係上、緊急性の低い事案については、翌年度対応等となった。	B	【施策全体について】 【①について】 ・学校施設・備品等は日々、子どもたちが過ごす場所であり、手にするものなので、念には念を入れた整備をお願いしたい。 ・整備計画の目標は設定できないのか。 【②について】 【③について】 ・ICT 機器を市内学校へ早急に配置してほしい。 ・支援内容は ICT 機器のハード面の支援から活用等における先生たちへのフォロー等ソフト支援へと移行することから、今後の支援員の増員も考慮し、取組内容への反映をお願いしたい。 ・ICT 機器、デジタル教科書等の導入については、費用対効果の面においても工夫改善を図る必要があるのではないか。	・これまでの方針・目標について取組の検証もなされており、評価できる。次期の方針や目標についても、効果的な取組を期待する。 ・安心・安全は学校として第一に優先されるべきことである。学校でできること、委員会が対応すべきことを明確にして取り組んでほしい。	・年１回の学校施設・遊具点検の実施。 令和２年度　目標値 施設及び遊具による事故件数 【０件】
	②小・中学校のグラウンド整備	学校施設のグラウンドについて、様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子どもたちを育成するため、児童生徒の活動に支障をきたしているグラウンドの全面的な整備充実を図ります。 令和６年度　目標値 グラウンド整備校数（計画年度中） 【５校】	・東江小学校グラウンド整備の完了 令和元年度　目標値 【１校】	・グラウンド整備に係る測量設計及び工事の実施 ・工事着手　R 元年 11 月 ・完了予定　R２年５月 令和元年度　実績 ・測量設計業務委託１件 ・グラウンド整備工事１件	単年度で事業を完了させる計画であったが、学校関係者との調整に不測の日数を要したことから、工事着手が遅れ年度内完了が困難となり、次年度へ繰越すこととなった。 単年度での事業完了は厳しいことから、余裕を持った事業期間を確保する必要がある。	B			・２校（久辺小学校、屋我地ひるぎ学園）のグラウンド整備に係る測量設計業務の実施 令和２年度　目標値 【２校】
	③教育環境の整備	「名護市教育情報化推進計画」に基づきＩＣＴ機器・インターネット環境の整備を計画的に推進するとともに、情報の安全管理に取り組みます。 将来的な児童生徒数の推移等を考慮した学校規模の適正化と適正配置を進めるとともに、小規模特認校制度の活用や学校通学区の見直し及び弾力化について、地域住民の意見も考慮しながら検討を行います。	・市内 13 小学校の 4～6 年生を対象とした主要教科①国語②算数③理科④社会⑤地図のデジタル教科書の活用支援 ・緑風学園：タブレット端末 21 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・屋我地小：タブレット端末 20 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・屋我地中：タブレット端末 21 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・大宮中：書画カメラ４台、ユニット型電子黒板 4 台の活用支援 ・情報研修会の実施（３回）	・市内 13 小学校の 4～6 年生を対象とした主要教科①国語②算数③理科④社会⑤地図のデジタル教科書の活用支援 ・緑風学園：タブレット端末 21 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・屋我地小：タブレット端末 20 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・屋我地中：タブレット端末 21 台、電子黒板 2 台、一部無線ＬＡＮの活用支援 ・大宮中：書画カメラ４台、ユニット型電子黒板 4 台の活用支援 ・情報研修会の実施（３回）	名護市立全小中学校の授業者を対象にデジタル教科書及びＩＣＴ機器の活用に関する検証を行った。 ＩＣＴ支援員を活用した、デジタル機器、デジタル教材の活用支援を行った。 情報化推進リーダーを中心とした情報研修会を開催し、情報機器の活用方法や情報モラルの定着を図った。	A		・各学校でのタブレット等の数は足りているのか、教員の質の向上は進んでいるのかの検証をお願いしたい。 ・効果的な教育活動を行うためには ICT 機器、デジタル教科書等は必要なものである。先生方も前向きに取り組んでいる人も多いので、引き続き、支援・整備をお願いしたい。	・学校内高速大容量通信設備の整備 ・児童生徒１人１台端末の整備 ・ICT スクールサポーターの増員（２名）
					総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅰ－２－（２） 学校支援の充実
主管課	学校教育課、（教）総務課

現状・課題	長期研究員の研究成果を名護市全体で共有することが求められています。 小中一貫教育校において、中学校から小学校への乗り入れ授業*を行うことでより専門的な授業ができますが、小学校から中学校へはうまく乗り入れができていない課題があります。 地域学校協働活動推進員の次期計画期間の活動を学校支援の視点だけでなく、地域と学校の連携・協働活動の推進の視点で実施する必要があります。 教育の機会均等を図るため、保護者の経済状況にかかわらず、学ぶ意欲と能力を有する全ての子どもたちが質の高い教育を受け、能力・可能性を伸ばし、「確かな学力」が形成できる環境整備が望まれています。また、スポーツ活動や文化活動の面においても、様々な体験の機会を増やし、「豊かな心」、「健やかな体」を培う環境整備が望まれています。

		P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①コミュニティ・スクールの推進	令和４年度までに全校を対象にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）*を導入し、「学校・家庭・地域連携事業」の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進します。	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）（以下「ＣＳ」という）。 ・ＣＳ導入研究委託懇話会 ・ＣＳ事務局ミーティング ・ＣＳ講演会（ＣＳマイスター）	・ＣＳ導入３校区全て学校運営協議会を開催。 ・懇話会設置校５校区全て懇話会、勉強会を開催。内２校は計画通り学校運営協議会へ移行。 ・ＣＳ事務局ミーティング４回実施 ・ＣＳ講演会１回実施	計画通りに実施することができた。今後も同じ取り組みを継続して行う必要がある。	A	【施策全体について】 ・数字的にはクリアできているが、システムや内容ではまだ課題があると思う。 【①について】 ・懇話会、勉強会で出た課題を大事に進めてほしい。 ・CS マイスターを育てる時期にきているのではないか。 ・令和４年度までの働きかけが大事である。 【②について】	・全体としては、十分できている。 ・CS 導入で従来の学校運営にメリットが出るような方法を考えてほしい。 ・両校の取組の成果を、他の学校にも広げていく取組もお願いしたい。	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）（以下「ＣＳ」という）。 ・ＣＳ導入研究委託懇話会 ・ＣＳ事務局ミーティング ・ＣＳ講演会（ＣＳマイスター）
		令和６年度　目標値 コミュニティ・スクール導入校 【２１校】	令和元年度　目標値 【４校以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【７校】 （令和２年４月１日時点）				令和２年度　目標値 【１６校】 （令和３年４月１日時点）
	②特色ある教育活動	小学校と中学校が一体となった施設及び学校運営の中で義務教育の９年間を一貫した指導体制により、小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」及び「緑風学園」の特色ある教育活動の充実を図るための支援を行います。再び複式学級にならないように、児童生徒の減少に歯止めをかけるため、小規模特認校制度を継続して実施します。	【両校共通】 ・日本人英語教師の配置（１人） ・裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直し ・中学生を対象とした英検検定料の一人年１回全額助成 【緑風学園】 ・非常勤講師の配置（１人） ・ＴＴ授業*や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・裁量の時間を活用した補習指導，長期休業中の学び直し ・英語科の授業におけるＴＴ授業、実技教科における部分的イマージョン教育*及び小学校からの文字指導 ・キャリア教育*、自然体験学習及び稲作等の地域人材等の活用 【屋我地ひるぎ学園】 ・非常勤講師の配置（２人） ・ＴＴ授業を中心に個に応じた指導の徹底 ・英語科の授業におけるＴＴ授業の実施 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用	【両校共通】 ・日本人英語教師の配置（１人） ・裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直し ・中学生を対象とした英語検定料の一人年１回全額助成 【緑風学園】 ・非常勤講師の配置（１人） ・ＴＴ授業や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・裁量の時間を活用した補習指導，長期休業中の学び直し ・英語科の授業におけるＴＴ授業、実技教科における部分的イマージョン教育及び小学校からの文字指導 ・キャリア教育、自然体験学習及び稲作等の地域人材等の活用 【屋我地ひるぎ学園】 ・非常勤講師の配置（２人） ・ＴＴ授業を中心に個に応じた指導の徹底 ・英語科の授業におけるＴＴ授業の実施 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用	【緑風学園】 非常勤講師や日本人英語教師の配置等もあり、令和元年度県到達度テスト算数、数学において小学校５，６年、中２の結果が平成 30 年の結果を上回った。中２の英語も前年度比＋１９，県平均＋１０とかなり高い。 乗り入れの授業が少なかった。 地域の自然や人材を生かした学習計画が作成されていて、計画通り実施されている。 【屋我地ひるぎ学園】 非常勤講師や日本人英語教師の配置により、令和元年度県到達度テスト、６年生算数において県平均＋２０ポイント上回った。しかし、３年生から５年生までの算数は、県平均を下回り課題である。 ５，６年生外国語テストにおいて平成 30 年度より平均点が上がった。 非常勤の乗り入れ授業が少なかった。 地域の自然や人材を生かした学習計画が作成されていて、計画通り実施されている。	A			【両校共通】 ・日本人英語教師の配置（１人） ・裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直し ・中学生を対象とした英検検定料の一人年１回全額助成 【緑風学園】 ・非常勤講師の配置（１人） ・ＴＴ授業や乗り入れ授業等による個別指導の徹底 ・裁量の時間を活用した補習指導，長期休業中の学び直し ・英語科の授業におけるＴＴ授業、実技教科における部分的イマージョン教育及び小学校からの文字指導 ・キャリア教育、自然体験学習及び稲作等の地域人材等の活用 【屋我地ひるぎ学園】 ・非常勤講師の配置（２人） ・ＴＴ授業を中心に個に応じた指導の徹底 ・英語科の授業におけるＴＴ授業の実施 ・キャリア教育、自然体験学習及び地域人材等の活用

③教育環境の支援	校務を情報化することにより、業務の軽減と効率化及び教育活動の質の改善を図るため、統合型校務支援システム*の導入・活用を推進します。 統合型校務支援ソフトの導入・整備により業務改善を図ることで、教師が児童生徒と向き合う時間の確保に努めます。	・小中学校における統合型校務支援システム導入の検討	・学校における業務等に関する調査及び分析（全教諭対象） ・統合型校務支援システムに関する学校向けの事前研修の実施	小中学校教諭の70%が１週間あたり５時間以上の業務を超過している実態が明らかになった。また、全体の 76%が校務支援システム導入を望んでいる。 導入に向けた取組を進めたものの、予算化ができず今年度の調達はできなかった。 沖縄県が令和２年度に予定している統合型校務支援システムの一斉調達ワーキングチームに参加する予定。	C	【③について】 ・働き方改革の視点から、システムの導入以外も検討する必要がある。 ・かじ取りを誤らないように慎重にお願いしたい。 【④について】 【⑤について】	・教員の声を十分反映したものの導入をお願いしたい。 ・働き方改革の観点からも必要と思うが、幼・小・中でそれぞれ中身も変わってくると思う。現場の声を大切に作成してほしい。	・学校現場の声を聞き取りながら、小中学校における統合型校務支援システム導入を検討する。
④名護市立教育研究所運営	長期教育研究員の授業改善に係る研究を関係機関との連携・協力のもと実施し、研究成果を市内小中学校に波及するよう取り組みます。教育相談室は児童生徒・保護者・教員の教育上の問題等について相談に応じ、関係機関と連携し、援助などの充実を図ります。 適応指導教室は個々の児童生徒に適切な体験活動や学習活動の提供及び保護者・原籍校・関係機関との連携を充実させます。	・研究員の募集（２人） ・研究員研修（学校教育課主催の現職教員研修に参加） ・適応指導教室における体験活動の実施 ・学校復帰に向けた原籍校とのケース会議・学級担任との連携 ・進路実現に向けた相談・学習支援 ・教育相談室における教育相談への対応	【長期教育研究員】 ・研究員の募集（２人） ・研究員研修（学校教育課主催の現職教員研修に参加） 【教育相談室】 ・不登校についての相談や対応について：163 件 ・登校しぶり：6 件 ・いじめについて：6 件 ・学業について：3 件 ・その他：56 件 【適応指導教室】 ・体験活動の実施（カヌー体験、スポーツ交流会、渡嘉敷島自然体験等） ・学校復帰に向けた原籍校とのケース会議・学級担任との連携 ・進路実現に向けた相談・学習支援(中学校３年生５人が高校へ進学)	【長期教育研究員】 研究員個々の指導力の向上と中学校区の職員の合同研修会の実施により、小中連携による学びの連続性の研究体制づくりが構築できた。研究所のネット環境の整備が必要。 【教育相談室】 来所相談、電話相談、訪問相談等の 234 件の相談の実施、関係機関へのつなぎと保護者、学校等の援助・支援が充実した。 【適応指導教室】 集団適応指導を通して、集団適応への不安解消や心の居場所としての機能を発揮できた。課題は、学習の習慣化に向けた継続的な取組み。ネット環境の整備等、多様な学びへの改善が必要。	A			・研究員の募集（２人） ・研究員研修（学校教育課主催の現職教員研修に参加） ・適応指導教室における体験活動の実施 ・学校復帰に向けた原籍校とのケース会議・学級担任との連携 ・進路実現に向けた相談・学習支援 ・教育相談室における教育相談への対応
⑤「子ども夢基金」の活用	未来を担う子どもたちの夢の実現と健やかな成長に資するため、「子ども夢基金」を活用し、各種事業を実施します。	以下の事業の実施に要する費用に対し基金を活用し実施する。 ・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業（予算１千円） ・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業（予算 605 千円） ・スポーツ団体等指導者講習会（予算 300 千円）	・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業 6,994 千円を基金より繰入。 （以下事業は他部署実施事業） ・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業 605 千円を基金より繰入。 ・スポーツ団体等指導者講習会 0 千円	各種事業実施に必要な費用に対し、子ども夢基金を取り崩し、適切に運用することができた。 具体的事業内容については、個別にて検証。	A			以下の事業の実施に要する費用に対し基金を活用し実施する。 ・名護市児童生徒の県外派遣等に関する補助金交付事業（予算１千円） ・昔の森遊びを生かした森林体験プログラム事業（予算 605 千円） ・スポーツ団体等指導者講習会（予算 300 千円） ・名護市給付型奨学金給付事業（予算 3,000 千円）

	⑥給付型奨学金の実施	意欲と能力がある若者が経済的理由により、高等教育機関への進学を断念することなく、平等に教育を受ける機会を支援し、名護市への郷土愛と生まれ育った地域へ貢献する心を醸成するとともに、特に、成績が優秀であり高等教育機関へ進学後、更に勉学に専念できる環境を整え、優秀な人材を育成することを目的として、名護市給付型奨学金給付事業を実施します。	・名護市給付型奨学金給付事業実施要綱の策定 ・事業の周知 ・奨学金給付希望者の募集 ・審査会の実施 ・奨学生の決定	・名護市給付型奨学金給付事業実施要綱の策定(７月) ・事業の周知(北部地区高等学校への訪問説明実施：７月、名護市広報・HP への掲載) ・奨学金給付希望者の募集(７月～９月) ・名護市内高等学校等の奨学金担当者へ意見の聞き取り(９月) ・２次募集の実施(12 月～１月) ・審査会の実施(２月) ・奨学生の決定(２月)	周知・募集の時期が７月だったことから、多くの対象となる生徒が国の実施する給付型奨学金への募集を済ませており、応募がなかった。 ９月の聞き取りを踏まえて、国の給付型奨学金の決定後の時期に２次募集を行った結果、２名の応募があり、審査会を経て２名を奨学生として決定した。 次年度の改善点として、周知方法の拡大及び周知時期の早期化を図ることが求められる。	B	【⑥について】 ・これからも充実を期待する。 【⑦について】 ・これからも充実を期待する。		・事業の周知（北部地区高等学校へ郵送、HP 掲載：５月、広報：６・７月） ・奨学金給付希望者募集（６月～７月） ・審査会の実施（８月） ・奨学生の内定（９月） ・諸手続き（内定～３月） ・奨学生の決定（翌年度４月） ・令和２年度奨学生２名へ毎月（25 日）給付 ・周知方法の拡大（市民便利帳、シンガク図鑑、螢雪時代、沖縄県 HP へ情報掲載）
		令和６年度　目標値 給付型奨学金給付人数 【５人】	令和元年度　目標値 【５人】	令和元年度　実績 【２人】					令和２年度　目標値 【５名】
	⑦児童生徒等の県外派遣費の一部補助	名護市に所在する小学校及び中学校の児童生徒等並びに名護市に所在する県立高等学校及び高等専門学校の生徒又は名護市に住所を有する児童生徒が、運動競技会又は文化関係大会に参加するため、県外又は県内の離島に派遣される場合に大会派遣費の一部を補助します。	・補助金の交付 ・一括交付金の活用 ・保護者アンケートの実施	・補助金の交付 申請件数 168 件 交付決定件数 168 件 （内４件取下げ申請有） 補助金交付件数 164 件 ・一括交付金の活用　15 件 ・保護者アンケートの実施	補助金交付申請に対し、書類審査を実施した結果、全ての申請に対し交付決定を行うことができたことから、本補助金の内容（補助対象、補助内容等）の周知が図れていると考えられる。今後も継続して内容の周知に努めていく。 保護者アンケートの結果、本補助金交付が児童生徒の成長（人材育成）に繋がるものとして全保護者が有意義と考えていることから、今後も補助金の活用について周知を図るとともに、保護者アンケートを引き続き実施し、より効果的な事業効果の実証につなげていく。	A			・学校、保護者への周知 ・補助金の交付 ・一括交付金の活用 ・保護者アンケートの実施
		令和６年度　目標値 大会派遣費補助交付決定 【１００％】	令和元年度　目標値 【１００％】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１００％】					令和２年度　目標値 【１００％】
					総合評価		B	B	

具体的施策名	Ⅰ－２－（３） 学校給食の充実
主管課	（教）総務課

現状・課題	平成 30 年９月から実施している名護市学校給食事業について、子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、継続的に実施する必要があります。 新学校給食センターの建設については、現在建設計画中である第一学校給食センターの早期運用開始が求められているところですが、建設予定地の地盤の一部が軟弱であることが判明し、建設地を再検討する必要があったため、スケジュールに大幅な遅れが生じています。 地産地消については、名護市産の食材のまとまった量を確保することが容易でないことや、他市や県内外の食材と比較すると割高であることから、使用率が目標値を下回っている状況にあります。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①名護市学校給食事業 幼児・児童生徒の食に関する正しい理解と望ましい食習慣を養うとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減し、安心して子育てができるよう、学校給食の無償化を引き続き行います。	・４月補助金請求 ・５月補助金受取 ・５月～３月 各月の補助対象食材購入費支出	補助金額：293,079,600 円 購入費　：252,150,631 円 残額　　：40,928,969 円 ※残額は、名護市へ戻入	３月の臨時休校の影響により残額が大きくなったが、学校給食の無償化を実施できた。	A	【施策全体について】 【①について】	・給食費無償化というのは予算の面では大変だと思うが、保護者は助かると思う。	・４月補助金請求 ・５月補助金受取 ・５月～３月 各月の補助対象食材購入費支出
	②学校給食施設の再整備 名護市立学校給食施設再整備基本計画（平成 21 年３月策定）に基づき、老朽化が課題になっている学校給食施設（５か所）を２か所に再編し、子どもたちにより安全・安心な学校給食の提供を行います。	・第一学校給食センター建設予定地の決定及び令和２年度再整備事業開始へ向けた予算化	・建設予定地の隣接地主と用地交渉を実施 ・他部署から提案のあった新たな候補地と、現予定地との比較を実施 ・令和２年度の事業着手へ向け建設費用の算出	第一学校給食センター建設予定地について、隣接地主との用地交渉の要件が折り合わず、擁壁の建造に係る費用が増大することとなったが、建設地は決定した。しかし、建設費が約 26 億円と膨大なため、補助メニューの決定には至らず予算化はかなわなかった。 令和２年度には補助メニューや PFI 方式等の調査を進め、令和３年度事業開始を目指したい。	C	【②について】 ・第１給食センターについては長年の夢になりつつある。ぜひ少しでも早く施設運用開始できるよう頑張っていただきたい。 ・現施設の老朽化を考えると、早めの建設が必要である。 ・給食センター集約については、水や光熱費のコストカットが見込めると思う。 ・新学校給食センター建設の早期実現に努めたい。	・とにかく早く新しい施設ができないとどうにもならない。難しい交渉となると思うがお願いしたい。 ・給食センターの建設については、広い視点で検討することを望む。	補助メニューやＰＦＩ方式等の調査検討を進め事業手法を決定する
		令和６年度　目標値 学校給食施設の再整備 【１施設】	令和元年度　目標値 【０施設】 ・建設地の決定 ・建設費用の予算確定	令和元年度　実績 【０施設】 ・建設地の決定（市有地のみに建設）				令和２年度　目標値 ・事業計画の作成
	③学校給食における安全な食材の使用及び地産地消の推進 安全な学校給食物資の納入が行われるよう、学校給食センターに給食物資を納入する者の登録制度を引き続き実施します。また、栄養士、栄養教諭を中心に学校全体で食育に取り組むとともに、関係機関と連携を図りながら、農産物をはじめとした地元の食材を学校給食に積極的に活用します。	・学校給食納入業者登録制度運用 ・毎月の献立表による情報提供（食育、伝統や行事を含む郷土料理、名護市産食材の表記） ・学校給食センター連絡協議会（年３回）	・学校給食納入業者登録状況（登録業者 39 業者＜内名護市内業者：25 業者＞） ・各学校給食センター栄養士が献立表の作成し各学校へ配布 ・各学校において食育に関する授業を実施 ・学校給食センター連絡協議会にて地元食材使用状況を報告、意見交換を実施（３回）	名護市産の農作物は季節や品種によって確保する量にばらつきがあり、名護市産以外の食材と比較すると単価が高い事、必要な数量を取り揃える事が困難である事があるため、使用率が横ばいとなっている。	B	【③について】 ・安全な食物を提供する点からも、できるだけ活用を高めてほしい。 ・地産地消は命題だと思うので、ハードルは高いと思うが頑張って根気強く実現してほしい。	・地産地消の推進も良い。	・学校給食納入業者登録制度運用 ・毎月の献立表による情報提供（食育、伝統や行事を含む郷土料理、名護市産食材の表記） ・学校給食センター連絡協議会（年３回） ・令和元年度３月の小・中臨時休校により学校給食を停止したため、発注取消に伴って発生した経費の補助【補助金額：2,362,802 円】
		令和６年度　目標値 地元食材の使用率 【２５％】	令和元年度　目標値 【１８．５％】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１８．０％】				令和２年度　目標値 【２０．０％】

	④新しい学校給食施設における時代に即した学校給食の検討	新しい学校給食施設においてアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討と調理及び配送の民間委託の検討を行います。	・第一学校給食センターへのアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討及び調理、配送の民間委託の検討	・アレルギー対応については第一学校給食センター建設手法（補助メニュー等）の決定後検討を開始するため取り組めていない。	アレルギー対応の検討については第一学校給食センターの進捗状況を見て開始するため建設手法の決定を急ぎたい。 調理業務の民間委託については、方針の作成に時間を要することや正職員の処遇等課題が多く、引き続き検討が必要である。	C	【④について】	・アレルギー対応については、保護者にも少し負担してもらう必要があると思う。	・配送業務の民間委託について検討を開始する ・他自治体や事業者へのヒアリングを行う
		令和６年度　目標値 アレルギー対応の除去食調理可能な施設 【１施設】	令和元年度　目標値 【０施設】 ・建設地の決定 ・建設費用の予算確定	【０施設】 ・建設地の決定（市有地のみに建設）					令和２年度　目標値 ヒアリング実施回数 【４回】
						総合評価	C	B	

具体的施策名	Ⅱ－１－（１） 文化財の保存及び普及・活用
主管課	文化課

現状･課題	本市には多くの指定文化財（85 件）や埋蔵文化財（約 85 か所）が所在しています。自然や歴史・文化などの各地域に残る文化財を保存するとともに、教育活動や地域づくりでの文化財の活用に向け、周知を図ります。 また、開発等に伴う文化財調査の実施体制強化及び出土遺物等の保存・活用の検討が必要です。

		P（計画）	D（実施）	C（検証・評価）				A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①天然記念物「名護のひんぷんガジュマル」の保全	倒木対策として平成 22 年度から 23 年度にかけ実施したフレーム支柱の設置や平成 24 年度の土壌改良により、ひんぷんガジュマルの生育状況は安定しており短期的対策は成果を挙げています。今後は、長期的対策として、ひんぷんガジュマルの生育環境の抜本的な改善を行うための保全管理の検討を進めます。	・根鉢内の草刈りやイタビ等の除去作業及び定期的な観察。 ・状況に応じた樹勢診断と保護措置。 ・フレーム支柱の観測調査業務の実施。	・日常的な管理として、根鉢内の草刈り作業を不定期に実施。生育状況の観察は随時実施。 ・長期的な保全管理対策に資するデータを蓄積するため、フレーム支柱の傾き等を確認する観測業務を実施。（H24 年度､H27 年度に続く３回目）	フレーム支柱の設置や土壌改良後、ガジュマルの生育状況は良好である。しかし、近年、南根腐病による様々な樹種の腐朽・枯死が県内で発生しているため情報収集に努めるとともに、定期的な観察や樹勢の維持が必要である。 フレーム支柱の観測結果については、変位なし。前回との数値差については誤差の範囲内。３～４年毎に観測調査業務を実施し、長期的な保全対策に生かす。	A	【施策全体について】 ・全体的に事業が概ね進んでいる。 【①について】 【②について】 ・津嘉山酒造所は名護市の誇る文化財なので、更に充実されることを期待している。 ・一括交付金を活用した事業化に向けて、ぜひ継続して実現努力をしていただきたい。 【③について】	・市民や子どもたちが地域に愛着を持つためにも、市民と一緒に保存・普及・活用に取り組まれることを望む。 ・津嘉山酒造所施設の管理運営について、誰がどのように管理運営するのかを早急に明確にして、計画を進めていただきたい。 ・文化財の保存はかなり根気や継続的な努力が必要であるが、名護市は計画的に実施していると思う。	・根鉢内の草刈りやイタビ等の着生植物の除去作業。 ・定期的な観察の実施。 （南根腐病やスス病、カイガラムシ、イチモンジハムシ等の発生がないか等。） ・樹勢の維持を図るため、施肥（グリーンパイル）作業の実施。
		令和６年度　目標値 ひんぷんガジュマルの長期的な保全管理対策 【着手】	令和元年度　目標値 ・根鉢内の管理　４回 ・樹勢診断　０回 ・フレーム支柱の観測調査１回	令和元年度　実績 ・根鉢内の管理　６回 ・樹勢診断　０回 ・フレーム支柱の観測調査１回				令和２年度　目標値 ・根鉢内の管理　５回 ・樹勢診断　０回 ・施肥作業の実施　１回
	②重要文化財「津嘉山酒造所施設」公開活用推進事業の実施	平成 23 年度から 29 年度にかけて、国指定重要文化財「津嘉山酒造所施設」の保存修理事業を完了しました。同施設は、沖縄に唯一残る戦前の木造泡盛工場であり、沖縄を代表する文化施設です。まちなか観光の拠点施設として、便益施設や泡盛文化のガイダンス施設、駐車場等の整備を行い、公開・活用を図ります。	・一括交付金（沖縄振興特別推進交付金）を活用した事業化の検討及び申請	・事業化に向け、申請資料の作成を行うとともに、振興対策室及び教育施設課、商工観光局、津嘉山酒造所、北部酒造協議会（事務局）と調整及び意見交換を行った。 ・一括交付金以外の補助事業の確認（再編交付金など）	一括交付金を活用した事業化に向け申請書類等を作成するとともに振興対策室と調整を行ったが、令和２年度の予算枠の超過・事業過多により申請を見送る結果となった。 また、関係機関との意見交換を重ねたが、便益施設等の整備後の管理・運営に課題があることから、その整備計画や規模、運営の在り方を引き続き検討する必要がある。	C			・便益施設や駐車場整備を含めた保存管理計画の策定に向けた検討の実施。 ・所有者及び関係団体との意見交換や調整。 ・外塀内における鉄筋の有無、配筋状態を確認する非破壊検査の実施。
		令和６年度　目標値 重要文化財「津嘉山酒造所施設」公開活用事業の実施 【完了】	令和元年度　目標値 事業化（補助事業への申請）	令和元年度　実績 事業申請を見送る				令和２年度　目標値 保存管理計画策定に向けた検討
	③埋蔵文化財の保存	市内には約 85 か所の埋蔵文化財が所在しますが、その多くが表面踏査による確認が主であったため、遺跡の範囲と年代などの性格を把握する試掘調査や発掘調査を実施します。 また、出土遺物や調査図面等の整理作業を行い、保存・活用に努めます。	・住宅建設等の開発行為に伴う埋蔵文化財の有無照会に対する調整・回答。 ・必要に応じた埋蔵文化財の確認調査（試掘・立会調査を含む）の実施。 ・キャンプ・シュワブ内の文化財調査	・埋蔵文化財の有無照会に対する対応(公共･民間を含め 529 件) ・埋蔵文化財の確認調査（47 件 内訳:①立会調査38 件 ②試掘調査 9 件） ・キャンプ・シュワブ内調査 ①美謝川集落関連遺跡群内における宿道の測量調査（1 件） ②大浦崎収容所跡内における試掘調査（1 件）	近年、開発行為に伴う埋蔵文化財の有無照会が増加している。照会地が、周知の埋蔵文化財包蔵地の予想範囲内に位置するのか、隣地における過去の照会や確認調査の実績を確認しながら回答を行うとともに、必要に応じ、立会や試掘調査を行った後に回答するなど、文化財保護法に基づく適切な対応ができている。	A			・住宅建設等の開発行為に伴う埋蔵文化財の有無照会に対する調整・回答。 ・必要に応じた埋蔵文化財の確認調査（立会・試掘調査を含む）の実施。 ・キャンプ・シュワブ内における文化財調査の実施。

	④豊年祭の支援	文化課では、市内各地の豊年祭の様子を映像記録等で残しています。過去の豊年祭の映像記録も多数保管されていますが、古くなり傷んでしまっていたり、現在の機器では利用できないものもあるため、現在、それらのデジタル化作業を進めています。今後は、これらの映像資料を市民へ公開し、地域の伝統文化の継承に生かします。	・豊年祭の継続的な記録及び調査の実施 ・市民のニーズに応じた映像資料等の貸し出し	・9月1日真喜屋区綱づくり記録調査 ・9月7日真喜屋区豊年祭記録調査 ・9月15日安部区豊年祭記録調査 合計３件 ・過去の映像資料の貸し出し（数久田区）	当該年度に行われる各字の豊年祭の日程を確認するとともに、過去の記録調査履歴を照合し、記録調査対象地を選定。記録調査の実施については、各区区長との調整及び了承を得て実施。撮影後の映像記録については、ＤＶＤにて各区へ提供を行っている。	A	【④について】 【⑤について】 ・区民や子どもたちへの周知の方法として、イラストやマンガ多用の難しくないガイドブックの活用はどうか。 ・文化財の周知の仕方を、できれば区民を中心として考慮してほしい。 【⑥について】	・文化財の周知について、十分ではないように感じる。 ・博物館での展示や「名護市教育の日」での展示等で徐々に広げていくしかないと思われる。	・豊年祭の継続的な記録調査の実施。 ・市民のニーズに応じた映像資料等の貸し出し。
	⑤文化財の周知及び普及・活用の促進	現在、市内には国・県・市指定の文化財が合せて85件あります（令和元年12 月末現在）。区別にみると、指定文化財が所在する区が30区、所在しない区が25区となっています。「すべての区に指定文化財を！」を目標に、各区に残る貴重な文化財を後世に残し、伝えていくために文化財指定し、周知及び普及・活用を推進します。	・文化財指定に向けた調査 ・指定文化財の保護処置	・「津嘉山酒造所庭園」登録記念物（名勝地関係）への意見具申に係る調査及び意見具申資料の作成・提出。 ・「部間権現」、「護佐喜宮」登録有形文化財に向けた管理団体への説明。 ・天然記念物の保護処置 ①屋我地小のアコウ ②川上の蔡温松 ③東江のミフクラギ ④大浦アサギ庭のガジマル	「津嘉山酒造所庭園」については、令和２年度に国の審議会を経て登録文化財となる見込みである。 指定文化財の減少は、「大浦アサギ庭のガジマル」の滅失に伴う名護市初めての指定解除である。数年前より南根腐病に罹り腐朽が著しく回復の見込みがない状況であった。安全性を危惧した区の判断により余儀なく伐採し滅失したが、供養祭を行うなど大浦区のこれまでの取組は、文化財愛護であった。 所有者とともに文化財を保護し活用するとともに、地域の活力に寄与する。	B			・指定文化財の適切な管理や保護処置 ・文化財指定候補物等、指定に向けた調査の実施 ・文化財の周知については、所有者（個人や各区）と連携を図るとともに、地域めぐりや学校での出前授業において、パンフレットやガイドブックを活用し、その普及を図る。
		令和６年度　目標値 指定文化財の件数 【９０件】	令和元年度　目標値 【８５件以上】 （平成30年度実績）	令和元年度　実績 【８４件】 ※滅失による指定解除　１件					令和２年度　目標値 【８５件以上】
		指定文化財が所在する区 【３２区】	【３０区以上】 （平成30年度実績）	【３０区】					【３１区以上】
	⑥考古資料を活用した出前事業の実施	市内には、約 85 か所の埋蔵文化財（遺跡）が確認されており、本市の歴史や文化を紹介するため、市民を対象とした講演会や見学会を実施してきました。また、発掘調査により得られた資料（遺物）の整理を行い、公開に努め、今後も学校現場で出前授業を実施するなど、教育普及活動を推進します。	・考古資料や過去の調査記録（写真資料）の整理 ・考古資料のレプリカ製作 ・講演会や現地見学会の開催 ・展示会の開催 ・出前授業の実施 ・教育普及資料の作成	・記録資料の整理 随時 ・大堂原貝塚出土の土器レプリカ製作 １点 ・2/8 文化講演会の開催（34名） ・2/9 宿道の現地見学会（25名） ・1/17～2/16 なごしのいせき展開催（延べ671名） ・2/19～2/26 久志支所巡回展 ・出前授業（屋部中１回、緑風学園３回、考古資料の貸出屋我地ひるぎ学園） ・名護市から出土した土器ガイドブックの作成	「なごしのいせき展」は久志地区の遺跡をテーマとし、県立埋蔵文化財センターと名護市を含む 10 市町村の合同企画「掘り出された戦前の沖縄展」も併せ開催。「名護市教育の日」関連事業としての開催であったが、年度後半の開催となったため、その展示内容を生かした教育普及活動の展開が短いものとなった。 年度末に納品された『土器ガイドブック』は、令和２年度に各小・中の学校図書館に配布するため、その配布計画を作成したところである。	A			・考古資料や過去の調査記録等の整理作業。 ・考古資料のレプリカ製作 ・講演会や現地見学会の開催 ・展示会の実施 ・出前授業の実施 ・ガイドブックの配布・活用
		令和６年度　目標値 考古資料を活用した出前授業の実施 【５回】	令和元年度　目標値 【３回以上】 （平成30年度実績）	令和元年度　実績 【４回】					令和２年度　目標値 【３回以上】
					総合評価		B	A	

具体的施策名	Ⅱ－１－（２） 市民の市史づくり
主管課	文化課

現状･課題	市史は、本編・資料編等、これまでに 19 巻中 14 巻が刊行されています。また、毎年「市史セミナー」や北部の高校生を対象とした「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦（戦跡めぐり）」の実施、字誌刊行の支援など、市史の普及活動にも取り組んでいます。 歴史的価値のある公文書について、収集・整理・保管を行っています。歴史的文書の重要性及びその取扱いについて、庁内へのさらなる周知強化が求められています。 市史編さん事業は、令和４年度までに全巻を刊行する予定です。市史刊行終了後の資料（市史編さん資料及び歴史的文書資料）の管理と活用の方法について、検討していく必要があります。

		P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①市史の刊行	本市の歴史を編さんする事業で、「名護市史刊行計画」に沿って、自然と人編（第２部）、通史編、戦後生活史編、市制 50 周年記念写真集、史資料叢書の刊行と、名護やんばる大百科事典の Web 公開を実施します。	・「市制 50 周年記念写真集」の刊行 ・市史各編の調査及び原稿執筆 ・名護市史刊行計画の見直し	・本編・１「自然と人」Ⅱ調査及び原稿執筆 ・本編・２「通史・史資料叢書」調査 ・本編・４「戦後生活史」調査及び原稿執筆 ・別巻・２「名護やんばる大百科事典 Web 版」調査 ・別巻・３「市制 50 周年記念写真集」写真収集及び調査・編集作業 ・名護市史刊行計画の見直し	「50 周年記念写真集」を刊行予定であったが、作業の遅れから令和２年度上期の刊行となった。今後も各編の刊行を控えていることから、計画どおり刊行できるよう関係者及び執筆担当者との調整を図りながら編集作業を進めていく。 刊行計画の見直しについては、編さん委員会において検討を進めてきたが答申には至らず、令和２年度上期での答申へ向けて調整中。課題となっている点について、委員及び関係各所と調整・検討を行う。	B	【施策全体について】 【①について】 【②について】 ・次世代（高校生等）への啓発は最も重要なので、活動への参加の在り方を検討してほしい。 ・コロナの影響は仕方ないが、どうすれば継続できるのかの再考を。 ・小中学生が参加できる平和学習の実施も考案してみてはどうか。 【③について】 ・公文書を取りまとめる部署が必要である。	・見直しについては、実現可能な形で見直しをお願いしたい。 ・編集担当者の人員が足りているのか疑問がある。 ・市史の刊行・保存等は歴史を正しく残すという意味で大事な仕事であり、計画的に実施しているものと考えられる。今後も継続的に取り組んでほしい。	・「市制 50 周年記念写真集」の刊行 ・戦争証言集「語りつぐ戦争第４集」の刊行 ・「史資料叢書」の刊行 ・市史各編の調査及び原稿執筆、編集作業 ・名護市史刊行計画の見直し
		令和６年度　目標値 名護市史の刊行 （本編・別巻・資料編計１９巻） 【１９巻】	令和元年度　目標値 【１４巻以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１４巻】				令和２年度　目標値 【１５巻】
	②教育普及活動の推進	平和学習の実施や市史セミナーの開催、字誌づくりの支援、民話等の紙芝居の制作など、市史編さん事業の成果を市民に広報・普及する事業を実施します。	・第２５回「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」フィールドワーク*（戦跡めぐり）開催 ・市史セミナー開催 ・民話等紙芝居制作	・「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」開催（恩納村・金武町・宜野座村） ・既存の民話紙芝居の複製制作（３作品）→図書館へ	「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」については、行事が重なり昨年度より参加者がやや減少したが、複数年続けて参加した高校生や、北部以外の学校関係者などの参加希望者もあり、これまでの取り組みの成果がうかがえた。 市史セミナーは２月 29 日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 民話等紙芝居については、令和元年度は、図書館に配架するため、既存の作品３点の複製の製作を行った。新作の製作については、これまでとは別の製作者を探す必要があり、調整が必要。	B		・民話等紙芝居を作ることで、民話が語り継がれ保存されているということがよく分かった。継続を期待する。	・第２６回「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」フィールドワーク（戦跡めぐり）の開催 ・小中学生の平和学習については、要望に応じ対応する ・市史セミナーの開催 ・民話等紙芝居の製作
		令和６年度　目標値 平和学習（戦跡めぐり）の参加者 【９０人】	令和元年度　目標値 【８６人以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【７０名】 （高校生・引率・一般参加者）				令和２年度　目標値 【８０名以上】
		市史セミナーの参加者 【７０人】	【３４人以上】 （平成 30 年度実績）	【中止】				【５０人以上】
		民話等紙芝居の制作 【２６組】	【２１組】	【２０組】				【２１組】
	③歴史的文書の収集・整理・保存	歴史的文書の適切な収取・整理・保存に取り組み、市史編さん資料として活用します。	・各課の廃棄簿冊の中から、歴史的文書を選定し収集・保存する。	・各課の廃棄簿冊を確認し、歴史的文書を選定・収集した。（議会事務局・水道業務課・監査委員事務局・総務課・地域力推進課）	歴史的文書の選定・収集については、例年どおり実施できた。 保管場所である屋部支所敷地内の中間保管庫が、屋部支所改築に伴い取り壊しとなることから、資料の移転先について検討が必要。 また、今後の公文書の取り扱いについて、本庁総務課との調整が必要。	A			・各課の廃棄簿冊の中から歴史的文書を選定し、収集・保存する。 ・取り壊しとなる中間保管庫に保管している資料を、旧源河小学校へ移動させる。 ・公文書及び歴史的文書の取り扱いについて、総務課と調整を行う。
					総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅱ－１－（３） 新博物館建設と博物館活動の充実
主管課	博物館

現状･課題	旧名護市役所を改築した現名護博物館は築 60 年が経過しており、老朽化による雨漏り等、様々な課題が生じています。また、身障者等に対応した設備機能や市民の活動スペースが不足しており、多くの利用者から求められるニーズに十分対応できておらず、付帯施設については敷地が狭く駐車場が不足しており、修学旅行生等の団体利用者の受入が困難となっております。開館から 35 年が経過し、収集した資料の保管場所も不足しております。これらの課題を解決し、多様化した利用者のニーズに応えるため、新博物館建設と博物館活動の充実に取り組みます。

		P（計画）	D（実施）	C（検証・評価）				A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①新博物館建設の推進	名護・やんばるの自然や歴史・文化に関する情報や資料を収集・保存・発信し、総合的なガイダンス拠点及び学びの場となる新博物館を整備します。 平成 30 年度は、基本設計、造成設計、用地測量及び不動産鑑定を実施しました。 令和元年度から３年度にかけては用地購入、実施設計、造成工事及び建築工事、展示制作等を実施します。 工事完了は令和４年３月末、新博物館開館は令和４年 10 月ごろを予定しています。	令和２年度建築工事の着手に向け、建設予定地を取得、設計・調査業務及び造成工事の完了。	(1)　土地の購入　約 2ha (2)　調査・設計業務 ①建築実施設計 ②土質調査 ③展示設計 (3)　造成工事	《成果》 関係部署ならびに設計コンサルと定期的な調整会議を持ち進めた結果、高品質な成果品を納めることができた。 《改善点など》 十分な業務工期を確保するために、業務発注前の準備等（事業認可、関係機関協議・調整）を短縮することが必要である。	A	【施策全体について】 ・新館は建つが、中身の充実がまだ見えない。 ・目標に対する行動（実績）がしっかりとなされている。 ・新博物館に期待する。 ・今後、新博物館の充実に向け、市内の学校・児童生徒の活動への参加拡充の工夫をされたい。 【①について】 【②について】 ・通年的な人材不足なのか、一時的なものなのか。 ・友の会等、市民と協力した年間の活動が計画的に進められている。	・新館開設に係る広報をもっとやった方がよいと考える。 ・資料収集・整理や博物館活動の活動も多く、評価できる。 ・博物館は大事な文化施設である。これまでも大きな役割を果たしてきたが、新博物館にはさらに大きな期待をしたい。文化の街・名護市にふさわしいものを期待する。 ・新博物館建設について、計画通りの事業ができている。 ・理想としては、長時間過ごせるような工夫（例えば喫茶コーナーを設けるなど）も欲しい。 ・現状では、新館建設に、より注力して、資料の寄贈は一時ストップしてもよいのではないか。	令和３年度建築工事の完了に向け、令和２年度末までに建築基礎工事を完了させる。 新館に関連する情報発信については、ホームページ等の WEB 等媒体を活用し、定期的な発信に努める。
		令和６年度　目標値 新博物館の建設 【令和４年度に開館予定】	令和元年度　目標値 【設計・調査業務、造成工事の完了】	令和元年度　実績 【設計・調査業務、造成工事の完了】				令和２年度　目標値 建築基礎工事の完了
	②博物館資料の収集・整理・保管	名護博物館のテーマである「名護・やんばるの生活と自然」に関する資料を継続して収集・保存します。また、新博物館建設に向けて、現在収蔵している資料及びそれに付随する情報の記録・整理を進めるとともに、適切に保存・管理を行います。	・資料の収集・整理・保管 ・利活用の促進	・収集、寄贈、購入等により、分野ごとの資料を収集し、整理、登録した。 ・特記すべき点として、新博物館での展示を見据え酒器をテーマとしてやんばるの工芸家作による美術工芸資料 47 点を購入した。 ・自然史資料では、個人コレクション（やんばるのサワガニ類）113 点のまとまった寄贈があった。 ・新館移転に向け、公開終了した展示室の展示資料の整理等を実施し、資料情報のデジタル化も進めている。 ・平良孝七資料群（写真）の将来的な博物館への管理移管を踏まえ、資料整理に着手した。	《成果》 前年度を上回る資料点数を新たに収集、整理することができた。また、資料整理、標本作製等作業において名護博物館友の会など市民等の協力を得て効果的に進めることができた。 《改善点など》 資料の寄贈依頼が多く、長年の博物館活動が地域に浸透している成果ではあるものの、すべての依頼を受けるだけの許容量が人的・時間的・物理的に不足している。このため、新館業務や移転に関連する資料整理が十分に進んでいない。許容量を増やせない場合、資料収集方針を明確にし、通常の資料収集活動を制限する段階にきている。	B			・資料の収集・整理・保管 ・利活用の促進 新館業務に注力するため、新規資料の受入数は最低限とし、資料整理の比重を高める。これまでは寄贈依頼があった場合ほぼすべて受け入れていたが、過去の収蔵状況や資料の重要性を吟味した上で収集の必要性を判断する。
			令和元年度　目標値 【３０，７００点】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【３１，０３２点】 ※自然史(180 件)と民俗資料(145 件)美術工芸資料(57 件)の合計 382 件を収集、追加登録。				令和２年度　目標値 【３１，０５０点】

	③博物館活動の充実	新博物館開館後の活動については、学校や北部の博物館、その他の関係機関や団体等との連携を推進し、学習活動をはじめ、より充実した相乗効果の高い事業実施を展開します。広い敷地を活用した体験講座の実施、また新館では修学旅行生や団体客などの受け入れも可能となることから、市民だけでなく観光客も対象とした講座の企画など、より多くの方が参加できるような活動を目指します。	常設展示の公開を終了し、新博物館建設準備もあるため活動は制限されますが、可能な限り活動の充実を図ります。 ・ぶりでぃ子ども博物館 10 回 ・企画展・講座等 10 回	<ぶりでぃ子ども博物館> ・紙すき、川あるき等　５回 <企画展等>　４回 ・平良孝七写真展 ・上野英信 33 年忌記念展示会 上野英信関連企画 「眉屋私記」を歩く ・講演会関連展示会 「ウィルソンと沖縄を旅した男園原咲也の生涯 」 ・宮城一夫追悼回顧展 <講演会・体験講座>　７回 ・野鳥観察会 ・夏休み子ども昆虫標本づくり ・夏休みこども絵画教室 ・アカハラダ観察会 ・シンポジウム* 「イノシシと人について考える」 ・シンポジウム関連企画 フィールドツアー「大宜味村の猪垣散策」 ・やんばる学研究会 <イベント出展等>　１回 ・夏休み子ども自由研究 in 沖縄コンベンションセンター <その他の学習支援活動>53 回 ・羽地ダム鯉のぼり祭り自然観察会等イベント講師派遣：４回 ・学校見学・出前授業等：49 回	《成果》 常設展示室の一般公開を終了し、新館建設業務との兼ね合いで通常の博物館活動を制限しつつも、企画展・講座等 11 回を開催し、好評を得ることができた。 シンポジウムと関連フィールドツアーについては、やんばる学研究会や名護博物館友の会との共催で文化課とも連携協力し、県外から識者を招いて、より広がりを持った内容で開催することができた。 上野英信 33 年忌記念展示会においては、関係者や県外機関の協力を得て展示内容を充実させ、関連イベントの実施と併せて、地域の評価向上や記念碑建立の機運を高めること等に貢献した。 その他の展示会、講座等についても、開催内容を通じて、地域の文化教育振興に貢献した人物や自然、文化、歴史等について、広く一般にその価値を紹介することができた。 《改善点など》 展示会の開催にあたり、広報が十分に行えていなかった点が挙げられる。利用者にとってより効果的な広報の方法を模索する必要がある。 また、企画展をより成功させるためには、関連イベントを充実させ、関係団体・機関等と連携協力を密にすることが重要なので、そのためのネットワーク構築をさらに強化することが必要である。	B	【③について】 ・周知方法はこれから検討すべき点だと思う。	・より効果的な広報のやり方が必要かと思う。	令和２年度は新型コロナウイルス感染症の現状等を鑑みて、基本活動となる見学・講座等を原則休止する。 新館建設業務に負担のかからない範囲で出前授業等の一部学習支援活動（主に屋外実施のもの）は継続して実施する。
		令和６年度　目標値 入館者数（人） 【３０，０００人】	令和元年度　目標値 【　－　】 （常設展示公開終了）	令和元年度　実績 【　－　】					令和２年度　目標値 【　－　】 （常設展示場公開終了）
		講座参加者数（人） 【７５０人】	【５００人】 （平成 30 年度実績）	【４７５人】					【　－　】 （　ｷﾞｬﾗﾘｰ休館　）
		学習支援活動実施数（回） 【８５回】	【４０回】 （平成 30 年度実績）	【５３回】					学習支援等活動 【　５回　】
						総合評価	B	A	

具体的施策名	Ⅱ－２－（１） 市民に開かれた利用しやすい図書館運営
主管課	中央図書館

現状・課題	平成 27 年１月より、市民より要望の多かった開館時間の延長と祝日開館を実施しています。 平成 30 年３月に策定された「名護市子どもの読書活動推進計画」において、ブックスタート*事業を図書館の取組の一つとしていますが、市民からの問い合わせも多く、早期に開始する必要があります。 子どもから大人まで、名護市や沖縄県など郷土についての調査研究をする市民の要望に応えるため、継続的に郷土資料の充実を図る必要があります。 また、図書館の施設、設備においては経年劣化や老朽化などが見られるため、計画的な修繕の実施等の適切な維持管理が必要です。

P（計画）　D（実施）　C（検証・評価）　A（改善）

		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①レファレンスサービスの充実・実施	図書館の資料を用いて市民の調べもののサポートをするレファレンスサービス*の充実を図るため、資料の選定、購入及び郷土資料の購入を継続的に行います。また、レファレンス研修を行い、職員のスキルアップを図ります。	・参考図書、郷土資料の購入（随時）	・参考図書購入冊数　８６冊 ・郷土資料購入冊数 １，０４２冊	年間を通して、必要な資料の購入ができた。 レファレンス件数の減少は、１月の図書館システム更新休館と３月の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館の影響によるものと考えられる。	C	【施策全体について】 ・別角度から利用者分析（年齢、男女等）もあってもよいのではないか。それに対する目標人数など。 ・コロナ発生下での状況を鑑みる。 ・臨時休館を余儀なくされる中、概ね計画通り事業実施、実績をあげている。 【①について】 ・コロナ対策は不可抗力なので、評価に入れるべきではない。 【②について】 ・①に同じ 【③について】	・広報に力を入れてほしいと感じる。 ・学校や地域に対し、利用しやすいよう努めている。しかし、利用者側（市民）側がそれほど活用していない。PR、広報等をもっと工夫して行う必要がある。 ・臨時休館の影響を考慮すると、自己評価が厳しすぎるのではないか。 ・①に同じ ・ボランティアが頑張っている様子がわかるので、ボランティアが活躍できる環境を整えていってほしい。	・参考図書、郷土資料の購入（随時）
		令和６年度　目標値 レファレンス件数 【３，０００件】	令和元年度　目標値 【２，３０６件以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１，７９９件】 ※３／２～１６臨時休館				令和２年度　目標値 レファレンス件数 【１，５００件】
	②学校司書との連携	学校司書研修会に参加し、学校図書館と連携を図るとともに、市内小中学校のベストリーダー*紹介を継続的に行えるようにします。また、学校司書と協同で作成した名護市推薦図書リストを見直し、改訂版を作成するとともに、授業に関連した図書の貸出を行います。	・学校司書研修会への参加 ・市内小中学校のベストリーダー紹介 ・学習支援資料の貸出	・学校司書研修会への参加 （８回） ・市内小中学校のベストリーダー紹介（児童コーナーにて展示４月～６月） ・学習支援資料の貸出	市内小中学校のベストリーダー紹介は好評。中央図書館の貸出にもつながっている。 授業に関連した図書は、より多くの学校に提供できるよう、買い足しや、新刊図書の意識的な購入に努めた。 メールやファックスによる貸出依頼も定着しつつある。	C			・市内小中学校のベストリーダー紹介 ・学習支援資料の貸出
		令和６年度　目標値 学校からの貸出依頼件数 【１００件】	令和元年度　目標値 【４５件以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【４１件】 ※３／２～１６臨時休館				令和２年度　目標値 学校からの貸出依頼件数 【５０件】
	③ボランティアによるおはなし会の継続	乳幼児向けのおはなし会に加え、高齢者向けのおはなし会を開催します。 また、ボランティアを対象とした読み聞かせスキルアップ講座等を開催します。	・定例おはなし会（毎週土曜日） ・特別おはなし会	・定例おはなし会　３７回 ・英語のおはなし会　１６回 ・特別おはなし会　４回	定例おはなし会は、ボランティアがそれぞれの特色が生かされた内容となっており、どの週も一定数の参加がある。特別おはなし会も好評。 ３月は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためすべてのおはなし会を休止とした。 おはなし会は３密が避けられないため、今後の開催方法等を検討する必要がある。	B			・乳幼児向けおはなし会の再開 ・おはなし会の広報については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、市広報、ホームページ等で行う。
		令和６年度　目標値 おはなし会参加者数 【２，０００人】	令和元年度　目標値 【１，０８０人以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１，１３１人】 ※３／２～１６臨時休館				令和２年度　目標値 おはなし会参加者数 【２００人】

	④市民の要望に考慮した講座や講演会の開催	一般向けの本の装備（シール式ブックカバーのかけ方等）講座や中高年層を対象とした音読講座を開催します。また、郷土に関する講座、講演会を開催します。	・講演会 ・ブックカバー貼り方講座 ・音読講座 ・英会話カフェ	・図書館講演会「LGBT・性の多様性入門講座」 ・ブックカバー貼り方講座 ・音読講座 ・上映会、うちなー芝居上映会 ・アコークローシネマタイム開催 ・アメリカ情報コーナープログラム	開催したイベントは、おおむね好評だった。特に、図書館講演会「LGBT・性の多様性入門講座」は、特集コーナーも設置し、関連図書がよく借りられた。	A	【④について】 【⑤について】 ・ブックスタートがやっと開始できてとても良かった。とても有意義な事業なので、継続していただきたい。 【⑥について】		・感染症対策を考慮した図書館講演会の開催 ・講演会等の事後アンケートを今後も実施し、利用者の傾向等の把握に努める。
		令和６年度　目標値 講座・講演会等の開催数 【８０回】	令和元年度　目標値 【６７回以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【７５回】 ※３／２～１６臨時休館					令和２年度　目標値 講座・講演会等の開催数 【１回】
	⑤ブックスタート事業の実施	赤ちゃんとその保護者が絵本を通してふれあいの時間を楽しめるよう、ブックスタート事業を開始します。	・開始に向けての情報収集、予算計上 ・令和２年度の事業開始に向け、関連事業の開催	・開始に向けての情報収集、予算計上 ・あかちゃんえほんふれあいタイムの開催（毎月第１水曜日）	ブックスタートは、市民からの要望に加え、市議会で一般質問に取り上げられることも多かった。県内ですでに実施している自治体も多い。 令和２年度開始に向けて、情報収集及び予算計上ができた。 ブックスタート関連事業として、図書館会議室にて保護者と乳児１組ずつに読み聞かせをする、「あかちゃんえほんふれあいタイム」を実施した。	A			・ブックスタート用図書の購入 ・ブックスタート実施
		令和６年度　目標値 ブックスタート参加組数 【３００組】		令和元年度　実績 あかちゃんえほんふれあいタイム　参加組数 【２３組】					令和２年度　目標値 ブックスタート参加組数 【１００組】
	⑥施設・設備の維持管理	施設・設備の経年劣化や老朽化が見られるため、計画的な修繕の実施等の適切な維持管理を行います。		・トイレ（１階・地階）の給水不具合による給水管の配管修繕工事の実施。 ・消防用設備緊急時放送用バッテリー取り換え修繕。	施設の老朽化に伴う、施設・設備の修繕を要する箇所の調査・確認行い、急を要する箇所の修繕を最優先とし、中長期的な視野で、施設全体の修繕計画を立て実施する。	B			急を要する箇所の修繕を実施 ・トイレ便器、ドア、手洗い場の排水管等の取替え修繕 ・高圧受電盤設備機器の取替え修繕 中長期的な視野に立ち修繕を要する箇所については、予算確保等、計画的に実施 ・１階・地階の自動ドアセンサー機器の取替え修繕 ・ＡＶホールの映像機器の取替え修繕
						総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅱ－２－（２） 全市域の市民へ公平なサービスの提供
主管課	中央図書館

現状･課題	移動図書館サービスは、がじまる号が保育園、学校、公民館等を定期的に巡回し、図書の貸出を行っており、好評を得ています。そのため、保育園から、新規の巡回希望があります。 羽地地区センター図書室の利用が減少傾向にあります。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①移動図書館サービスの充実	毎年、サービスポイント*の見直しを行い、移動図書館サービスを継続的に実施します。 また、魅力のある特集コーナー作りや、夏休み期間にサービスポイント未設置の公民館等への特別巡回を実施します。	・夏休み特別巡回実施 ・サービスポイントの見直し	・夏休み特別巡回　５か所実施 ・サービスポイント及び巡回日程の見直しを実施（サービスポイント２８か所） ・浦添市立図書館と市制５０周年コラボ企画で、浦添市のまなびフェスタにがじまる号を出張展示した。（市民のひろば 12 月号に掲載）	貸出件数が大幅に減少しているのは、図書館システム更新のため、１月の第２週以降の巡回が休止となったことによる。 夏休み特別巡回は天候不良のため、予定の６か所が５か所となった。	C	【施策全体について】 【①について】 【②について】 【③について】 ・地域での利用者数増のためイベントを考えられたのはとても良かった。 ・コロナ発生での対応状況厳しい。 ・十分取り組めている。 ・課題とされる羽地図書室の充実に向けた取組及び浦添市とのコラボ企画は評価できる。	・基本的にできている。学校と補いながら全地域へ読書等のサービスを提供してほしい。 ・セット貸出の方法を考え直してもよいのではないか。実施の有無も考える必要があると考える。 ・イベントとの組み合わせで、図書館の紹介をすることはいいアイディアである。 ・中央図書館、羽地地区センター図書室と連携することで羽地地区センター図書室の利用が進んだと考えられる。	・サービスポイント及び巡回日程の見直し
		令和６年度　目標値 がじまる号貸出件数 【５０，０００冊】	令和元年度　目標値 【４４，６３８冊以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【４０，４０７冊】				令和２年度　目標値 がじまる号貸出件数 【４０，０００件】
	②自治公民館、企業へのセット貸出の推進	毎年、セットの本の入れ替え及びセット貸出希望団体の募集を行い、継続的に実施できるよう努めます。	・セット貸出団体新規募集 ・サービスポイントでのセット貸出募集	・セット貸出団体新規募集（市民のひろば掲載）したが、希望団体なし。 ・サービスポイントの団体にセット貸出を実施（７か所）	セット貸出の希望団体はなかったが、７か所のサービスポイント団体にセット貸出を実施。 学校や保育園の職員室での利用があり、おおむね好評。	B		・セット貸出団体新規募集及びサービスポイントでのセット貸出推進 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、サービスポイントの団体が利用しやすいようなテーマやシリーズ等の 10～20 冊程度のセットをいくつか作成し、貸出する。
		令和６年度　目標値 セット貸出ステーション数 【１０か所】	令和元年度　目標値 【７か所以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【７か所】				令和２年度　目標値 セット貸出ステーション数 【８か所】
	③羽地地区センター図書室の充実	継続的な資料の購入及び配架の見直しを行います。また、魅力のある特集コーナー作りをし、資料提供を行うとともに、利用促進につながるようなイベントを開催します。	・羽地図書室用資料の購入 ・イベントの開催	・羽地図書室用資料１,１６８冊受入（購入１，１３９冊、寄贈　２６冊、弁償等３冊） ・出版年の古い絵本等を中央図書館へ移動。（随時） ・折り紙教室開催（８月・５名） ・ブックカバー貼り方講座開催（１１月・４名）	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、３／２～１６までを臨時休館としたこともあり、貸出件数が減った。 その期間に開催を予定していた音読講座と浦添市立図書館とのコラボ企画「おはなしの玉手箱」も中止とした。 折り紙教室、ブックカバー貼り方講座ともに参加者は少なかったが、好評だった。	B			・羽地図書室用資料の購入及び資料の入れ替え ・イベントの開催
		令和６年度　目標値 羽地図書室来室者数 【１，０００人】	令和元年度　目標値	令和元年度　実績 【１，２８０人】				令和２年度　目標値 羽地図書室来室者数 【１，０００人】
		羽地図書室貸出件数 【８，０００冊】	【５，６８４冊】 （平成 30 年度実績）	【５，６７６冊】 ※３／２～１６臨時休館				羽地図書室貸出件数 【５，０００件】
					総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅱ－３－（１） 芸術文化の振興
主管課	地域経済部　文化スポーツ振興課

現状･課題	芸術文化は、人々の生活に楽しさや癒し、感動など心に潤いとゆとりをもたらしてくれます。市民が身近に芸術文化に触れる機会をつくるため、「鑑賞型事業」「体験型事業」「育成型事業」等の幅広い分野の事業を展開し、潤いと活力あるまちづくり実現のため芸術文化活動の促進に努めています。また、アウトリーチ*事業として学校や福祉施設等へ出向き、優れた舞台芸術に直接触れる機会をつくり、豊かな感性を育むとともに芸術への関心度を高める環境づくりにも力を入れています。なお、自主文化事業開催後にアンケートを実施しており、要望・意見などを業務（事業）改善のための貴重なデータとして活用し、芸術文化の創造・発信に役立てています。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）				A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①地域の芸術文化を生かしたまちづくりの展開	芸術文化の創造、交流、発信の拠点として市民会館の管理・運営の充実を図り、魅力ある文化施設の運用に努めます。また、市民が身近に芸術文化に触れる機会をつくるため、幅広い分野の芸術文化事業の企画、運営を行い、文化活動の提供、地域の若手芸術家の育成など、豊かな文化の裾野をひろげ、魅力的で活力あるまちづくりを目指します。	・ちゃんぷるーシアター ・NHK 新・BS 日本のうた ・フォークフレンドシップライブ ・やんばる展 ・やんばる展移動展（絵画・彫刻） ・やんばる展移動展（写真・陶芸） ・市民音楽祭 ・秋の夕暮れブックピクニック ・ジュニアオケ定期演奏会 ・児童劇団定期公演 ・こども一万人の個展 ・50th カウントダウンショー ・児童合唱団定期演奏会 ・合唱物語公演	○ちゃんぷるーシアター ○NHK 新・BS 日本のうた ○フォークフレンドシップライブ ○やんばる展本展 ○やんばる展移動展（絵画・彫刻） ○やんばる展移動展（写真・陶芸） ○市民音楽祭 ×夕暮れブックピクニック ○ジュニアオケ定期演奏会 ○児童劇団定期公演 ○こども一万人の個展 ×50th カウントダウンショー ×児童合唱団定期演奏会 ×合唱物語公演	当初の事業計画の約８割程度は実施することができた。 11 月開催の夕暮れピクニックは悪天候のため中止。 ３月に開催予定のカウントダウンショー及び合唱物語公演（児童合唱団定演含む）は、新型コロナウイルスの影響により開催不可能になった。	A	【施策全体について】 ・事業（公演）に目新しさがなくなると来場者が少なくなるので、常に何かしら新しい風を吹き込む工夫が必要かと思う。 ・感染症関係の影響が多大である。 ・コロナの影響が大きすぎるが、発表の場等を失った方々のフォローをどうにか考えてほしい。（無理することなく可能な範囲で） 【①について】	・思った以上に多くの事業や公演が開催されており、参加人数から見てもうまく進めたと思う。 ・なるべく多くの事業（公演）をやりたいということで、目標よりも公演数が多く、活動量が多い。 ・様々なイベントを企画し、市民の文化芸術意識の高揚に努めている。	・芸術文化活動応援事業 ・ドライブインシアター名護 ・やんばる展 ・市民音楽祭 ・無観客ライブ配信コンサート ・NHK 放送番組公開収録 ・ジュニアオケ定期演奏会 ・こども一万人の個展 ・児童合唱団定期公演 ・児童劇団定期公演 ・50th おめでとう企画 ・音楽×朗読劇場 ・市民参加型市制 50 周年記念事業 ※コロナ禍の影響により活動や発表の場を失った方々を支援する事業として「名護市芸術文化活動応援事業」を実施。３密を回避した施設のガイドラインに基づき市民会館大ホールを無料にて貸出し、活動の場を提供します。 ※コロナ禍の中で３密を回避した芸術文化事業の開催として今年度はホールにおいて、無観客ライブや、舞台発表などの状況を動画映像で収録し、映像配信するイベントや、屋外にて車両に乗ったまま映画鑑賞できるﾄﾞﾗｲﾌﾞｲﾝｼｱﾀｰなど予定しています。
		令和６年度　目標値 鑑賞型事業 【８公演】	令和元年度　目標値 【６公演以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１０公演（7360 人）】				令和２年度　目標値 【６公演以上】

	②市民参加型事業の充実	第一線で活躍する芸術家（アーティスト）が音楽や演劇などのワークショップ*を行い、市民の皆さんと一緒に舞台を創造する「市民参加型」の事業を行います。芸術文化を鑑賞するのみでなく、実際に参加・体験し、市民の芸術文化への関心度を高める機会を増やします。また、市民自らが直接芸術文化に触れ、参加することにより、地域の芸術文化の活性化へとつなげます。	・NHK 新・BS 日本のうた ・フォークフレンドシップライブ ・やんばる展 ・やんばる展移動展（絵画・彫刻） ・やんばる展移動展（写真・陶芸） ・市民音楽祭 ・合唱物語公演	○NHK 新・BS 日本のうた ○フォークフレンドシップライブ ○やんばる展 ○やんばる展移動展（絵画・彫刻） ○やんばる展移動展（写真・陶芸） ○市民音楽祭 ×合唱物語公演	第一線で活躍するアーティストと市民が自ら参加し創造する事業が実施できた。また、市民が直接芸術文化に触れ、発表する機会として、展示や音楽祭への参加等で地域芸術文化の活性化へとつなげた。 なお、３月に予定していた市制 50 周年企画「合唱物語」公演は、10 代の子どもたちが参加するイベントとして大きな期待をかけて準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により中止となり残念に思えた。	A	【②について】 【③について】	・アウトリーチ事業に関しては、まだしばらくは難しい状況が続くと思うが、開催の工夫をお願いしたい。 ・アウトリーチ事業の拡大に期待したい。	・第 47 回やんばる展 ・第 36 回市民音楽祭 ・NHK 放送番組公開収録 ・音楽×朗読劇場 ・市民参加型市制 50 周年記念事業
		令和６年度　目標値 市民参加型・体験型・育成型事業 【５公演】	令和元年度　目標値 【３公演以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【６公演】					令和２年度　目標値 【３公演以上】
	③高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業の拡充	高齢者福祉施設や障がい者施設、病院等、文化施設に足を運べない人々を対象とした、アウトリーチ事業を展開することで、多くの市民が芸術文化へ触れる機会を提供することができます。音楽（芸術）は精神的癒し、病状（症状）の緩和等というようなことが期待されており、芸術文化が社会に果たす役割を広げるためにもアウトリーチ活動の拡充を図ります。	・沖縄名護特別支援学校 ・県立北部病院ロビー ・老人介護施設 ・障がい者施設 （琉球交響楽団オーケストラ） （日本の伝統楽器「箏」）	○沖縄名護特別支援学校 （琉球交響楽団オーケストラ） ×県立北部病院ロビー ×老人介護施設 ×障がい者施設	アウトリーチの日程調整はできたが、今年度は、施設内でのインフルエンザの蔓延や新型コロナウイルスの影響により受入れ不可能な施設があり実施できなかった。	B			・市内障がい者福祉施設 ・児童養護施設等 ※これまでのアウトリーチは、芸術の魅力を身近に体感してもらうため比較的小規模での場所で開催していましたが、今後は３密を回避した場所で進めるなど、演奏家、受入側と調整していきます。また、飛沫感染などの少ない、ジャンル（種別）をコーディネートできるように工夫していきたい。
		令和６年度　目標値 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業 【８公演】	令和元年度　目標値 【６公演以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１公演】					令和２年度　目標値 【３公演以上】
						総合評価	A	A	

具体的施策名	Ⅱ－３－（２） 芸術文化活動担い手支援
主管課	地域経済部　文化スポーツ振興課

現状・課題	次世代の芸術文化を担い、支える人づくりに取り組むため、子ども芸術支援事業の充実を図り、子どもたちの豊かな創造力や、コミュニケーション能力を養うことを目指します。また、子どもたちの指導者と連携し、芸術文化活動へ参加できる環境を整備することで、活動発表、交流の場づくりを行い、芸術文化の担い手と支え手の双方の拡充に努めます。なお、近年、子どもたちを取り巻く環境が時代と共に変化する中で、部活動や習い事などが盛んになり、団員の確保に苦慮しています。 また、指導者についても、専門的な知識や経験を有する者が少なく、同様に厳しい状況にあります。学校等と連携したアウトリーチ事業では、一流のアーティストと身近に触れ合うことでコミュニケーション能力を高め、豊かな感性を養い、より芸術文化への関心を高める機会を提供していきます。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）				A（改善）
			当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①子ども芸術支援事業の充実	子どもが持つ豊かな感性と個性を伸ばすため、指導者と連携を図りながら、子どもたちが芸術文化を体感し、表現していくための発表の場、交流の場づくりを行っていきます。また、子どもたちの文化活動を充実させることで児童生徒の健全育成を図ります。	・地域活動ビーチクリーン ・市民音楽祭出演 ・ジュニアオケ定期演奏会 ・児童劇団定期公演 ・児童合唱団定期公演	○地域活動ビーチクリーン ３団体　36 名参加 ○市民音楽祭出演 ジュニアオケ参加　29 名 児童合唱団参加　17 名 ○ジュニアオケ定期演奏会 鑑賞者数　350 名 ○児童劇団定期公演 鑑賞者数　600 名 ×児童合唱団定期公演	年間の活動を通して、子どもたちの豊かな感性と個性を育てながら芸術文化活動を充実させることができた。 ３団体の団員数は、目標値を達成できたが、新型コロナウイルスの影響により３団の活動が２月下旬より休止になったため目標値に達成できなかった。また、児童合唱団の定期公演も、新型コロナウイルスの影響により実施不可能になった。	A	【施策全体について】 【①について】 ・コロナの影響が大きすぎるが、発表や体験の場を失った子どもたちへのフォローをどうにか考えてほしい。 ・指導者育成事業は考えられないか。	・芸術的な情緒教育を進めているのはよい。	・市民音楽祭出演 ・ジュニアオケ定期演奏会 ・児童合唱団定期演奏会 ・児童劇団定期公演 ・市民参加市制 50 周年事業 ・イルミネーション点灯式 ※コロナ禍で発表会や公演など制限がかかる中、令和２年度は、ガイドラインに基づく施設の使用となるため、３密を回避した公演などの工夫として、観客の人数制限、又は無観客公演などの状況を動画映像で収録し、映像配信する工夫も予定しています。 ※現在、指導者育成の一環として市内・県内の若手演奏家等に学校などへのアウトリーチ事業に参加してもらい、若手芸術家育成として活動の場を提供しています。
		令和６年度　目標値 ３団体団員数 【８０人】	令和元年度　目標値 【６６人以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【６７人】					令和２年度　目標値 【６５人】
		３団体活動回数（年間） 【１４０回】	【１３５回】 （平成 30 年度実績）	【１２２回】					【１２０回】
		３団体定期公演回数 【３回】	【３回】 （平成 30 年度実績）	【２回】					【３回】

	②市内の学校等と連携したアウトリーチ事業の展開	市内の学校等へプロのアーティストを派遣し、ワークショップやミニコンサートを実施することで、子どもたちに学校での学びだけでなく、芸術文化を身近に感じ、体験・活動ができる環境作りを行います。また、プロの演奏や表現を肌で感じることで、児童生徒の創造力や感性を刺激し、生きる力やコミュニケーション能力の向上を図ります。	・学校等への音楽家・オーケストラの派遣	○音楽家派遣（安和小 70 人） ○音楽家派遣（久辺小 140 人） ○音楽家派遣（羽地中 80 人） ○音楽家派遣（東江小 296 人） ○音楽家派遣（大北小 576 人） ○音楽家派遣（屋部小 647 人） ○音楽家派遣（緑風学 305 人） ○オーケストラ派遣 （沖縄名護特別支援 210 人） ○オーケストラ派遣 （大宮小学校 890 人） ○オーケストラ派遣 （久志支所ホール 350 人） ○音楽家派遣（三育中 45 人） ※（　　）は児童生徒参加人数	多くの児童生徒へプロの演奏などを身近で体験することにより、子どもの想像力と感性を刺激し、生きる力やコミュケーション能力の向上を図ることができた。 なお、実施回数や実施校が目標値に達成できなかったことは、学校が授業時数の関係で受け入れ態勢が厳しかったことやコロナウイルスの影響により実施が不可能になった要因もあった。	B	【②について】 ・学校の受け入れ態勢に課題がある。 ・中学校のアウトリーチ事業が少ない。実施できている学校もあるので、増やす工夫ができないか。	・アウトリーチ事業に関しては、できるだけ多くの学校に派遣をお願いしたい。 ・アウトリーチを受け入れる学校が増えるよう、学校との連携を期待する。 ・アウトリーチ事業で手を挙げない学校が多いのが気になる。学校も忙しいとは思うが、子どもたちの為に実施してほしい。	・市内学校へのアウトリーチ予定校 ・緑風学園 ・名護小学校 ・屋我地中学校 ・屋部中学校 ・東江中学校 ・屋部小学校 ・羽地中学校 ・東江小学校 ・名護小学校 ・真喜屋小学校 ・市内保育園 ・市内保育園 ※学校側が魅力を感じ、関心を持ってもらえるような演目・内容にします。 ※コロナ禍の中での開催として、これまでのアウトリーチは、演奏家と身近に触れあいコミュニケーション能力を高めるため音楽教室等の狭い場所での開催を中心としていましたが、今後は３密を回避した場として体育館などで工夫した開催を進めるなど、演奏家、学校側と調整していきます。また、飛沫感染などの少ないジャンル（種別）をコーディネートできるように工夫していきます。
		令和６年度　目標値 学校等へのアウトリーチ事業回数 【２５回／２０校】	令和元年度　目標値 【２２回／１７校以上】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１７回／１１校】					令和２年度　目標値 【１２回／１２校】
						総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅱ－３－（３） 市民会館の管理・運営の充実
主管課	地域経済部　文化スポーツ振興課

現状･課題	市民会館は昭和 60 年（1985 年）に開館し、これまで市民文化の創造活動の拠点として、本市の芸術文化活動の推進に大きく寄与してきました。築後 30 年以上を経過し、建物及び各種設備は老朽化が進み、会館全体の大規模な改修、修繕が必要な状態です。施設の安全を確保し、維持修繕を行っていく必要があります。 文化薫るまちづくりの活動拠点として、市民が安全・安心な環境で利用できるように、安全管理に十分な配慮が必要です。

			P（計画） 当該年度事業計画	D（実施） 取組内容	C（検証・評価） 検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	A（改善） 次年度事業計画
主な取組	①安全対策や防災対策などに配慮した施設や設備の維持管理	不特定多数が利用する施設として、危機管理・安全対策等に配慮した管理運営を行います。防災・防犯対策を構築し、利用者の安全を常に確保する維持管理に努めます。想定される様々なリスクに対応できるよう、職員の危機管理対応能力の向上を図ります。	・消防設備・防災設備の修繕 ・防犯・防災対策	・法令定期点検などで指摘されていた消防設備・防災設備の全面的な大型修繕業務が実施。 ・非常時蓄電池設備の取り換え等、計 15 件の修繕業務実施。 ・総合管理業務として電気・機械設備及び警備の受託業者と連携を図り、維持補修や防犯・防災対策を講じながら、安心・安全に施設を利用できるよう維持管理に努めた。 ・年度末２月頃より新型コロナウイルス感染が確認された時期から施設の感染拡大防止対策に努めた。	令和元年度は、施設を運営するにあたり大きな施設設備でのトラブルや事故もなく文化施設を利用いただくことができたが、老朽化した建物や設備の維持修繕を引き続き実施していく必要がある。 また、年度末の２月から３月にかけ新型コロナウイルス感染拡大により、予定されていた多数の行事が中止を余儀なくされる中、利用者への感染拡大防止対策やこれまで例を見ない状況などに対応できるよう危機管理能力が必要とされた。	B	【施策全体について】 ・大型修繕業務を着実に実施してほしい。 【①について】 ・これからも計画的に早目々の対応をして、市民に迷惑が掛からないように努めてほしい。 ・消防法との関連なら、学校施設同様、年次計画を作成すべき。 ・安全・安心に利用できるよう修繕できたことは良かった。今後も引き続き努めてほしい。 【②について】 ・今後は、時代のニーズに沿った施設へ備品等の充実に努めたい。	・市民会館は北部の芸術文化の中心的な役割を果たしている。 ・恒常的な予算確保が必要な事業だが、長期的には新しく作り替えることも検討してほしい。 ・すぐに新築とはいかないと思うので、管理・修繕をしっかり行いながら、長く使えるようにしてほしい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、文化・芸術団体の活動を支えていただいて、ありがたいと思う。	・文化薫るまちづくりの活動拠点施設並びに北部の芸術文化の中核施設として、利用者が安心・安全な環境で利用できるよう維持管理に努めます。 ・施設の老朽化に伴い、大規模修繕や設備機器等の更新が大幅に増えるため、効率的に機能維持する年次修繕計画を作成し、施設の長寿命化を図ります。 ・ウイルス感染予防対策や想定される様々なリスクに対応できるよう、職員の危機管理対応能力の向上を図ります。 ・大ホール舞台幕修繕 ・冷房機器修繕 ・施設内光電話回線切替 ・施設機械設備機器修繕等 ・ウイルス感染予防対策
	②利用者のニーズに応じた管理・運営の充実	利用者の声を反映した設備機器等の充実を図るとともに、時代に沿った施設の運用・安全管理を行っていきます。芸術文化活動に取り組む市民が利用しやすい利便性の高い施設とするとともに、様々なニーズに対応できる柔軟性を備えた管理運営を行います。	・備品等の更新 ・利用者への柔軟な対応 ・施設内及び駐車場周辺の環境整備	・安全第一に施設を利用できるよう、予算の範囲内で時代のニーズに沿った備品等の更新を行った。 ・施設利用者に対し行事の日程調整や演出的な要望を反映させ、利用しやすいよう柔軟に対応した。 ・利便性を高めるために施設内の全トイレの男女表示シールの整備、駐車場周辺の環境整備も行い、安心・安全・快適に施設利用ができるように努めた。	施設設備の充実を図る環境整備に大きな予算が伴うため、本施設の舞台・音響・照明設備などが経年劣化や法的根拠による更新が必要となり、交付金や補助メニューなどの活用で予算確保が必要とされる。 また、職員ひとり一人が様々なニーズに対応できるよう柔軟性が必要とされた。	B			・時代に沿った施設の運用・安全管理を行っていきます。芸術文化活動に取り組む市民が利用しやすい利便性の高い施設とするとともに、様々なニーズに対応できる柔軟性を備えた管理運営を行います。 ・芸術文化団体への支援 ・利用者への柔軟な対応 ・備品等の更新 ・ウイルス感染予防対策
					総合評価		B	B	

具体的施策名	Ⅱ-４-（１） 中央公民館の充実
主管課	地域経済部　地域力推進課

現状･課題	市内には、中央公民館をはじめ、博物館、図書館等の社会教育関連施設があり、それぞれの施設において特色ある事業が展開されています。中央公民館施設だけに留まらず、関連施設との連携強化を図るとともに、各支所を積極的に活用し、地域の特性、多様な課題に対して、幅広い年齢層の市民ニーズを捉え時代に即した内容を取り上げ、学習効果をより一層地域に還元できるよう公民館講座に取り組む必要があります。

主な取組		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
①サークル団体の支援及び発表機会の提供	充実したサークル活動ができるよう施設の定例利用や使用料の減免など団体を支援しています。年に１回、サークル団体の活動を披露するための発表会を実施していきます。	・サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行う。 ・10 月から３月にかけて、１サークルにつき２週間の展示発表を中央公民館で行う。 ・３月に開催される福祉祭りと合同で舞台系サークルの発表を行う。	・団体登録を行ったサークルに対し、施設使用料の減免等を実施。（サークル登録団体数:47 団体） ・展示発表：10/30 から３/４まで開催、５組のサークルが発表を行った。 ・舞台発表：３/11 福祉祭りと合同で開催予定であったが中止。（舞台系サークルへ参加希望アンケートを取り、６組のサークルが発表を行う予定であった。）	サークル間で出来るだけ曜日と時間が被らないように調整している。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためで福祉祭り中止となり、舞台発表はできなかった。 ただし、桜祭りやその他市内イベントへの出演や、市外の発表会へ参加しているサークルもある。	B	【施策全体について】 ・新型コロナの影響が見られるが、目標値に対して十分な実績値と思われる。 【①について】 【②について】 ・ほとんどが子どもの保護者に対して広報されているように感じるので、もっと広く知らせてもらいたい。 ・多岐にわたる講座内容である。	・コロナの影響があり、実施できなかったものもある中で目標達成しているため、取組はできている。 ・幅広く市民の文化面・芸術面で大きく貢献している。新型コロナで中止になったものもあるが、やむを得ない。	・サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行う。 ・10 月から３月にかけて、１サークルにつき２週間の展示発表を中央公民館で行う。 ・３月に開催される福祉祭りと合同で舞台系サークルの発表を行う。
	令和６年度　目標値 中央公民館サークル団体数 【４６団体】	令和元年度　目標値 【４６団体】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【４７団体】					令和２年度　目標値 【４６団体】
	サークル活動発表会 【１回】	【１回】 （平成 30 年度実績）	サークル活動発表会 【１回】 展示発表：５団体 舞台発表：中止					サークル活動発表会 【１回】 展示発表：５団体 舞台発表：１回(福祉祭り)
②社会的な課題をテーマにした講座の実施	「e スポーツ*体験」や「法律問題」など、社会の変化や要望に応じた講座を実施し、市民生活の向上を目指します。	・公民館講座の実施　２１回	【公民館提案型講座：１４回】 ・オリオンわくわくサイエンスツアー：172 人 ・夏休み☆親子でつくろう自由研究：65 人 ・大切な朝ごはん～ひとりでできるよ～：20 人 ・楽しい将棋教室：70 人 ・母の日プレゼントお母さんありがとうハーバリウム作り講座：33 人 ・いのち、ささえる大切なことば〝ゲートキーパー〟ってなに？講座：24 人 ・父の日に贈ろう：20 人 ・季節イベントに持って行きたいマイクラフトバック作り夏休み☆親子でつくろう自由研究：24 人 ・第２回子ども将棋大会 inＮＡＧＯ：70 人 ・夢は無限大∞～自分らしい生き方：27 人 ・今年は手作り！我が家のしめ縄：12 人 ・みんなで踊ろう～踊りくわでぃさー（四つ竹）：10 人 ・おうち De〝パン講座“フライパンパン〟：15 人 ・やーさのーし「みそ玉づくり」：17 人 【乳幼児期講座：１回】 ・パパもチャレンジ！パパ・ママベビーマッサージ♪：６人	講座等をより魅力的なるよう社会教育指導員とともに企画し、多くの方に参加してもらえるよう生涯学習の機会と場の充実を図ることができた。 中央公民館を利用していただくため、講座等の開催に当たって開催時間・曜日の設定に配慮することができた。	B			・公民館講座の実施 21 回
	令和６年度　目標値 講座実施数 【２１回】	令和元年度　目標値 【２１回】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１５回】 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため４講座中止）					令和２年度　目標値 【２１回】
	講座受講者数 【９００人】	【８００人】	【８１２人】					【８００人】

③社会教育拠点施設として中央公民館の管理・運営の充実	利用者が安全で快適に活動ができるよう、施設の修繕や備品の整備等を行います。	中央公民館の管理・運営を適切に行うとともに、施設の老朽化に伴う修繕や設備機器等の整備を行い、施設を安全かつ快適に利用できる公共施設の充実を図る。	・公民館の施設維持管理：事務所内のクーラーの老朽化に伴う取替整備を財政課と調整し早期に対応することができた。 ・施設の修繕：茶室や大和室の障子・ふすま等の張り替え、机の修繕、研修室の窓鍵、引き戸の修繕、電灯の基盤の取り替え等。	公民館の維持管理については、老朽化の進んだ施設でありながら、日々の点検や修繕等の対応をすることで利用者の方々に快適な空間として提供する。 また、中央公民館は築 35 年が経過しており安全管理を進めるうえでは計画的な修繕整備が必要とされる。	A	【③について】 ・施設については改築計画を予定する必要がある。 ・目的内に「安全で快適に」とあるが、トイレ環境においても早急に対応願いたい。 【④について】 【⑤について】	・中央公民館の改修は是非行ってほしい。近い将来での建て替えもお願いしたい。	中央公民館の管理・運営を適切に行うとともに、施設の老朽化に伴う修繕や設備機器等の整備を行い、施設を安全かつ快適に利用できる公共施設の充実を図る。
④「名護市公民館連絡協議会」との連携の充実	自治公民館長や書記を対象にした研修会を実施し、「名護市公民館連絡協議会」と連携の充実を図ります。 令和６年度　目標値 公民館職員等研修会 【１回】	各区の公民館長や書記を対象にした研修会の実施。 令和元年度　目標値 【１回】 （平成 30 年度実績）	・地域防災講座の実施（対象者：５５区自治公民館関係者） ①災害に強くなろう（地域力）の大切さ ②防災炊き出し体験 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） 令和元年度　実績 【０回】	市公連の役員会で要望の上がった「地域防災講座」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	B			各区の公民館長や書記を対象にした研修会の実施。 令和２年度　目標値 【１回】
⑤各地区及び他機関と連携した講座の実施	各支所及び他機関と連携した講座を展開し、出前講座を実施します。 令和６年度　目標値 地域移動講座 【５回】	各支所を活用した、地域移動講座の実施　５回 （目標定員数：200 人） 令和元年度　目標値 【５回】 （平成 30 年度実績）	【地域移動講座：８回】 名護地区 ・「陸上講座　大宮中学校」：74 人 久志地区 ・「陸上講座　緑風学園」：38 人 ・「お月見 NIGHT in カヌチャリゾート」：31 人 ・「婦人部塩麹講座」：10 人 ・「大切な朝ごはん～ひとりでできるよ」：18 人 屋我地地区 ・「屋我地島のアジサシ講座＆観察会」：17 人 ・「苔テラリウムワークショップ」：31 人 屋部地区 ・「女性の地域活動」ワークショップ」：８人 羽地地区 ・「春の星空講座 in 羽地ダム」（中止） 令和元年度　実績 【８回】 （参加人数：227 人）	各支所に配置されている社会教育主事と連携し、地域の要望課題を取り入れた講座を実施した。	B			各支所を活用した、地域移動講座の実施　５回 （目標定員数：200 人） 令和２年度　目標値 【５回】
					総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅱ－５－（１） 生涯スポーツの充実
主管課	地域経済部　文化スポーツ推進課

現状･課題	地域イベントでのスポーツ教室や夏休みの学校プール一般開放等、名護市スポーツ推進委員と連携して、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいます。 また、地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の資質向上に努めるとともに、新規スポーツ推進委員の確保に取り組んでいます。

		P（計画）	D（実施）			C（検証・評価）		A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①各種スポーツ教室の開催	市民が気軽にスポーツに親しめるよう地域イベント等で各種スポーツ教室を開催します。 令和６年度　目標値 スポーツ教室等への参加者 【１，７００人】	・シーカヤック教室 ・少年少女水泳教室 ・ニュースポーツ体験 ・スポーツ教室 ・スポーツ講演会 ・ツールド一輪車大会 ・チュックボール*大会 ・小学校交流駅伝競走大会 令和元年度　目標値 【１，６００人】	○シーカヤック教室…38 名 ○少年少女水泳教室…64 名 ○ニュースポーツ体験…498 名 ○スポーツ教室…80 名 ○スポーツ講演会…360 名 ○ツールド一輪車大会…285 名 ○チュックボール大会…110 名 ×小学校交流駅伝競走大会 令和元年度　実績 【１，４３５人】	当初の計画どおり事業を実施することができた。 ３月開催予定だった小学校交流駅伝競走大会は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。	A	【施策全体について】 ・今後の with コロナとしての対策が大変だが、継続・発展できるよう頑張ってほしい。 ・スポーツ教室等の開催、充実、組織の強化に向けて努め、実績をあげている。 【①について】 ・スポーツ教室開催地が偏らない工夫が必要。 【②について】 【③について】	・スポーツに関する大事な教室や啓蒙活動を行い、生涯スポーツの推進に寄与している。 ・引き続きスポーツ推進委員の確保や研修の成果の還元に努めていただきたい。 ・スポーツ推進委員自身の活動も大切である。	・シーカヤック教室 ・少年少女水泳教室 ・ニュースポーツ体験 ・スポーツ教室 ・スポーツ講演会 ・ツールド一輪車大会 ・チュックボール*大会 ・小学校交流駅伝競走大会 令和２年度　目標値 【１，６００名】
	②学校プール一般開放事業（羽地中、緑風学園）	市民の体力向上と水泳の振興を図るため、夏季休業期間における学校プールの一般開放を実施します。	・夏季休業期間中における学校プールの一般開放。（羽地中学校及び緑風学園）	・羽地中学校及び緑風学園のプールを活用して、夏季休業期間において、学校プールを一般に開放した。 （20 日間で 823 人の利用があった。）	羽地中学校と緑風学園の協力の下、夏季休業期間においてプールの一般開放が実施できた。大きな事故もなく、無事に事業を実施することができた。	A			・羽地中学校及び緑風学園のプールを活用して、夏季休業期間において、学校プールを一般に開放する。
	③スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援	地域のスポーツ振興を担う名護市スポーツ推進委員の確保や資質向上を図るための研修会等への参加や実技研修会を実施します。 令和６年度　目標値 スポーツ推進委員数 【２０人】	・スポーツ推進委員の確保 ・スポーツ推進委員の各種研修会等への参加 令和元年度　目標値 【１８人】	【研修会・研究大会への参加】 ・北部地区研修会 ・沖縄県研修会、研究大会 ・全国研究大会 ・九州地区研究大会 【自主研修会】 ・定例会４回／年 ・月例会８回／年 【その他】 各種スポーツイベントの運営役員や主催事業（シーカヤック教室、少年少女水泳教室など）を実施した。 令和元年度　実績 【２０名】	各種研修会等へスポーツ推進委員が参加し、自己研鑽を重ねており、その成果を①各種スポーツ教室を開催することで、地域へ還元していることから、引き続き研修会への参加を促していきたい。 今年度は新規スポーツ推進委員が３名増え、委員定員を確保することができた。	A			・スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。 【研修会・研究大会への参加】 ・北部地区研修会 ・沖縄県研修会、研究大会 ・全国研究大会 ・九州地区研究大会 【自主研修会】 ・定例会４回／年 ・月例会８回／年 令和２年度　目標値 【２０名】
					総合評価	B	A	

具体的施策名	Ⅱ－５－（２） 夢を育む競技スポーツの推進
主管課	地域経済部　文化スポーツ振興課

現状･課題	ＮＰＯ法人名護市体育協会やスポーツ振興協議会及び各種スポーツ団体等と連携を図り、競技力向上に努めています。 特に子どもたちが夢をもってスポーツに取り組めるよう、スポーツの楽しさや達成感を実感できる環境作りに取り組み、また、アスリートに触れ合う機会を作ることで、運動意欲の向上を目指しています。 子どもたちに直接指導し、又は、サポートする指導者や保護者等の資質向上等、子どもたちを取り巻く環境の整備を図ることが必要となっています。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①指導者や保護者に対する講習会等の実施	指導者や保護者を対象とした講習会等を実施し、指導者等の資質向上を図る取組を実施します。 令和６年度　目標値 指導者講習会等の参加者数 【１００人】	市内のスポーツ団体等の指導者等を対象とした指導者講習会の実施。 令和元年度　目標値 【３０人】	・池原塾(パフォーマンスを上げるトレーニング方法)３回実施 ・ワールドカップレフェリー西村雄一講演会 令和元年度　実績 【２３５人】	名護市スポーツ振興協議会と協力し、指導者等を対象とした講習会等を開催することができた。 参加者数が大幅に増え、参加者からも好評を頂いたので、継続して実施したい。	A	【施策全体について】 ・目標に対する実施としては大成功である。 ・スポーツを通しての文武両道や道徳もひっくるめて指導できれば、なお良いと思う。 ・青少年のスポーツに係る社会的課題等を視点とした内容にも取組み、生涯スポーツの推進を目指したい。	・大幅な参加者増となっており、事業としては大成功ということになる。今後も継続して実施していけるように調整をしてほしい。	市内のスポーツ団体等の指導者等を対象とした指導者講習会を開催する。 令和２年度　目標値 【２５０名】
	②アスリートによるスポーツ教室等の開催	子どもたちが夢を持ってスポーツに取り組めるよう、アスリートを招へいし、スポーツ教室や講演会を実施します。 令和６年度　目標値 アスリートによるスポーツ教室参加者数 【３２０人】	県内外で活躍するアスリート等を招へいしたスポーツ教室や講演会の実施。 令和元年度　目標値 【２５０人以上】	・琉球コラソンスクール ・Ｖ・明日夢プロジェクト(バレーボール：辺野喜未来氏、櫻井由香氏) ・ボールで遊ぼう(岡村要氏、田口恵氏) ・土居諒太テニススクール ・ラグビーキャラバン(廣瀬俊朗氏、三阪洋行氏、沖縄ハリケーンズ) ・又吉康十講演会 ・「夢の教室」(伊藤剛臣氏、下村東美氏、髙良亮子氏)等 令和元年度　実績 【１，４９４人】	名護市スポーツ振興協議会と協力し、アスリート等を招へいしたスポーツ教室や講演会を実施できた。 参加者数が大幅に増え、参加者から好評を頂いたので、継続して実施したい。	A	【①について】 【②について】 ・各々競技のトップアスリートを間近で見て話を聞けることで、自分にも努力次第で近づいていけるように感じられる、気持ちを後押ししてもらえると思う。 ・子どもたちが多様なスポーツを体験できるよう、教室・講演会等を開催してほしい。 ・意欲向上のための教室や講演会等の実績は大いに評価できる。	・野球やサッカーといったメジャーなスポーツだけでなく、多種多様なスポーツに触れる機会を作ることは大切である。各自の好みや体力に合ったスポーツに取り組めるよう工夫している。	県内外で活躍するアスリート等を招へいした、多種多様なスポーツ教室や講演会を実施する。 令和２年度　目標値 【１，５００名】
	③スポーツコンベンション誘致事業	県内外からスポーツキャンプや大会等を誘致し、アスリートと身近に触れあえる機会を創出します。 令和６年度　目標値 スポーツコンベンション実施件数 【２０件】	名護市合宿等支援助成金を活用し、名護市でのスポーツキャンプ等を誘致する。 令和元年度　目標値 【８件】	【助成金活用団体】 ・実業団　２件 ・大学　５件 【その他団体】 ・プロ　２件 ・実業団　４件 ・大学　３件 令和元年度　実績 【１６件】	北海道日本ハムファイターズの名護キャンプが再開し、ラグビートップリーグのNTT ドコモレッドハリケーンズがキャンプを行う等、アスリートと身近に触れ合える環境が増えたものと思われる。 しかし、３月の合宿については、新型コロナウイルスの影響で６団体のキャンセルがあった。	A	【③について】		名護市合宿等支援助成金を活用し、名護市でのスポーツキャンプ等を誘致する。 令和２年度　目標値 【１７件】
					総合評価	A	A	

具体的施策名	Ⅱ－５－（３） スポーツ施設の整備拡充
主管課	地域経済部　文化スポーツ推進課

現状･課題	管理施設である 21 世紀の森体育館や名護市陸上競技場、名護市Ｂ＆Ｇ海洋センタープール、真喜屋運動広場、羽地ダム多目的広場は、経年劣化による不具合が度々生じている現状があるため、利用者が安全で安心して使用できる環境の整備が必要です。 また、スポーツコンベンション*誘致を実施するため、その核施設となるサッカーラグビー場を整備し、快適なスポーツ環境を整備します。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①スポーツ施設維持管理業務	指定管理者と連携を図り、使用者が安全で安心して使用できる環境を整備します。	・施設の修繕	・B&G 海洋センタープール：プールタイル、温水ポンプの修繕 ・21 世紀の森体育館：大集会場の雨漏り修繕 ・真喜屋運動広場：ゲートバルブの修繕 計９件の修繕業務を実施。	令和元年度は、大きな事故もなく施設を使用していただけた。 しかし、施設の老朽化に伴い、引き続き施設の修繕業務を実施していく必要がある。	B	【施策全体について】 【①について】 ・引き続き老朽化対策をしっかりとお願いしたい。 ・年次的に施設整備計画を作成する必要がある。 【②について】 ・サッカーラグビー場の完成を期待している。プロキャンプ誘致による子どもたちのキラキラした瞳を見られることを期待している。	・名護市のスポーツ施設は、スポーツ愛好家にとって大きな役割を果たしている。 ・建て替えを含めて、長期的な計画も提示してほしい。 ・安全なスポーツができるため、整備・維持管理に今後も努めてほしい。	・21 世紀の森体育館床改修及び照明 LED 化、トレーニング機器(トレッドミル)の整備を実施する。 ・陸上競技場メインスタンドの危険性除去修繕を実施する。 ・B&G プールの大規模改修に向けた令和３年度の事業化に向け関係機関と調整する。 引き続き、指定管理者と連携し、修繕計画を見直しつつ施設の維持管理に努める。
		令和６年度　目標値 管理施設使用者数 【２００，０００人】	令和元年度　目標値 【１９０，０００人】	令和元年度　実績 【２０１，６６４人】				令和２年度　目標値 【２０２，０００人】
	②サッカーラグビー場の整備	スポーツコンベンションの核施設として、21 世紀の森サッカーラグビー場を改修し、スポーツキャンプやスポーツ大会等の誘致を図ります。	・実施設計業務 ・建築設計業務 ・土質調査業務	・実施設計業務完了 ・建築設計業務及び土質調査業務について、繰越しにて事業実施する。(令和２年６月 30 日完了予定)	サッカー及びラグビー関係者との調整に不測の日数を要したため、建築設計業務及び土質調査業務が年度内に完了することができなかった。 業務を繰り越して実施する。	B			・建築実施設計 ・土質調査業務 （令和２年６月末完了予定） ・土木工事 （グラウンド１面）
		令和６年度　目標値 サッカーラグビー場の整備 【令和３年度整備完了予定】	令和元年度　目標値 【調査業務の完了】	令和元年度　実績 【実施設計業務のみ完了】				令和２年度　目標値 【土木工事（グラウンド１面）の完了】
					総合評価	B	B	

具体的施策名	Ⅲ－１－（１） 青少年の健全育成に向けた取組の充実
主管課	地域経済部　地域力推進課

現状・課題	県内における、深夜はいかい、飲酒、喫煙等の不良行為で補導された少年は、全国の増減比と比べると、高い水準で推移しており、また、青少年を取り巻く環境も、夜型社会や、全国平均を上回る子どもの貧困率、離婚率など、課題が多く、青少年健全育成体制の充実を図るには、学校、家庭、地域、関係機関が連携して取り組む必要があります。 都市化や過疎化の進展に伴い、世帯規模の縮小、地域社会の連帯感の希薄化、子どもたちが生まれ育つ家庭環境や地域社会の環境が大きく変化している中、子どもたちの体験格差や日常の異年齢の子ども間の交流の減少、それに伴うコミュニケーション力の低下等の課題は、全ての教育の出発点といわれる家庭教育への支援について、親だけでなく、地域を巻き込んだ支援体制を整える必要があります。

		P（計画）	D（実施）		C（検証・評価）			A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①「名護市青少年育成協議会」活動の支援	「名護市少年の主張大会、ふるさと・未来・絆リーダー研修、善行青少年・青少年育成功労者並びに青少年育成功労者団体表彰、夏まつり・さくら祭り夜間街頭指導活動」等を実施します。	・第 39 回名護市少年の主張大会 ４月募集→６月事前審査会→７月実施 ・ふるさと・未来・絆リーダー研修リーダー研修 ４月募集→６月研修開始→10 月本研修→11 月事後研修 ・善行青少年・青少年育成功労者並びに青少年育成功労者団体表彰 10 月審査会→11 月表彰式 ・夜間街頭指導活動実施 【③の夜間街頭指導活動の実施を参照】	・第 39 回名護市少年の主張大会（7/12 開催：出場者８名、参加者 89 名） 市代表者が県大会へ派遣 ・ふるさと・未来・絆リーダー研修（参加団員 32 名） ◇本研修（8/5,6：渡嘉敷村） ◇事前・事後研修 （計６回実施） ・善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰 （11/26 開催：善行青少年２名、青少年育成功労者３名、参加者 17 名） ・夜間街頭指導活動　計 427 名 【③の夜間街頭指導活動の実施を参照】	大会は予定どおり行われ、十分な取組ができた。市代表者が県主張大会に出場し、審査員特別賞受賞は喜ばしい結果であった。 参加団員 32 名による「ふるさと・未来・絆リーダー研修」は、台風などの悪天候によるプログラムの変更、中止、延期があり、予定通りとはいかなかったが、可能なかぎり充実した研修を行った。館林市交流事業も台風により来沖できず中止となったのは残念であった。 表彰は予定どおり行われ、善行青少年２名、青少年育成功労者３名、計５名が表彰され十分な取組ができた。 夜間街頭指導活動 【③の夜間街頭指導活動の実施を参照】	B	【施策全体について】 【①について】 ・恵まれない環境でも何かに頑張っている子等、善行青少年の拡大・掘り起こしに努めたい。 【②について】 ・年々参加者数が減となるが、抜本的な対策が必要と感じる。例えば、各団体にアンケート調査し世の中のニーズに合っているかなどを調べる、他地域等のよい参考事例がないかを調べる等。	・概ね活動できていると感じるが、市民の意識啓発に関してどのような方策やアイディアがあるのか示してほしい。 ・大変難しく、大事な取組をしている。 ・参加者や支援者をどう増やしていくかが大きな課題である。（あまり負担でなく参加して楽しいという企画を期待したい。） ・活動の支援については目標値より少ない実績であったが、取組はできている。	・第 40 回名護市少年の主張大会 ・ふるさと・未来・絆リーダー研修 ◇本研修（10/9～11：群馬県館林市） ◇事前・事後研修 （計７回実施） ・善行青少年、青少年育成功労者並びに青少年育成功労団体表彰 （11/20 開催） ・夜間街頭指導活動
		令和６年度　目標値 青少年向けの育成事業への参加者数 【１，０００人】	令和元年度　目標値 【１，０００人】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【５６５名】				令和２年度　目標値 【１，０００名】 （前年度目標値参考）
	②「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催	青少年の夜遊びや深夜はいかい、未成年の飲酒を防止し、全市民が「夜型社会」や「飲酒に対する意識」の是正を図り、生活リズムの確立を目指すため、市民大会を開催しています。	・令和元年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民大会 ５月下旬３課（地域力推進課・学校教育課・総務部総務課）調整→６月県依頼事項に基づき実施要項整備、関係機関・団体へ共催依頼、大会運営準備→７月上～中旬大会実施	・令和元年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民大会 ◇期日：令和元年７月３日 ◇場所：市民会館大ホール ◇内容：主催者（市長）挨拶、小・中・高校生代表意見発表（決意表明）、市民（大人・高校生）代表による大会宣言 ＊司会は高校生を起用 ＊大会の様子について県内新聞報道あり	大会は、概ね予定通り順調にできた。 大会参加者数は 376 名（一般市民 209 名、学校生徒 167 名）と前年度（417 名）より減の結果となった。 青少年を取り巻く社会環境の健全化には市民ひとりひとりの心掛け、行動が必要なため、より多くの方々に参加してもらえるようにと広く呼び掛けを行っているが、年々参加者数が減少傾向にあり、また、参加者の重複が目立つ。 市民の意識啓発を図る上でより多くの方々に関わりをもってもらえるような方策を検討する必要があると考える。	B			・令和２年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」名護市民大会 ６月：県依頼事項に基づき実施要項整備、関係機関・団体へ共催依頼、大会運営準備 ・７月：令和２年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・いじめ防止、暴力根絶・夏の交通安全県民運動」作文ポスター作品募集の実施
		令和６年度　目標値 「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催 【１回】	令和元年度　目標値 【１回】 （平成 30 年度実績）	令和元年度実施回数 【１回】				令和２年度　目標値 【１回】

	③夜間街頭指導の実施	夏まつり、さくら祭りにおいて、小・中・高校の校外指導部や少年補導員協議会、名護警察署等と連携し、夜間街頭指導活動を実施しています。また、毎月第３金曜日の少年を守る日は児童生徒の下校時間に青色回転灯車両で巡回パトロールを実施します。 令和６年度　目標値 街頭指導の参加者数 【５００人】	・夜間街頭指導活動の実施 ＜夏まつり＞ ・６月学校・青少協等の各団体へ参加依頼→７月実施 ＜さくら祭＞ ・12 月学校・青少協等の各団体へ参加依頼→１月実施 令和元年度　目標値 【５００人】 （平成 30 年度実績）	・夜間街頭指導活動ボランティア ＜夏まつり＞ 7/28,29 実施（292 名） ＜さくら祭＞ R2/1/26 実施（121 名） ・青色回転灯巡回パトロール （７回実施、述べ 14 名） 令和元年度　実績 【４２７名】	夏まつり 292 名、さくら祭 121 名（2 日間のうち、1 日は悪天候により中止）、合計 413 名の参加者数となり、前年度（540 名）より減となった。 市民の意識啓発を図る上でより多くの方々に関わりをもってもらえるような方策を検討する必要があると考える。 青色回転灯巡回パトロールは、担当者の業務が重なる日もあったため、毎月１回巡回ができなかった。次年度は毎月１回できるよう体制を作る必要がある。	B	【③について】 ・青色回転灯巡回パトロールの方法を考慮してほしい。 ・②に同じ。また、祭り主催団体との意見交換（お互いに求める者の再確認）が必要。 【④について】 ・「ジュニアリーダーの育成」＝「地域人材育成」になり、重要性を感じるので、広報等でもっと知らしめてほしい。 ・自然体験活動に参加する範囲を広げる必要がある。		・夜間街頭指導活動ボランティア ＜夏まつり＞ 7/25,26 実施 ＜さくら祭＞ R3.1/30,31 実施 ・青色回転灯巡回パトロール 令和２年度　目標値 【５００名】 （前年目標値参考）
	④自然体験活動を通した児童生徒の健全育成事業の充実	次代を担う青少年が異年齢の集団による「ふるさと・未来・絆リーダー研修」、「ジュニアリーダークラブ活動」などの研修や体験活動をとおして、自然・歴史・文化に触れ、コミュニケーション力や協調性、規範意識を身に付け、自ら考え発言し行動する力を培い、持続可能な地域社会を構築できる人材育成を実施します。 令和６年度　目標値 自然体験学習の実施 【４回】	【名護市子ども会育成連絡協議会】 ・名護市ジュニアリーダークラブ活動支援 ・毎月定例ミーティングのサポート→ミーティングで企画された活動のサポート ・名護市ジュニアリーダークラブ研修会 ８月内容構成、団体役員調整、講師調整→10、11 月研修会実施 ・初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修 ８～11 月内容構成、団体役員調整、講師・会場調整、運営準備→12 月研修実施 ・ふるさと・未来・絆リーダー研修リーダー研修 ４月募集→６月研修開始→10 月本研修→11 月事後研修 令和元年度　目標値 【４回】 （平成 30 年度実績）	・ジュニアリーダークラブ活動 ①竹取物語 （7/7：参加者９名） ②屋部川七色にじまつりでのブース出店 （11/17：参加者 11 名） ・名護市ジュニアリーダークラブ研修会 （10/25，11/4，11/16：全３回実施） ◇参加者：名護市ジュニアリーダークラブ員 12 人 ◇講師：劇団チームスポット ジャンブル 劇団員（４人） ・初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修「冬キャンプ」 （12/14,15：参加者 39 名） ・ふるさと・未来・絆リーダー研修（参加団員５名） ◇本研修（8/5,6：渡嘉敷村） ◇事前・事後研修 （計６回実施） 令和元年度　実績 【５回】	名護市子ども会育成連絡協議会団体支援として共同実施。研修会は、概ね予定通り順調にできた。 ジュニアリーダークラブの活動は、定例ミーティング内で企画されるため、必要に応じて都度支援に入った。 名護市ジュニアリーダークラブは令和元年度に発足。構成員は、高４名、中 10 名、小２名（インリーダー）。主に市内をフィールドに自分たちがやりたい遊びや体験活動などについて、自主的、積極的に企画・運営に関わり、活動を行っていくためのスキルや知識などを身につけていくことを目標としている。 名護市子ども会育成連絡協議会では、ジュニアリーダーの育成を重点項目に掲げている。次代の地域人材育成を目指して、ジュニアリーダー育成に注力する名護市子連の団体支援は引き続き継続していく必要がある。 ふるさと・未来・絆リーダー研修については、青少協との共催事業として十分な取組ができた。	A			【名護市子ども会育成連絡協議会】 ・名護市ジュニアリーダークラブ活動支援 ・毎月定例ミーティングのサポート→ミーティングで企画された活動のサポート 沖縄北部森林組合ＣＳＲ企画 ・もりといきもの自然観察会①（9/19） ・もりといきもの自然観察会②（9/26） ・オリＴをつくる会＆ハロウィンイベント（10/31） ・ふるさと・未来・絆リーダー研修 ・初級ジュニアリーダー・子どもリーダー研修（3/20～21）実施 令和２年度　目標値 【４回】 （前年度目標値参考）
					総合評価		B	B	

具体的施策名	Ⅲ-１-（２） 家庭・地域の教育力向上の推進
主管課	学校教育課、（教）総務課 地域経済部　地域力推進課

現状･課題	家庭支援教育事業に係る人材の発掘と育成の仕組みの構築による、各小学校校区単位での持続可能な支援体制づくりが必要となっています。 また、家庭教育支援事業と公民館講座の親和性が高いため、一体的な実施による業務の効率化を図る必要があります。 弁当の日の実施校は年々増えており、平成 29 年度からは市内の全小中学校で、少なくとも年１回は実施しています。しかし、弁当を持参すること自体が困難である世帯もあることから、取組の内容についても検討する必要があります。 地域の支援者（退職教員、民生員、ＳＳＷ（スクールソーシャワーカー）、婦人会、ＯＢ、保護者等）の協力により継続して子どもの家が運営できており、放課後の子どもたちの安全で安心して過ごせる居場所となっています。課題としては、子どもの家事業の委託先である名護子育て支援塾の事務局員がここ数年の間に何度も替わるなど、事務局体制が脆弱で事業運営に影響がでていることから、安定した事業運営ができるよう体制強化の支援に向けて取り組む必要があります。

		P（計画）	D（実施）	C（検証・評価）				A（改善）
		当該年度事業計画	取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①「家庭教育支援事業」の充実	家庭教育支援事業の「家庭教育支援チーム」と連携し、親の家庭教育に関する学びの機会を提供します。 家庭の教育力を高めるための「やーなれー運動*」「親の学びあいプログラム*」や講座等を実施します。	つながる WaRaBar プロジェクト実施 ・「親の学びの場提供」 ・地域における支援体制づくり（人材育成） ・交流の場作り「フリーコミュニティスペースゆくり」	つながる WaRaBar プロジェクト実施 ・「親の学びの場提供」 講話回数計 43 回、参加者計 803 名。 ・「地域における支援体制作り（人材育成）」 講座回数 14 回、参加者 145 人 ・交流の場作り（ゆくり） ・家庭教育に関する後援（計 10 回）	計画通りに実施することができた。今後、内容の充実、更なる周知、拡充を行う必要がある。	A	【施策全体について】 ・取組内容の検証を見直す時期に来ているのではないか。 【①について】 ・個々の児童生徒にあった支援の在り方を考慮する必要がある。 【②について】 ・「弁当の日」ではなく、子ども自身が作った弁当を持ち寄って食べることに意義がある。 【③について】 ・社会のニーズに即した「教育の日」を設定する必要がある。 ・教育の日に限らず、今後は With コロナ下での大型イベントについては開催方法の検討が必要になる。 ・のぼり製作ができ、各小中学校へ配布できたのは大きな成果。今後も様々な方法でアイディアを活かし、市民への啓発を拡充させたい。	・親や子ども、地域の人を動かして活動するのは難しいが、よく頑張っている。 ・つながる WaRaBar プロジェクトなど新しい取り組みも始まり、よく取り組んでいる。	つながる WaRaBar プロジェクト実施 ・「親の学びの場提供」 ・地域における支援体制づくり（人材育成） ・交流の場作り「フリーコミュニティスペースゆくり」
	②弁当の日の実施	子どもが弁当を１人で作ることにより食への興味を引出し、命の尊さや料理を作る人への感謝の気持ちを育むため、名護市内のすべての市立小中学校において引き続き弁当の日を推進します。	・全小中学校で実施	・遠足や音楽発表会、教育の日等の日にお弁当の日を設定し実施（年１～３回）	ほぼすべての学校の年間行事として計画され実行されている。一部臨時休校の影響で実施できなかった。 副読本（食生活学習教材「くわっち～さびら」）でも「お弁当の日」について掲載があるため、各家庭で一読することを推奨することを検討したい。	B		・弁当を持ってくるのが難しい家庭のフォローも重要と考える。十分な支援をお願いしたい。 ・弁当の日は将来の生きる力にもつながるので継続してほしい。	・全小中学校で実施 ・食育の推進と連動した取組を実施
	③「名護市教育の日」の充実	市民の教育に対する意識と関心を高めるとともに、家庭、学校、地域、関係機関・団体が互いに連携し、地域全体で子どもたちを守り育てる環境づくりに取り組むことで、自らの「生きる力」を育み、「命の大切さや命のつながり」を後世へと伝え、夢と希望に満ちあふれた子どもたちを育てるため、１月の「名護市教育月間」において、様々な関連行事を開催し、１月の第３日曜日の「名護市教育の日」の周知に努めます。	・「名護市教育の日」の周知拡大 ・１月の「名護市教育月間」における関連事業の開催	・「名護市教育の日」のぼり製作 ・名護市立小中学校へののぼり・ポール、チラシ、ポスターの配布及び設置・配布依頼 ・市役所及び市民会館へののぼりの設置 ・市民のひろば及び HP に記事掲載 ・関連事業「名護市教育功労者・児童生徒等表彰式」「文化財活用事業」（２件）の実施	開催方法を大幅に見直し、名護市教育功労者・児童生徒表彰及び読書感想文最優秀作品紹介を行った。中ホール（約 300 席）で開催し、来場者数は 253 人であった。 周知方法はこれまでの市民のひろばやチラシ・ポスターの配布等に加え、今回はのぼりを新たに購入し、各学校でものぼりを設置し周知に努めた。 関連事業として実施した事業は３事業であったため、単独で開催している事業を「名護市教育の日」と関連付けて周知に繋げる必要がある。	B		・名護市教育の日の内容については、著名人の講演会もセットにするなどの工夫が必要。	・「名護市教育の日」の周知拡大 ・１月の「名護市教育月間」における関連事業の開催 ・「名護市教育の日」「名護市教育月間」における関連事業の実施方法等の検討

	④「子どもの家」事業の支援	放課後の居場所に困っている子どもとその父母を支援するために、地域の公民館や集会所等を活用して、地域の支援者の人材確保に努め、現在開所している子どもたちの放課後の居場所「子どもの家」の継続に取り組み、地域の皆で地域の子どもを育てます。	・支援者勉強会 ６月内容構成、事業委託先（名護子育て支援塾）との調整→７月勉強会実施 ・支援者確保（名桜大学生サポーター）に関する取り組み ４月名桜大学習支援ボランティア交流会参加→７月名桜大内ボランティア募集ブース内容確認→８月名護子育て支援塾との調整、名桜大学生ボランティア管理部署との調整	・支援者勉強会 「テーマ：活動実施に伴う保険について」 （7/9 開催：参加者 34 名） ・支援者確保（名桜大学生サポーター）に関する取り組み ◇名桜大内ボランティア募集ブース内容確認（10/10）	支援者勉強会については、概ね予定通り順調にできた。 サポーターの皆さん及び名護子育て支援塾からの要望により左記テーマでの勉強会を実施。今後も活動するにあたり支援者として必要な知識やスキルに関する勉強会・研修会を要望・ニーズに応じて実施していく必要があると考える。 支援者確保に関する取り組みは十分に実施できなかった。 名護子育て支援塾との十分な調整ができなかったためである。 高齢化により、年々支援者数が減少傾向にある。事業推進の上で支援者の確保については、必須事項であるため、名護子育て支援塾と協議しながら、人材確保の方策を引き続き検討していく。	C	【④について】 ・子どもの家については、時代に沿った内容でとても重要。支援者確保も難しいだろうが頑張ってほしい。		・支援者向け勉強会 ・学校訪問　２回 コロナの影響を鑑み規模を縮小しての実施 ・クリスマス会（12 月） ・さくらまつりへの参加 ・支援者確保に関する取り組み（名桜大内）
		令和６年度　目標値 子どもの家実施数 【１８ヵ所】	令和元年度　目標値 【１８ヵ所】 （平成 30 年度実績）	令和元年度　実績 【１８ヵ所】					令和２年度　目標値 【１８ヵ所】
					総合評価		B	A	

具体的施策名	Ⅲ－１－（３） 社会教育団体の活性化
主管課	地域経済部　各支所、地域力推進課

現状・課題	「名護市子ども会育成連絡協議会」「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市ＰＴＡ連合会」ともに積極的、活発に活動に取り組んでいますが、社会教育団体は、各区等の団体や会員の加入、役員の担い手不足など、これまでと同様に課題が残っています。 従来のイベント型や動員型の活動や取組になるのではなく、時代に応じた組織の有り方、団体へのニーズや必要性、活動内容の改善など、各社会教育団体自ら抱える課題について会員相互が議論し、どのような活動や役割が望まれるのか、団体の活性化に自ら試行錯誤する取組が望まれています。

			P（計画）		D（実施）	C（検証・評価）				A（改善）
			当該年度事業計画		取組内容	検証	自己評価	内部評価（意見）	外部評価（意見）	次年度事業計画
主な取組	①各支所（社会教育主事）による地域の社会教育団体支部組織等の支援	各支所管内の社会教育団体の課題を把握するため、支所職員が地域活動や団体活動に出向くよう努め、課題解決に向けた手立てを住民とともに考え、社会教育団体活動の実践を支援します。	羽地支所	羽地支部青少協 ・平和学習 ・羽地展 北支部体育協会 ・球技・格技大会 ・やんばる駅伝 ・陸上競技大会 羽地支部老人クラブ ・グランドゴルフ大会 ・ゲートボール ・芸能大会 ・市老人クラブへの参加支援 ・地区老人クラブへの参加支援 その他・地域支援 ・羽地地域小学校平和学習支援 ・コスモスフェスティバル ・羽地ダム鯉のぼり祭り	【羽地支部青少協】 ・第６回羽地展開催（羽地地域小中学生の絵画・書道展示、紙芝居、モノづくり体験、高校生による書道パフォーマンス、仲尾次地域めぐり実施） ・第 25 回平和学習実施（戦時中の避難小屋の実製作等） 【老人クラブ】 支部事務局として ・第 19 回グランドゴルフ大会 ・ゲートボール大会 ・第８回芸能大会 ・第 38 回老婦人運動会の実施 【北体協】 ・第 48 回北支部球技武道大会 ・第 48 回陸上競技大会の実施 ・やんばる駅伝出場、名護市陸上競技大会出場への支援 【その他・地域支援】 ・青少協文化振興部の協力を得て、稲田小学校全校児童を対象に平和学習（紙芝居の読み聞かせ、講話）の実施 ・各区長、農家、企業、青年会等の協力を得て、コスモフェスティバルを開催 ・沖縄高専の依頼への協力（地域課題解決授業「タイワンハブの駆除」での関係機関への接続、捕獲機製作・設置等） ・羽地ダム鯉のぼり祭りの実施 ・羽地地域の区長を対象とした助成事業の説明会の実施、相談への対応	青少協の取り組みは、団体の活動の認知度が上がり、部員の意識も高まり、自ら考え積極的な取り組みとなってきている。 各団体においても、事業の達成感が次回への取り組みの意欲になっている。 その他の地域支援についても、各区区長をはじめ、羽地地域の企業や住民の積極的な取り組みが出ており、今後も継続して支援に取り組むとともに、これまでつないできた取り組みが団体役員や地域住民の主体的な取り組みとなるよう支援したい。 助成事業の情報提供と説明会を行うことにより、これまで行政に頼りがちだった状況から、羽地地域では区長、書記が積極的に助成事業を活用するようになり、自治会活動の活性化の一助となっている。 社会教育団体は、役員の担い手の不足や組織体制など、これまでと同様に課題が残る。今後も各団体と連携し、現在の活動や社会状況に合わせた団体の在り方や活動内容について情報交換をしながら、継続的に支援していけるよう取り組んでいく。	A	【施策全体について】 ・各取組ともしっかりと検証（分析）ができていると思うので、次年度以降の活動に期待できる。 ・安定するまでは時間がかかると思うが、しっかりと支援をしてほしい。 【①について】 ・各地域の特性が生かされる活動がなされている。 ・各支所ごとに特色ある取組ができている。 ・各支所とも地域の特性を生かした活動、他機関と連携した活動が効果的に展開されている。今後益々高齢化が進む中、高齢者の協力をいかに取り込むかがポイントとなるのではないか。	・地域の実情に合わせて、既存の組織の有り方や役割を見直すこと等、数値目標に現れないところでも十分な取組ができている。 ・各団体が何をやっているのかの広報も強化が必要。 ・各支所とも独自の活動をしていて素晴らしい。人集めに苦労していることが伺える。	羽地支部青少協 ・平和学習 （コロナの影響にて内容、開催時期を変更） ・子ども豊年祭 北支部体育協会 ・球技・格技大会 ・やんばる駅伝 ・陸上競技大会 羽地支部老人クラブ ・グランドゴルフ大会 ・ゲートボール大会 ・芸能大会 ・パークゴルフ大会 ・市老人クラブへの参加 ・地区老人クラブへの参加 ・老人婦人運動会 その他・地域支援 ・羽地地域小学校平和学習支援 ・羽地地域小学校稲作体験 ・羽地ダム鯉のぼり祭り ・コスモスフェスティバル ※新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、適宜変更・中止する。
			久志支所	・久志地域交流推進協議会に二見以北地域森林体験事業を委託。実施主体との調整。 （青少協） ・図画・書初め展、 ・実践発表会 ・各スポーツ交流 （老人会） ・各レクリエーション ・老人婦人運動会 ・視察研修 ※事業の活性化のため見直しを図る。	・久志地域交流推進協議会へ事業委託。（ふるさと学習、カヤック体験、シークワーサー収穫・加工体験等、二見以北地域の自然の中での体験学習を実施。）（計１３コマ） （青少協） ・図画・書き初め展、実践発表会・各スポーツ交流等を実施 （老人会） ・各レクリエーション、老人婦人運動会、視察研修等を実施	体験学習等もスタッフが協力して混乱も無く整然と実施でき、子ども達も有意義な時間を過ごすことができた。 （青少協） 事業の在り方を見直し、支部スポーツ交流会として実施。図画書き初め展も募集方法を工夫して応募数の増につなげた。 （老人会） 各行事参加人数も多く盛り上がりを見せていた。	A			・二見以北地域森林体験事業 （青少協） ・スポーツ交流会 ・ソフトバレーボール大会 ・図画・書初め展 ・市政５０周年記念 WS ・青少年育成者実践発表会 ・文集「まごころ」第 55 巻発行 （老人会） ・各リクリエーション（ゲートボール等、グランドゴルフ） ・老人婦人運動会 ・視察研修

			屋部支所	・地域住民、社会教育団体の自発的活動の支援 ・広報誌（地域の情報共有・つながるきっかけづくり） ・青少協支援 ・婦人会支援 ・講座２回 ・書記会６回 ・広報誌月１回	＜青少協支援＞ ・子ども達を支援する団体（学推・青少協・生徒指導連絡会）の関係整理を学校と実施 ・恒例の夏・冬の子ども会交流事業、にじまつりでの親子ふれあい事業実施 ・プログラミング講座の実施 ・子ども会へ講師等情報案内 ＜婦人会支援＞ ・区の婦人会の課題解決のために支部組織の解散について議論があがり、各区調査・意見交換、講座の実施、解散までの段取り支援実施 ※青少協と婦人会支援で講座２回実施 ・書記会６回実施。 ・広報誌については社会教育主事が産休・育休のため８月号までの発行。	青少協・婦人会とも部員・会員は課題が見えており、その解決に向け他団体との調整・つなぎが今回できたことで一歩前に進めた。以前の社会教育課でつながっていた他団体の情報があったからこそ支援できた内容である。今後、婦人会については、支所が市とのつながりや各区間のつなぎ・支援を意識し対応していかなければいけない。 また引き続き、市民の方から声が上がった時に学びを実行し、学びへの意欲増加、社会・地域参加の意欲につなげたい。また「何をしているかわからない」といった事が少なくなるよう地域の情報が届くように情報発信を続けたい。	B			・地域住民、社会教育団体の自発的活動の支援 ・広報誌（地域の情報共有・つながるきっかけづくり） ・青少協支援 ・各区女性会・婦人会支援 ・書記会支援 ・広報誌月１回
			屋我地支所	【青少協支援】 【老人会支援】 【地域限定広報誌発行】	【青少協支援】 ・Happy アコウ´s（屋我地昼ぎ学園５～９年生対象）による人材育成、リーダー育成 ・三・四世代が交流できる場として、各種ワークショップを企画・開催。 ・やがじ展は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。 【老人会支援】 ・各レクリエーション活動（グラウンドゴルフ） ・市老人クラブへの参加支援 ・民舞講習会支援 【地域限定広報誌発行】 ・地域限定広報誌「やがじ」の発行（月１回）による地域情報の発信 ※令和２年４月から休刊	次世代の子ども達の育成を中心に活動を行い、各種活動に参画することで郷土愛を持つ心を養えた。また、子ども達を支援することで、自らの意思で手伝いたいと申し出る保護者も出てきた。子どもが地域行事や歴史、文化を学ぶことで親の学びにも繋がっていると確信した。こちらからの積極的な支援も時として必要な場合もあるが、主体性を持つためには、間接的支援が効果的な側面もあると考えられる。 団体支援について、担い手や若者が少ないことから各種団体（子ども会、青年会、婦人会、老人会）の横の連携や支援の難しさが挙げられる。 広報誌について、継続的な取り組みにより、生活の一部として広報誌が位置付けられている。また、活動者の声を届けることで、住民相互が繋がるきっかけとなっている。	B			【青少協支援】 ・Happy アコウ´s ・三・四世代交流 ・やがじ展 【老人会支援】 ・各レクリエーション活動支援 ・市老人クラブへの参加支援

	②各種社会教育団体等の活動の支援	「名護市子ども会育成連絡協議会」「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市ＰＴＡ連合会」等の活動を支援し、時代に応じた組織の有り方や活動内容など、各社会教育団体自ら、抱える課題の改善に向け会員が相互に議論し、団体の活性化に自ら試行錯誤し取り組めるよう、団体指導者研修会等を実施し支援します。 令和６年度　目標値 社会教育団体指導者研修会への参加者数 【１２０名】	・名護市婦人会研修 →５月：課内調整、講師調整 →６月：講師との内容調整 →７月：運営準備、研修実施 ・名護市婦人会「ぶっちゃけゆんたくナイトカフェ」（ワークショップ形式座談会） →９月：課内・婦人会調整、講師調整 →10 月：運営準備、第１回開催 →11 月：第１回目振り返り、運営準備、講師調整 →12 月：運営準備、第２回開催、第２回目振り返り →１月：講師調整、運営準備、第３回開催、第３回目振り返り →２月：運営準備、第４回開催 →３月：第４回目振り返り 令和元年度　目標値 【１１８名】 （平成 30 年度実績）	・名護市婦人会研修（7/13） ◇講師：沖縄キリスト教学院大学教授　新垣誠氏 ◇演題：『百人百色 人生 100 年時代へ レディ（Ready／Lady）Go!!～姉さんたちはすごいよ～』 ・名護市婦人会「ぶっちゃけゆんたくナイトカフェ」（ワークショップ形式座談会） ◇講師：沖縄キリスト教学院大学教授　新垣誠氏（第１～３回） 【第１回（10/30）】 ◇内容：課題・問題点・ニーズ抽出 【第２回（12/3）】 ◇内容：課題解決に関する議論 【第３回（1/18）】 ◇内容：課題解決に関する議論（役員のみ） 【第４回（2/28）】 ◇内容：まとめ、次年度以降について 令和元年度　参加者数 【１６６人】延べ人数	研修会・座談会ともに、概ね予定通り順調にできた。 市婦人会は、多年にわたり地域活動の担い手として取り組んできているが会員数の減少が顕著で存続が課題である。同会を形成している４支部の内、１支部が令和２年度解散する意向を示している。 婦人会会員の現状や問題点、ニーズ等の把握のためワークショップを実施したところ、会員数が落ち込んだ要因として、市のイベント等の動員が主活動となり、年間を通じた事業内容がマンネリ化していることが挙げられた。また、活動内容のニーズを抽出し、興味・関心事に関する学びの場を欲していることがわかった。 社会教育団体として持続可能な組織運営ができ、地域課題の解決に結びつくような活動展開ができることを目指し、時代の変遷とともに在り方について同会と協議しながら引き続き見直しを図っていく必要性があると考える。	B	【②について】 ・社会教育関係団体の弱体化を防ぐ組織の在り方の模索を。	・現状の社会に合わせた形での活動が必要で、これまでの団体の組織改編も必要。（婦人会が女性会になったのもその顕れと考える。） ・コロナを機に組織の在り方、活動内容を検討してみたらどうか。	・名護市女性会研修（７月） ・名護市女性会講座（11/19） ◇講師：宮里病院 認知症疾患医療センター 金城愛氏 ◇講座テーマ：「人生 100 年時代　認知症にまつわるエトセトラ」 ＊昨年度のワークショップの中で交わされた意見を基に学びの場を企画支援 ・名護市女性会「ぶっちゃけゆんたくカフェ」（２～３月） ＊昨年度に引き続き、組織の在り方、活動内容を検討するための座談会の企画支援（内容調整中） 令和２年度　目標値 【１２０人】 （前年度目標値参考）
						総合評価	B	B	

Ⅴ　用語一覧

＜施策順＞

施策 No.	用語	意味
Ⅰ-1-(1)	家庭学習チームシート	国頭地区における学力向上推進に係る取組の一つ。自主的に家庭学習に取り組めるように、学校ごとに学年単位、低・中・高学年単位等でチームを組み学校における実践事項をまとめたシートのこと。
Ⅰ-1-(2)	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。
Ⅰ-1-(2)	キャリアパスポート	自らの学習状況やキャリア形成見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価出来る様工夫されたポートフォリオのこと。
Ⅰ-1-(2)	ジョブシャドウイング	児童が企業の社員に半日又は１日、密着し職場での仕事について観察して学ぶ取り組みのこと。
Ⅰ-1-(3)	通級	特別支援教育の制度の一つで、軽度の障害がある児童が通常の学級に在籍していながら、通級指導教室で特別の教育を受けることの出来る制度のこと。
Ⅰ-1-(3)	特別支援教育	障害のある児童の自立や主体的な取組を支援し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育のこと。
Ⅰ-1-(5)	キャリアステージ	組織内における役割分担のレベルを示す基本的な考え方。
Ⅰ-1-(5)	小一プロブレム	小学校へ入学したばかりの１年生が、話を聞かない、授業中椅子に座っていられないなど小学校生活になかなか馴染めない状態が数ヵ月継続する状態のこと。
Ⅰ-1-(5)	ソーシャルスキル	社会の中で普通に他人と交わり、共に生活していくために必要な能力。
Ⅰ-1-(5)	スタートカリキュラム	小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第１学年入学当初の教育課程のこと。
Ⅰ-1-(5)	保幼こ小	保育園・幼稚園・認定こども園・小学校
Ⅰ-1-(5)	幼保連携型認定こども園	幼稚園機能と保育所機能の両方を合わせて持つ単一の施設で小学校就学前の子供の教育・保育・子育て支援を一体的に提供する施設。
Ⅰ-2-(1)	ICT	情報通信技術(Information and communications technology)の略
Ⅰ-2-(1)	デジタル教科書	紙の教科書の内容全てを電子黒板やタブレットなどにデジタル化した教材。
Ⅰ-2-(2)	イマージョン教育	英語を教科として学ぶのではなく、英語はあくまで手段として理科や算数などの教科を、英語を媒介として学んでいく教育法。
Ⅰ-2-(2)	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのこと。

Ⅰ-2-(2)	TT 授業	チーム・ティーチングの略で複数の教員が役割を分担し協力し合いながら指導計画を立て指導する方式のこと。
Ⅰ-2-(2)	統合型校務支援システム	教務系、保健系、学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、広く「校務」と呼ばれる業務全般となる機能を実施したシステムのこと。
Ⅰ-2-(2)	乗り入れ授業	小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ行って授業を教えること。
Ⅱ-1-(2)	フィールドワーク	現地を実際に訪れ直接観察したり、関係者に聞き取り調査を行うなどして、現地での資料採取を行うこと。
Ⅱ-1-(3)	シンポジウム	一つの問題について何人かが異なる面から意見を述べ合い、質疑応答を繰り返す形の討論会。
Ⅱ-2-(1)	ブックスタート	赤ちゃんとその保護者に絵本の読み聞かせ体験と絵本１冊をプレゼントすること。
Ⅱ-2-(1)	ベストリーダー	よく読まれた本、貸し出しの多かった本のこと。
Ⅱ-2-(1)	レファレンスサービス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が利用者の調べ物をサポートする業務。
Ⅱ-2-(2)	サービスポイント	利用者が図書館サービスを受ける場のこと。移動図書館「がじまる号」の巡回場所。
Ⅱ-3-(1)	アウトリーチ	家庭や日常生活の場に出向きサービスや活用可能なサービスの情報を届けること。
Ⅱ-3-(1)	ワークショップ	参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習。
Ⅱ-4-(1)	ｅスポーツ	通称エレクトロニック・スポーツでコンピュータゲームをスポーツ・競技として捉える際の名称。
Ⅱ-5-(1)	チュックボール	弾力のあるネットに、ボールをシュートしあうゲームで、ハンドボールによく似たスポーツのこと。
Ⅱ-5-(3)	スポーツコンベンション	屋内、屋外競技の全般を対象とし、コンベション（大会・集会）という視点からスポーツにおけるキャンプ、合宿、大会、イベント、試合、自主トレなどが含まれる。
Ⅲ-1-(2)	親の学びあいプログラム	沖縄県が推奨する、学校や幼稚園、身近な地域でお互いに交流しながら、楽しく学び合うことができる参加型（ワークショップ型）学習プログラムのこと。
Ⅲ-1-(2)	やーなれー運動	沖縄県が推奨する、家庭、学校、地域が連携し、家庭教育力の向上を図る運動のこと。 「やーなれーる　ふかなれー」：家庭でのしつけや習慣が外に出たときのかがみになるという意味を持ち、こどもの健やかな成長にとって家庭教育は大切だということ。

＜五十音順＞

	用語	意味	施策 No.
ア	ICT	情報通信技術(Information and communications technology)の略	Ⅰ-２-（１）
	アウトリーチ	家庭や日常生活の場に出向きサービスや活用可能なサービスの情報を届けること。	Ⅱ-３-（１）
	ｅスポーツ	通称エレクトロニック・スポーツでコンピュータゲームをスポーツ・競技として捉える際の名称。	Ⅱ-４-（１）
	イマージョン教育	英語を教科として学ぶのではなく、英語はあくまで手段として理科や算数などの教科を、英語を媒介として学んでいく教育法。	Ⅰ-２-（２）
	親の学びあいプログラム	沖縄県が推奨する、学校や幼稚園、身近な地域でお互いに交流しながら、楽しく学び合うことができる参加型（ワークショップ型）学習プログラムのこと。	Ⅲ-１-（２）
カ	家庭学習チームシート	国頭地区における学力向上推進に係る取組の一つ。自主的に家庭学習に取り組めるように、学校ごとに学年単位、低・中・高学年単位等でチームを組み学校における実践事項をまとめたシートのこと。	Ⅰ-１-（１）
	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。	Ⅰ-１-（２）
	キャリアステージ	組織内における役割分担のレベルを示す基本的な考え方。	Ⅰ-１-（５）
	キャリアパスポート	自らの学習状況やキャリア形成見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価出来る様工夫されたポートフォリオのこと。	Ⅰ-１-（２）
	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのこと。	Ⅰ-２-（２）
サ	サービスポイント	利用者が図書館サービスを受ける場のこと。移動図書館「がじまる号」の巡回場所。	Ⅱ-２-（２）
	小一プロブレム	小学校へ入学したばかりの１年生が、話を聞かない、授業中椅子に座っていられないなど小学校生活になかなか馴染めない状態が数ヵ月継続する状態のこと。	Ⅰ-１-（５）
	ジョブシャドウイング	児童が企業の社員に半日又は１日、密着し職場での仕事について観察して学ぶ取り組みのこと。	Ⅰ-１-（２）
	シンポジウム	一つの問題について何人かが異なる面から意見を述べ合い、質疑応答を繰り返す形の討論会。	Ⅱ-１-（３）
	スタートカリキュラム	小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第１学年入学当初の教育課程のこと。	Ⅰ-１-（５）
	スポーツコンベンション	屋内、屋外競技の全般を対象とし、コンベション（大会・集会）という視点からスポーツにおけるキャンプ、合宿、大会、イベント、試合、自主トレなどが含まれる。	Ⅱ-５-（３）

	ソーシャルスキル	社会の中で普通に他人と交わり、共に生活していくために必要な能力。	Ⅰ-1-(5)
タ	チュックボール	弾力のあるネットに、ボールをシュートしあうゲームで、ハンドボールによく似たスポーツのこと。	Ⅱ-5-(1)
	通級	特別支援教育の制度の一つで、軽度の障害がある児童が通常の学級に在籍していながら、通級指導教室で特別の教育を受けることの出来る制度のこと。	Ⅰ-1-(3)
	TT 授業	チーム・ティーチングの略で複数の教員が役割を分担し協力し合いながら指導計画を立て指導する方式のこと。	Ⅰ-2-(2)
	デジタル教科書	紙の教科書の内容全てを電子黒板やタブレットなどにデジタル化した教材。	Ⅰ-2-(1)
	統合型校務支援システム	教務系、保健系、学校事務系など統合した機能を有しているシステムを指し、広く「校務」と呼ばれる業務全般となる機能を実施したシステムのこと。	Ⅰ-2-(2)
	特別支援教育	障害のある児童の自立や主体的な取組を支援し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育のこと。	Ⅰ-1-(3)
ナ	乗り入れ授業	小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ行って授業を教えること。	Ⅰ-2-(2)
ハ	保幼こ小	保育園・幼稚園・認定こども園・小学校	Ⅰ-1-(5)
	フィールドワーク	現地を実際に訪れ直接観察したり、関係者に聞き取り調査を行うなどして、現地での資料採取を行うこと。	Ⅱ-1-(2)
	ブックスタート	赤ちゃんとその保護者に絵本の読み聞かせ体験と絵本１冊をプレゼントすること。	Ⅱ-2-(1)
	ベストリーダー	よく読まれた本、貸し出しの多かった本のこと。	Ⅱ-2-(1)
ヤ	やーなれー運動	沖縄県が推奨する、家庭、学校、地域が連携し、家庭教育力の向上を図る運動のこと。 「やーなれーる　ふかなれー」: 家庭でのしつけや習慣が外に出たときのかがみになるという意味を持ち、こどもの健やかな成長にとって家庭教育は大切だということ。	Ⅲ-1-(2)
	幼保連携型認定こども園	幼稚園機能と保育所機能の両方を合わせて持つ単一の施設で小学校就学前の子供の教育・保育・子育て支援を一体的に提供する施設。	Ⅰ-1-(5)
ラ	レファレンスサービス	図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が利用者の調べ物をサポートする業務。	Ⅱ-2-(1)
ワ	ワークショップ	参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習。	Ⅱ-3-(1)